

2025年12月の地震活動の評価

1. 主な地震活動

- 12月8日に青森県東方沖でマグニチュード (M) 7.5 の地震が発生し、岩手県の久慈港で 64cm、北海道の浦河で 50cm (いずれも暫定値) の津波を観測した。この地震により、青森県で最大震度 6 強を観測し、負傷者が出るなどの被害を生じた。また、青森県三八上北で長周期地震動階級 3 を観測した。

2. 各領域別の地震活動

(1) 北海道地方

- 12月2日に釧路沖 (※1) の深さ約 45km で M5.2 の地震が発生した。この地震の発震機構は北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。
- 12月20日に根室半島南東沖の深さ約 15km で M5.4 の地震が発生した。この地震の発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。

(2) 東北地方

- 12月8日に青森県東方沖の深さ約 55km で M7.5 の地震が発生した。この地震の発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。

G N S S 観測によると、今回の地震に伴って、青森県下北郡東通 (ひがしどおり) 村の東通 2 観測点では、東方向に約 9 cm の変動及び約 2 cm の沈降が検出されるなど、青森県を中心に地殻変動が観測された。

岩手県の久慈港で 64cm、北海道の浦河で 50cm (いずれも暫定値) の津波など、北海道から東北地方で津波を観測したほか、日本海溝海底地震津波観測網 (S-net) でも津波を観測した。S-net の水圧データから推定した津波波源域は、M7.5 の地震の震央からおおよそ東方向に 100km 程度広がっている。

G N S S 観測によると、M7.5 の地震の後、およそ 1 か月間で、東通 2 観測点で東方向に約 2 cm 変動するなど、青森県東部を中心に余効変動と考えられる水平変動が観測されている。なお、この変動には 12 月 12 日に発生した M6.9 の地震に伴う変動も含まれている。

12 月 12 日には、M7.5 の地震の震央から東方向に約 50km 程度の場所で、M6.9 の地震が発生するなど地震活動が一時的に活発になった。M7.5 の地震発生直後と比べ、地震回数は減少してきているものの、12 月 31 日までに最大震度 1 以上を観測した地震が 50 回発生するなど、地震活動は継続している。地震活動域は、M7.5 の地震の震央からおおよそ東方向に 100km 程度広がっている。さらに、M7.5 の地震の発生以降、地震活動域よりも東の領域で浅部超低周波地震及び微動が発生している。

12 日に発生した M6.9 の地震は、同規模の地震が続けて発生しやすい領域 (続発領域) 内で発生している。過去の事例では、続発領域内で大きな地震が発生し

た場合は、規模の近い地震や、より規模の大きな地震が続発しやすい傾向がある。
○ 12月31日に岩手県沖の深さ約30kmでM6.1の地震が発生した。この地震の発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。

今回の地震の北には12月8日の青森県東方沖（M7.5）の地震活動が、南東側には11月9日の三陸沖（M6.9）の地震活動が見られる。

（３）関東・中部地方

○ 12月12日に茨城県南部の深さ約50kmでM4.9の地震が発生した。この地震の発震機構は北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。

○ 12月14日に石川県西方沖（※２）の深さ約10kmでM4.9の地震が発生した。この地震の発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。この地震は2024年1月1日に石川県能登地方で発生したM7.6の地震の活動域の中で発生した地震である。

（４）近畿・中国・四国地方

目立った活動はなかった。

（５）九州・沖縄地方

○ 12月30日に奄美大島近海の深さ約20kmでM5.7の地震が発生した。この地震の発震機構は北北東－南南西方向に張力軸を持つ正断層型で、陸のプレート内で発生した地震である。

（６）南海トラフ周辺

○ 南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていない。

（７）その他の地域

○ 12月28日に台湾付近の深さ約90kmでM7.0の地震が発生した。この地震の発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ型で、フィリピン海プレート内部で発生した地震である。

今回の地震は、地震調査委員会が「日向灘及び南西諸島海溝周辺の地震活動の長期評価（第二版）（令和4年3月25日公表）」の「南西諸島北西沖の沈み込んだプレート内のやや深い地震の発生領域」で発生している。なお、長期評価では、この領域はM7.0～7.5程度の地震が30年以内に発生する確率はⅢランク（＊）で、海溝型地震の中では発生する確率が高いグループに分類されている。

補足（2026年1月1日以降の地震活動）

○ 1月6日10時18分に島根県東部の深さ約10kmでM6.4の地震が発生した。この地震の発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型で、地殻内で発生した地震である。

G N S S観測によると、この地震に伴い、わずかな地殻変動が観測された。

今回の地震の震央付近では、5日からM3.3の地震などの微小地震活動が見られた。また、M6.4の地震発生後の6日10時28分にM5.1、10時37分にM5.5の地震が発生するなど、M5.0を超える地震が発生したほか、1月6日から12日までに震度1以上を観測した地震が51回発生するなど、東西10kmにわたって地震活動が活発な状態が継続している。

今回の地震は、地震調査委員会の「中国地域の活断層の長期評価（第一版）」の北部区域内で発生した。この区域は、活断層は少ないが、地震活動は比較的活発な地域として評価している。

今回の地震の周辺では、1989年10月に鳥取県西部で発生したM5.3の地震の6日後にM5.5の地震が発生した。また、1990年11月に鳥取県西部で発生したM5.1の地震の1分後にM4.8の地震が、2日後にM5.2の地震が、10日後にM5.1の地震が発生するなど続発した事例がある。

※：海溝型地震における今後30年以内の地震発生確率が26%以上を「Ⅲランク」、3%～26%未満を「Ⅱランク」、3%未満を「Ⅰランク」、不明（過去の地震データが少ないため、確率の評価が困難）を「Xランク」と表記している。

※1：気象庁が情報発表に用いた震央地名は「根室半島南東沖」である。

※2：気象庁が情報発表に用いた震央地名は「能登半島沖」である。

注：GNSSとは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称である。

2025年12月の地震活動の評価についての補足説明

令和8年1月14日
地震調査委員会

1. 主な地震活動について

2025年12月の日本及びその周辺域におけるマグニチュード（M）別の地震の発生状況は以下のとおり。

M4.0以上及びM5.0以上の地震の発生は、それぞれ170回（11月は149回）及び28回（11月は35回）であった。また、M6.0以上の地震の発生は6回（11月は4回）であった。

なお、上記の月回数のうち、青森県東方沖で発生した地震は、M4.0以上、M5.0以上、M6.0以上のそれぞれについて、53回、13回、5回であった。また、台湾付近で発生した地震は、それぞれ13回、3回、1回であった。

- （参考） M4.0以上の月回数 81回（69-104回）
（1998-2017年の月回数の中央値、括弧の値は半数が入る範囲）
M5.0以上の月回数 10回（7-14回）
（1973-2017年の月回数の中央値、括弧の値は半数が入る範囲）
M6.0以上の月回数 1回（0-2回）
（1919-2017年の月回数の中央値、括弧の値は半数が入る範囲）
M6.0以上の年回数 16回（12-21回）
（1919-2017年の年回数の中央値、括弧の値は半数が入る範囲）

2024年12月以降2025年11月末までの間、主な地震活動として評価文に取り上げたものは次のものがあつた。

— 日向灘	2025年1月13日	M6.6（深さ約35km）
— 福島県会津	2025年1月23日	M5.2（深さ約5km）
— 長野県北部	2025年4月18日	M5.1（深さ約15km）
— トカラ列島近海	2025年6月30日	M5.3
— トカラ列島近海	2025年7月2日	M5.1
— トカラ列島近海	2025年7月2日	M5.6
— トカラ列島近海	2025年7月3日	M5.5（深さ約10km）
— トカラ列島近海	2025年7月5日	M5.4
— トカラ列島近海	2025年7月6日	M4.9
— トカラ列島近海	2025年7月6日	M5.5
— トカラ列島近海	2025年7月7日	M5.1
— ロシア、カムチャツカ半島東方沖		
	2025年7月30日	M8.8
— トカラ列島近海	2025年9月17日	M4.7
— 根室半島南東沖	2025年10月25日	M5.8（深さ約40km）
— 三陸沖	2025年11月9日	M6.9（深さ約15km）
— 熊本県阿蘇地方	2025年11月25日	M5.8（深さ約10km）

2. 各領域別の地震活動

(1) 北海道地方

北海道地方では特に補足する事項はない。

(2) 東北地方

東北地方では特に補足する事項はない。

(3) 関東・中部地方

ー G N S S 観測によると、2022 年初頭から、静岡県西部から愛知県東部にかけて、それまでの傾向とは異なる地殻変動が観測されている。これは、渥美半島周辺から浜名湖周辺にかけてのフィリピン海プレートと陸のプレートの境界深部における長期的ゆっくりすべりに起因するものと考えられる。すべりの中心は渥美半島周辺から浜名湖周辺に移動している。

ー「12 月 14 日に石川県西方沖の深さ約 10km で M4.9 の地震が発生した。この地震の発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。この地震は 2024 年 1 月 1 日に石川県能登地方で発生した M7.6 の地震の活動域の中で発生した地震である。」：

2020 年 12 月以降の一連の地震活動については、『「令和 6 年能登半島地震」の最近の地震活動（令和 8 年 1 月 14 日公表）』を参照。

(4) 近畿・中国・四国地方

近畿・中国・四国地方では特に補足する事項はない。

(5) 九州・沖縄地方

ー 6 月 21 日からトカラ列島近海（小宝島付近）で地震活動が活発となり、7 月 3 日には M5.5 の地震が発生するなど、7 月 7 日までの間に最大震度 5 弱以上を観測した地震が 8 回発生した。その後、地震活動は 7 月 20 日頃から低下してきており、規模が大きな地震の回数も減少してきている。なお、12 月中に発生した最大規模の地震は 29 日に発生した M3.4 の地震であり、震度 1 以上を観測した地震は 10 回であった。これらの地震活動は陸のプレート内で発生した。

G N S S 観測によると、今回の一連の地震活動の活発化と共に、宝島や小宝島、悪石島で水平変動が観測されていたが、現在は鈍化している。

ー 7 月にトカラ列島近海（諏訪之瀬島付近）で地震活動が活発となり、12 月中に震度 1 以上を観測した地震が 10 回（震度 3：1 回、震度 2：2 回）発生した。このうち、最大規模の地震は 21 日に発生した M3.5 の地震である。

ー 11 月 25 日に熊本県阿蘇地方で M5.8 の地震が発生して以降、地震活動は減衰しつつも継続しており、12 月中に震度 1 以上を観測した地震は 14 回（震度 3：2 回、震度 2：5 回）発生した。このうち、最大規模の地震は 29 日に発生した M3.9 の地震である。

(6) 南海トラフ周辺

ー「南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていない。」：

（なお、これは、1 月 9 日に開催された定例の南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会における見解（参考参照）と同様である。）

（参考）南海トラフ地震関連解説情報について－最近の南海トラフ周辺の地殻活動－（令和 8 年 1

月 9 日気象庁地震火山部)

「現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時（注）と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

（注）南海トラフ沿いの大規模地震（M8 から M9 クラス）は、「平常時」においても今後 30 年以内に発生する確率が高い（詳細は「南海トラフの地震活動の長期評価（第二版一部改訂）」参照）と評価されており、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から約 80 年が経過していることから切迫性の高い状態です。

1. 地震の観測状況

（顕著な地震活動に関する現象）

南海トラフ周辺では、特に目立った地震活動はありませんでした。

（ゆっくりすべりに関係する現象）

プレート境界付近を震源とする深部低周波地震（微動）のうち、主なものは以下のとおりです。

- （1）紀伊半島西部：11 月 30 日から 12 月 7 日
- （2）四国西部：12 月 2 日から 12 月 13 日
- （3）四国西部：12 月 31 日から継続中

2. 地殻変動の観測状況

（ゆっくりすべりに関係する現象）

上記（1）から（3）の深部低周波地震（微動）とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計でわずかな地殻変動を観測しています。周辺の傾斜データでも、わずかな変化が見られています。また、深部低周波地震（微動）は観測されていませんが、以下のとおり、複数のひずみ計でわずかな地殻変動を観測しました。周辺の傾斜データでも、わずかな変化が見られました。

- （4）東海：12 月 12 日から 12 月 13 日

GNS S 観測によると、2022 年初頭から、静岡県西部から愛知県東部にかけて、それまでの傾向とは異なる地殻変動が観測されています。

（長期的な地殻変動）

GNS S 観測等によると、御前崎、潮岬及び室戸岬のそれぞれの周辺では長期的な沈降傾向が継続しています。

3. 地殻活動の評価

（ゆっくりすべりに関係する現象）

上記（1）から（3）の深部低周波地震（微動）と地殻変動、及び上記（4）の地殻変動は、想定震源域のプレート境界深部において発生した短期的ゆっくりすべりに起因するものと推定しています。

2022 年初頭からの静岡県西部から愛知県東部にかけての地殻変動は、渥美半島周辺から浜名湖周辺にかけてのプレート境界深部における長期的ゆっくりすべりに起因するものと推定しています。この長期的ゆっくりすべりは、すべりの中心が渥美半島周辺から浜名湖周辺に移動しています。

これらの深部低周波地震（微動）、短期的ゆっくりすべり、及び長期的ゆっくりすべりは、それぞれ、従来からも繰り返し観測されてきた現象です。

（長期的な地殻変動）

御前崎、潮岬及び室戸岬のそれぞれの周辺で見られる長期的な沈降傾向はフィリピン海プレート沈み込みに伴うもので、その傾向に大きな変化はありません。

上記観測結果を総合的に判断すると、南海トラフ地震の想定震源域ではプレート境界の固着状況に特段の変化を示すようなデータは得られておらず、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。」

参考 1 「地震活動の評価」において掲載する地震活動の目安

- ①M6.0 以上または最大震度が 4 以上のもの。②内陸 M4.5 以上かつ最大震度が 3 以上のもの。
- ③海域 M5.0 以上かつ最大震度が 3 以上のもの。

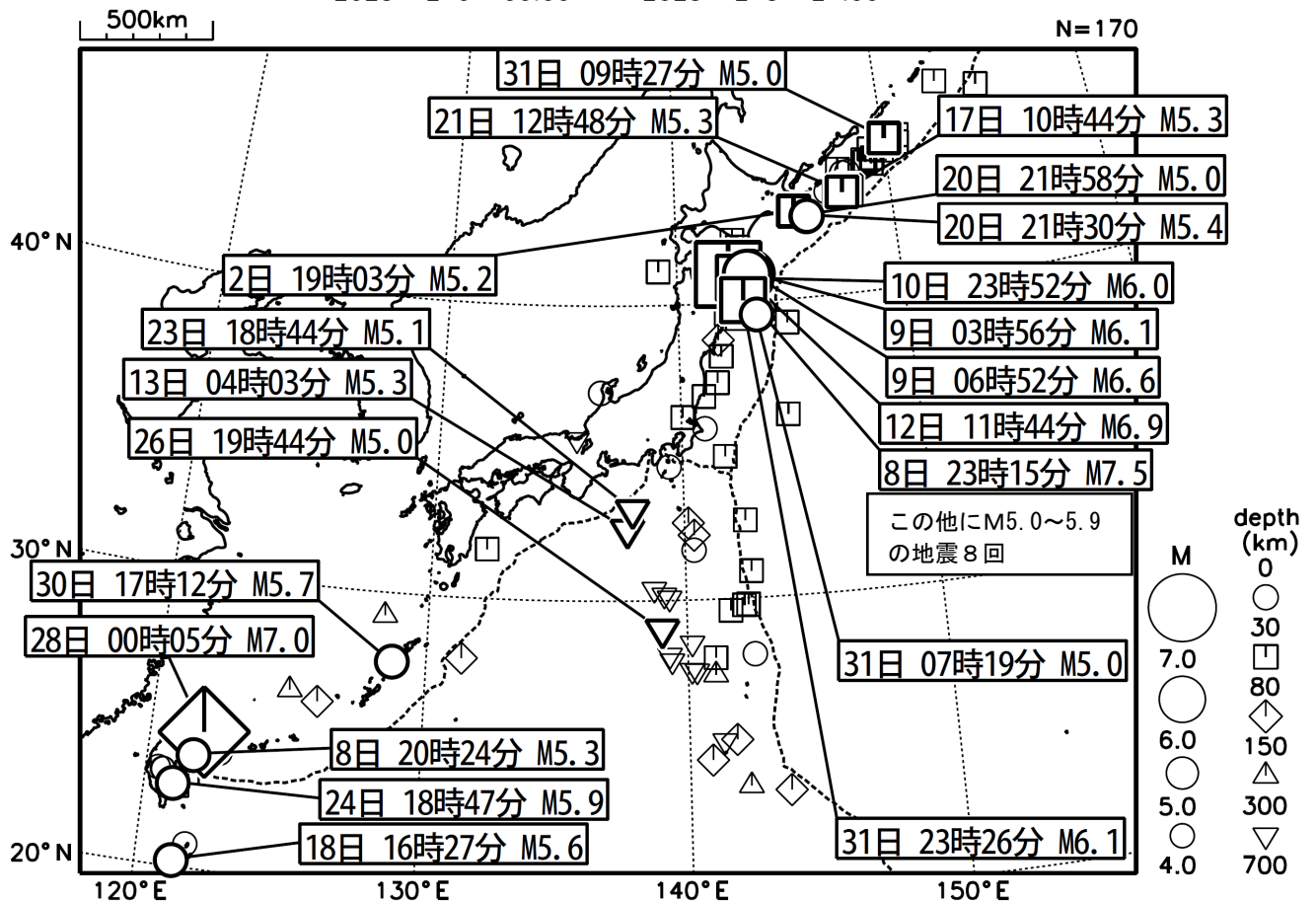
参考 2 「地震活動の評価についての補足説明」の記述の目安

- 1 「地震活動の評価」に記述された地震活動に係わる参考事項。
- 2 「主な地震活動」として記述された地震活動（一年程度以内）に関連する活動。
- 3 評価作業をしたものの、活動が顕著でなく、かつ、通常の活動の範囲内であることから、「地震活動の評価」に記述しなかった活動の状況。
- 4 一連で M6.0 以上が推定されたゆっくりすべりとそれに伴って発生した低周波地震(微動)。

2025 年 12 月の地震活動の評価に関する資料

2025 年 12 月の全国の地震活動 (マグニチュード 4.0 以上)

2025 12 01 00:00 -- 2025 12 31 24:00



- ・ 12 月 8 日 23 時 15 分に青森県東方沖で M7.5 の地震（最大震度 6 強）が発生した。
- ・ 12 月 9 日 03 時 56 分に青森県東方沖で M6.1 の地震（最大震度 3）が発生した。
- ・ 12 月 9 日 06 時 52 分に青森県東方沖で M6.6 の地震（最大震度 4）が発生した。
- ・ 12 月 10 日 23 時 52 分に青森県東方沖で M6.0 の地震（最大震度 4）が発生した。
- ・ 12 月 12 日 11 時 44 分に青森県東方沖で M6.9 の地震（最大震度 4）が発生した。
- ・ 12 月 28 日 00 時 05 分に台湾付近で M7.0 の地震（日本国内で観測された最大の揺れは震度 3）が発生した。
- ・ 12 月 31 日 23 時 26 分に岩手県沖で M6.1 の地震（最大震度 4）が発生した。

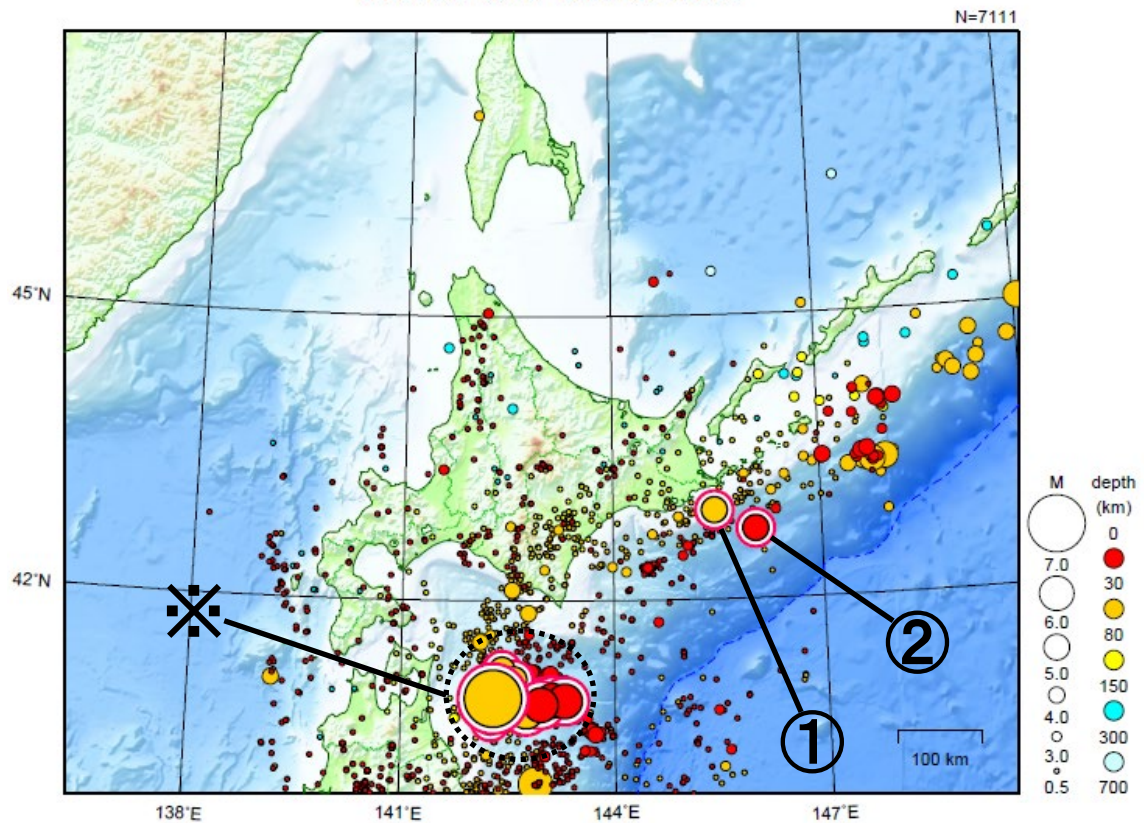
（上記期間外）

- ・ 1 月 6 日 10 時 18 分に島根県東部で M6.4 の地震（最大震度 5 強）が発生した。
- ・ 1 月 6 日 10 時 28 分に島根県東部で M5.1 の地震（最大震度 5 弱）が発生した。

〔図中に日時分、マグニチュードを付した地震は M5.0 以上の地震、または M4.0 以上で最大震度 5 弱以上を観測した地震である。ただし、青森県東方沖の一連の地震活動については、M6.0 以上の地震のみ表記している。また、上に表記した地震は M6.0 以上、または M4.0 以上で最大震度 5 弱以上を観測した地震である。〕

北海道地方

2025/12/01 00:00 ~ 2025/12/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

① 12月2日に釧路沖で M5.2 の地震（最大震度4）が発生した。

情報発表に用いた震央地名は〔根室半島南東沖〕である。

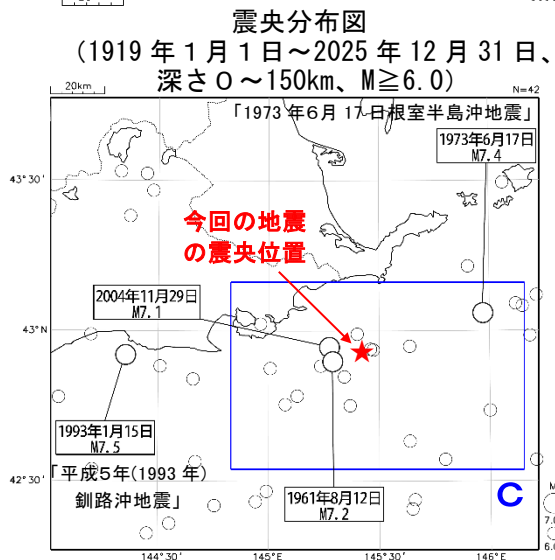
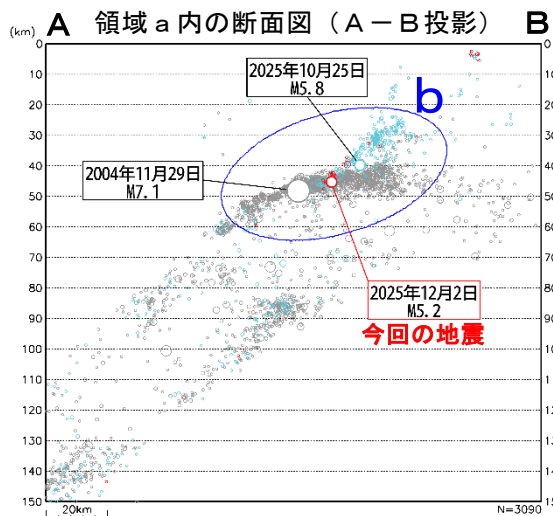
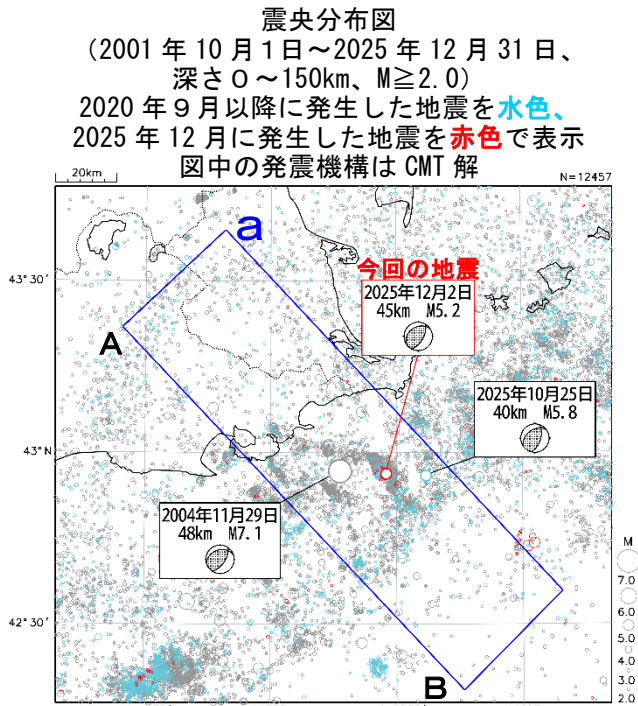
② 12月20日に根室半島南東沖で M5.4 の地震（最大震度3）が発生した。

※で示した地震については東北地方の資料を参照。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度4以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度3以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

12月2日 釧路沖の地震

情報発表に用いた震央地名は「根室半島南東沖」である。

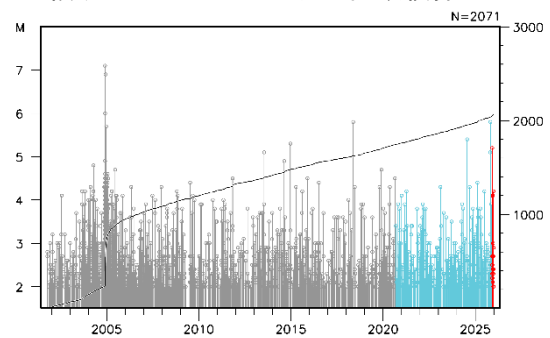


2025年12月2日19時03分に釧路沖の深さ45kmでM5.2の地震(最大震度4)が発生した。発震機構(CMT解)は北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。この周辺では、2025年10月25日にM5.8の地震(最大震度5弱)が発生した。

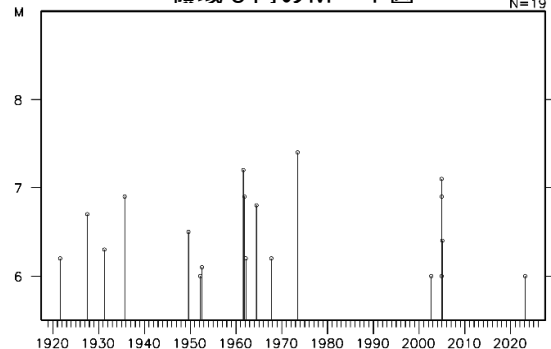
2001年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近(領域b)では、M5.0以上の地震が時々発生している。2004年11月29日に発生したM7.1(最大震度5強)の地震では、負傷者52人、住家被害5棟などの被害が生じ、根室市花咲で最大の高さ12cmの津波を観測するなど、北海道太平洋沿岸東部で小さな津波を観測した(被害は総務省消防庁による)。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域c)では、M7.0以上の地震が3回発生している。「1973年6月17日根室半島沖地震」(M7.4、最大震度5)では、根室・釧路地方で負傷者26人などの被害が生じ、根室市花咲で最大の高さ280cm(平常潮位からの最大の高さ)の津波を観測するなど、北海道から四国地方にかけての太平洋沿岸で津波を観測した(被害は「日本被害地震総覧」による)。

領域b内のM-T図及び回数積算図



領域c内のM-T図

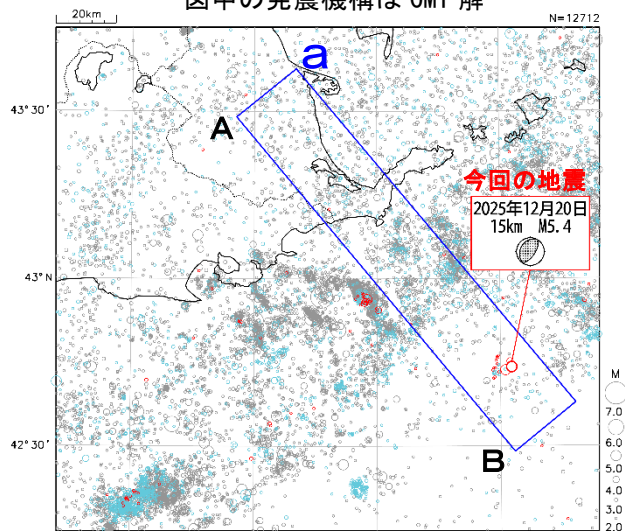


12月20日 根室半島南東沖の地震

震央分布図

(2001年10月1日～2025年12月31日、
深さ0～150km、 $M \geq 2.0$)

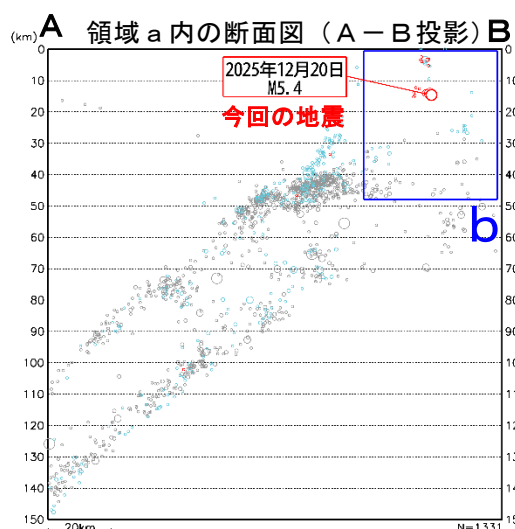
2020年9月以降に発生した地震を水色、
2025年12月に発生した地震を赤色で表示
図中の発震機構はCMT解



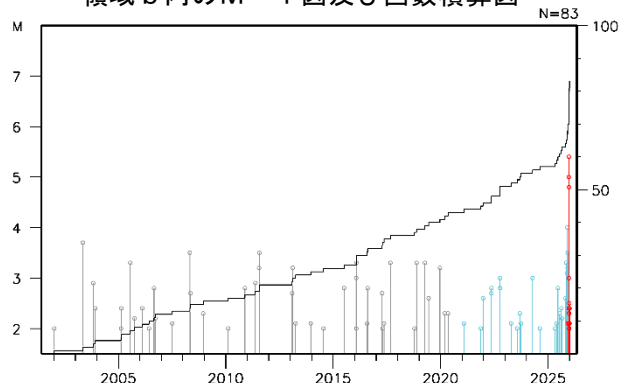
2025年12月20日21時30分に根室半島南東沖の深さ15kmで $M 5.4$ の地震 (最大震度3) が発生した。発震機構 (CMT解) は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

2001年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近 (領域b) では、 $M 4$ 程度の地震はまれに発生しているが、 $M 5.0$ 以上の地震は発生していなかった。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域c) では、 $M 7.0$ 以上の地震が1回発生している。「1973年6月17日根室半島沖地震」 ($M 7.4$ 、最大震度5) では、根室・釧路地方で負傷者26人などの被害が生じ、根室市花咲で最大の高さ280cm (平常潮位からの最大の高さ) の津波を観測するなど、北海道から四国地方にかけての太平洋沿岸で津波を観測した (被害は「日本被害地震総覧」による)。

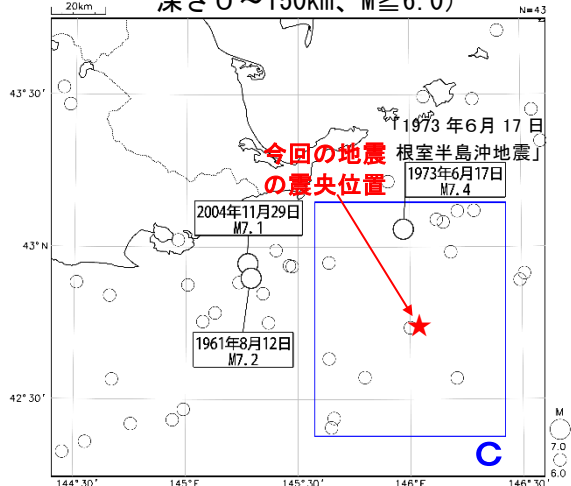


領域b内のM-T図及び回数積算図

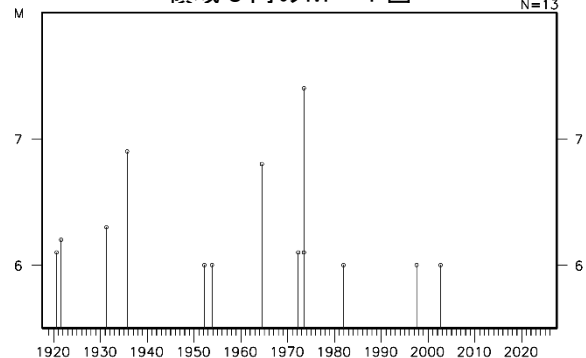


震央分布図

(1919年1月1日～2025年12月31日、
深さ0～150km、 $M \geq 6.0$)

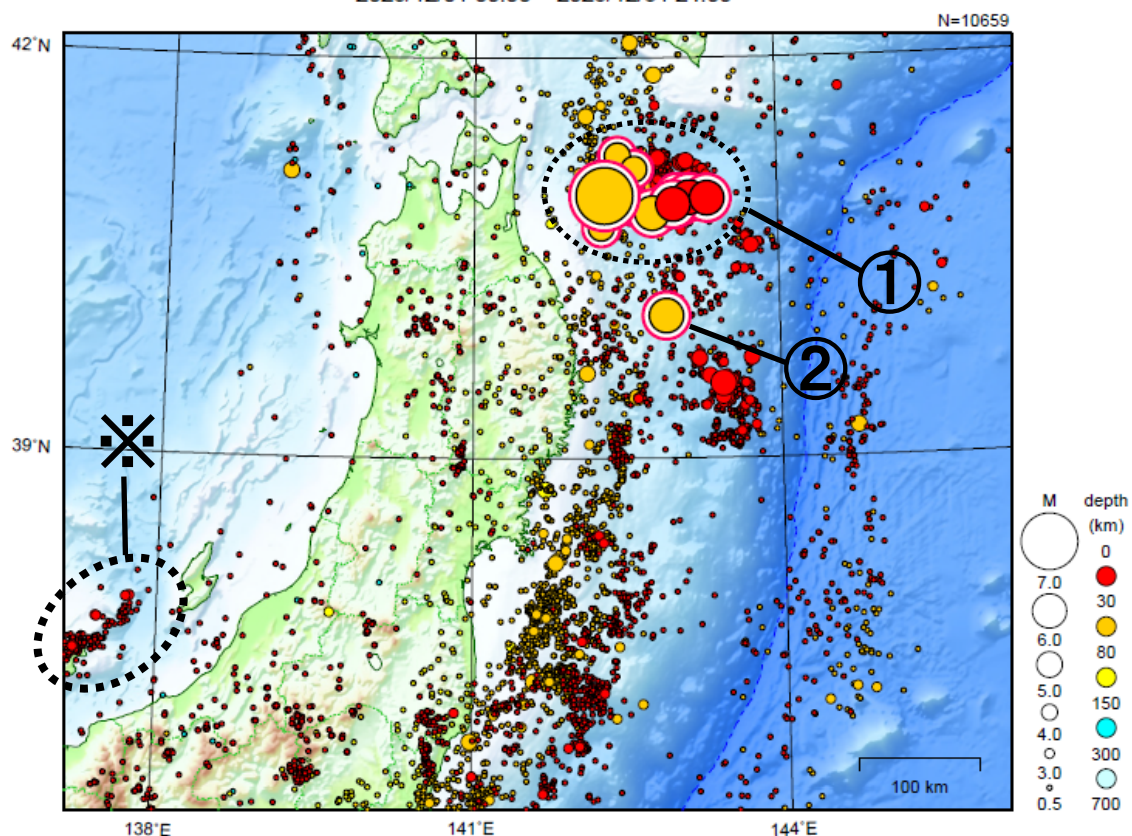


領域c内のM-T図



東北地方

2025/12/01 00:00 ~ 2025/12/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- ① 12月8日に青森県東方沖で M7.5 の地震（最大震度 6 強）が、12 日には M6.9 の地震（最大震度 4）が発生した。青森県東方沖では、8 日から 31 日までに震度 1 以上を観測した地震が 50 回（震度 6 強：1 回、震度 4：4 回、震度 3：6 回、震度 2：14 回、震度 1：25 回）発生した。
- ② 12月31日に岩手県沖で M6.1 の地震（最大震度 4）が発生した。

※で示した地震については関東・中部地方の資料を参照。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

●特集 青森県東方沖の地震活動

(1) 概要

2025年12月8日23時15分に青森県東方沖の深さ54kmでM7.5の地震が発生し、青森県八戸市で震度6強を観測したほか、北海道から近畿地方にかけて震度6弱～1を観測した。また、青森県三八上北で長周期地震動階級3を観測したほか、北海道から関東地方にかけて及び新潟県で長周期地震動階級2～1を観測した。この地震により、岩手県の久慈港^(注1)で64cm^(注2)、北海道の浦河^(注1)で50cm^(注2)など、北海道から東北地方にかけての太平洋沿岸を中心に津波を観測した。

気象庁はこの地震に対して、最初の地震波の検知から4.1秒後の23時15分24.0秒に緊急地震速報（警報）を発表した。また、同日23時17分に北海道太平洋沿岸中部、青森県太平洋沿岸及び岩手県に津波注意報を発表し、同日23時23分に北海道太平洋沿岸中部、青森県太平洋沿岸及び岩手県を津波警報に切り替えた。その後、9日02時45分に津波注意報に切り替えて、9日06時20分に津波注意報を解除した。

気象庁は、この地震について震源位置や規模を精査した結果、国の基本計画等に定められている、後発地震への注意を促す情報を発表する基準を満たしており、北海道の根室沖から東北地方の三陸沖にかけての巨大地震の想定震源域で大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられたことから、9日02時00分に北海道・三陸沖後発地震注意情報を発表した。

この地震は、発震機構（CMT解）が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

更に、12月12日11時44分に青森県東方沖の深さ17kmでM6.9の地震が発生し、北海道及び東北地方で震度4を観測したほか、北海道から中部地方にかけて震度3～1を観測した。また、秋田県内陸北部で長周期地震動階級2を観測したほか、北海道から東北地方にかけて長周期地震動階級1を観測した。この地震により、北海道のえりも町庶野で0.2m^(注2、注3)、青森県の八戸港^(注1)で14cm^(注2)など、北海道と青森県の太平洋沿岸で津波を観測した。気象庁はこの地震に対して、最初の地震波の検知から11.5秒後の11時44分31.4秒に緊急地震速報（警報）を発表した。また、同日11時52分に北海道太平洋沿岸中部、青森県太平洋沿岸、岩手県及び宮城県に津波注意報を発表し、その後、同日14時05分に津波注意報を解除した。この地震は、発震機構（CMT解）が東西方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

12月8日のM7.5及び12月12日のM6.9の地震発生後には、これらの地震の震源付近で地震活動が一時的に活発となった。その後、地震回数は減少してきているが、12月31日までに震度1以上を観測した地震が50回（震度6強：1回、震度4：4回、震度3：6回、震度2：14回、震度1：25回）発生するなど、地震活動は継続している。

これらの地震により、負傷者46人、住家全壊1棟、一部破損47棟などの被害が生じた（2025年12月16日15時00分現在、総務省消防庁による）。

これらの地震による被害状況を表1－1に、12月8日以降の最大震度別地震回数表を表1－2に、震度1以上の日別地震回数グラフを図1－1に、気象庁及び各地の気象台が発表した主な情報及び報道発表を表1－3～5に示す。

（注1）国土交通省港湾局の観測施設。

（注2）観測値は後日の精査により変更される場合がある。

（注3）巨大津波観測計により観測されたことを示す（観測単位は0.1m）。

表1－1 青森県東方沖の地震による被害状況
(2025年12月16日15時00分現在、総務省消防庁による)

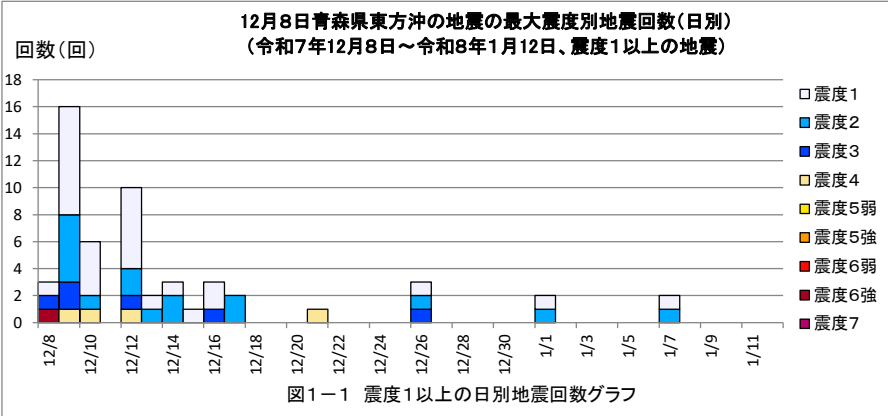
都道府県名	人 的 被 害				住 家 被 害		
	死者	行方不明者	負 傷 者		全壊	半壊	一部破損
			重傷	軽傷			
	人	人	人	人	棟	棟	棟
北海道			1	10			2
青森県			1	30	1		45
岩手県				4			
合 計			2	44	1		47

令和8年1月13日00時現在

12月8日青森県東方沖の地震の最大震度別地震回数表

表1ー2 震度1以上の日別最大震度別地震回数表(令和7年12月8日～令和8年1月12日)
(注)掲載している値は速報のもので、その後の調査で変更する場合があります。

日別	最大震度別回数										震度1以上を 観測した回数		備考
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7		回数	累計	
2025/12/8	1	0	1	0	0	0	0	1	0		3	3	
12/9	8	5	2	1	0	0	0	0	0		16	19	
12/10	4	1	0	1	0	0	0	0	0		6	25	
12/11	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	25	
12/12	6	2	1	1	0	0	0	0	0		10	35	
12/13	1	1	0	0	0	0	0	0	0		2	37	
12/14	1	2	0	0	0	0	0	0	0		3	40	
12/15	1	0	0	0	0	0	0	0	0		1	41	
12/16	2	0	1	0	0	0	0	0	0		3	44	
12/17	0	2	0	0	0	0	0	0	0		2	46	
12/18	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	46	
12/19	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	46	
12/20	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	46	
12/21	0	0	0	1	0	0	0	0	0		1	47	
12/22	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	47	
12/23	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	47	
12/24	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	47	
12/25	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	47	
12/26	1	1	1	0	0	0	0	0	0		3	50	
12/27	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	50	
12/28	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	50	
12/29	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	50	
12/30	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	50	
12/31	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	50	
2026/1/1	1	1	0	0	0	0	0	0	0		2	52	
1/2	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	52	
1/3	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	52	
1/4	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	52	
1/5	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	52	
1/6	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	52	
1/7	1	1	0	0	0	0	0	0	0		2	54	
1/8	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	54	
1/9	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	54	
1/10	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	54	
1/11	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	54	
1/12	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	54	
総計	27	16	6	4	0	0	0	1	0			54	



(2) 地震活動

ア. 地震の発生場所の詳細及び地震の発生状況

12月8日23時15分に青森県東方沖の深さ54kmでM7.5の地震(最大震度6強、図2-1中①)が発生した。この地震は、発震機構(CMT解)が西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。また、この地震の震央付近(領域b)で、12月12日11時44分に深さ17kmでM6.9の地震(最大震度4、図2-1中②)が発生した。発震機構(CMT解)は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

1997年10月以降の活動を見ると、領域bでは、2023年8月11日にM6.2の地震(最大震度4)が発生するなど、M6.0以上の地震がしばしば発生している。

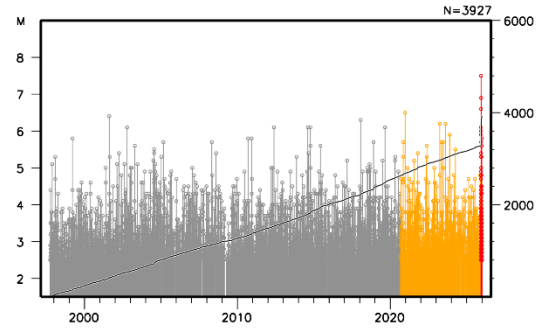
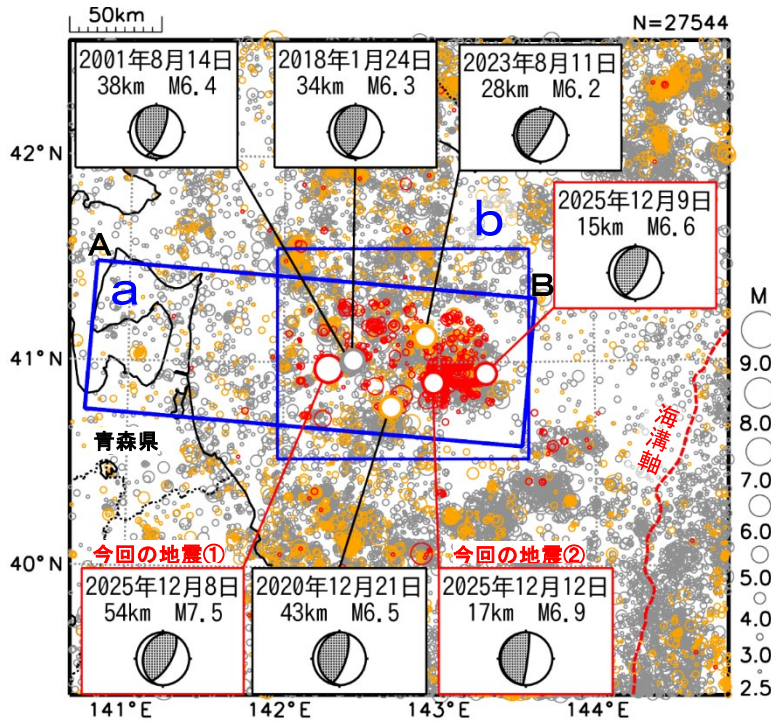


図2-2
領域bのM-T図及び回数積算図

図2-1 震央分布図(左図)
(1997年10月1日~2025年12月31日、
深さ0~160km、 $M \geq 2.5$)
○1997年10月1日~2020年8月31日
○2020年9月1日~2025年11月30日
○2025年12月1日以降
図中の発震機構はCMT解を示す

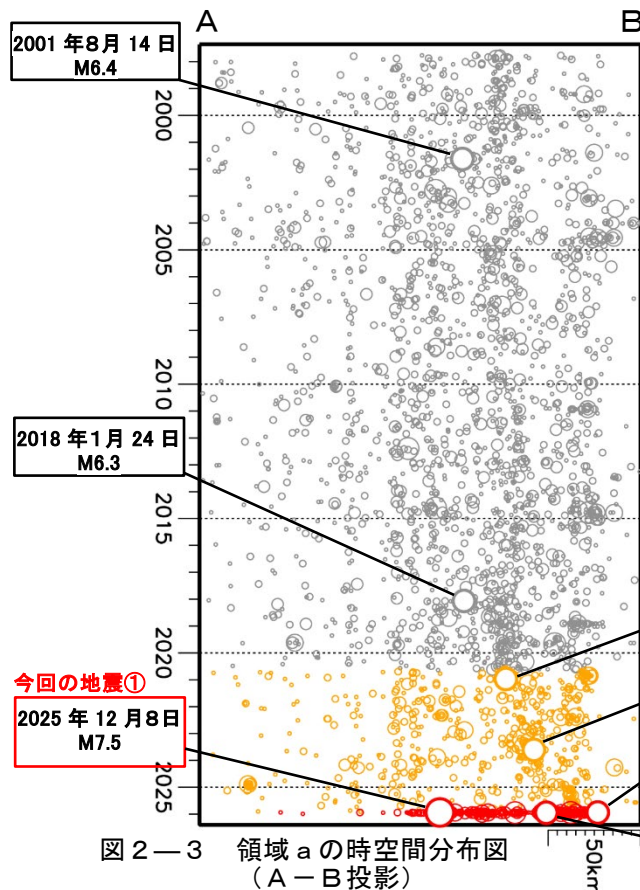


図2-3 領域aの時空間分布図
(A-B投影)

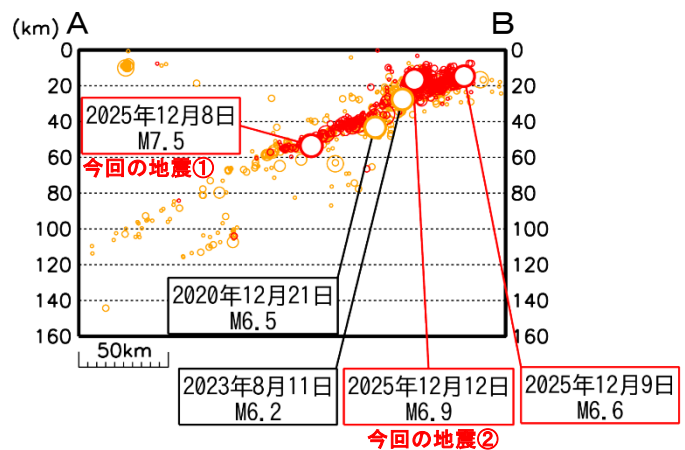


図2-4 領域aの断面図(A-B投影)
(2020年9月1日~2025年12月31日)

12月8日のM7.5の地震以降の活動をみると、震央付近（領域c）では12月9日には地震活動域の東端の深さ15kmでM6.6の地震が発生するなど、地震活動は当初は活発に推移しつつも徐々に収まりつつあった。その後、M7.5の地震の震央から東に約60km付近で、同月12日にM6.9の地震（最大震度4）が発生し、再び地震活動が活発となった。領域cでは、12月8日から31日までにM6.0以上の地震が5回発生した。

12月8日から12月31日までに震度1以上を観測した地震は50回（震度6強：1回、震度4：4回、震度3：6回、震度2：14回、震度1：25回）であった。

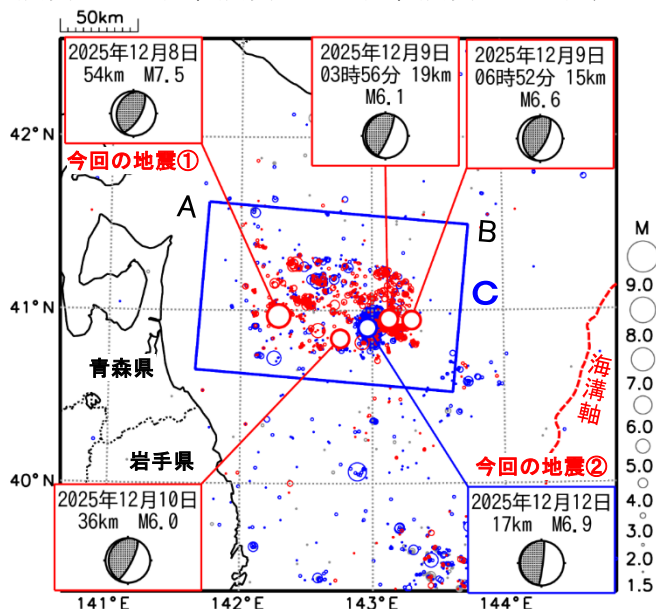


図2-5 震央分布図

(2025年12月1日～2025年12月31日、深さ0～80km、M≥1.5)

○2025年12月1日～2025年12月7日

○2025年12月8日～2025年12月11日

○2025年12月12日～2025年12月31日

図中の発震機構はCMT解を示す。

震源は○●○の順で描画。

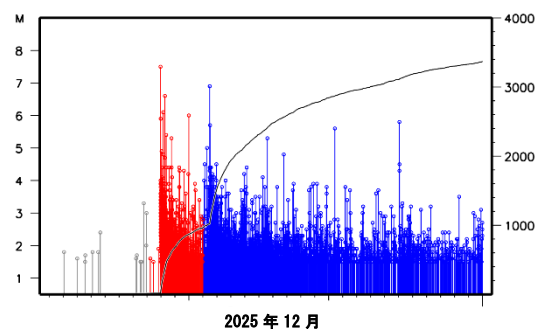


図2-6 領域c内のM-T図及び回数積算図

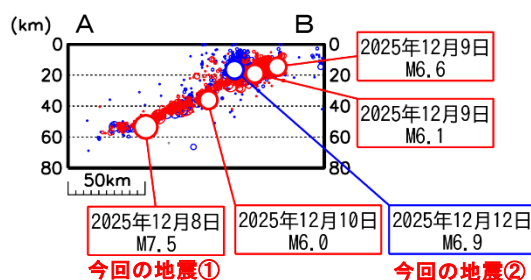


図2-7 領域c内の断面図（A-B投影）

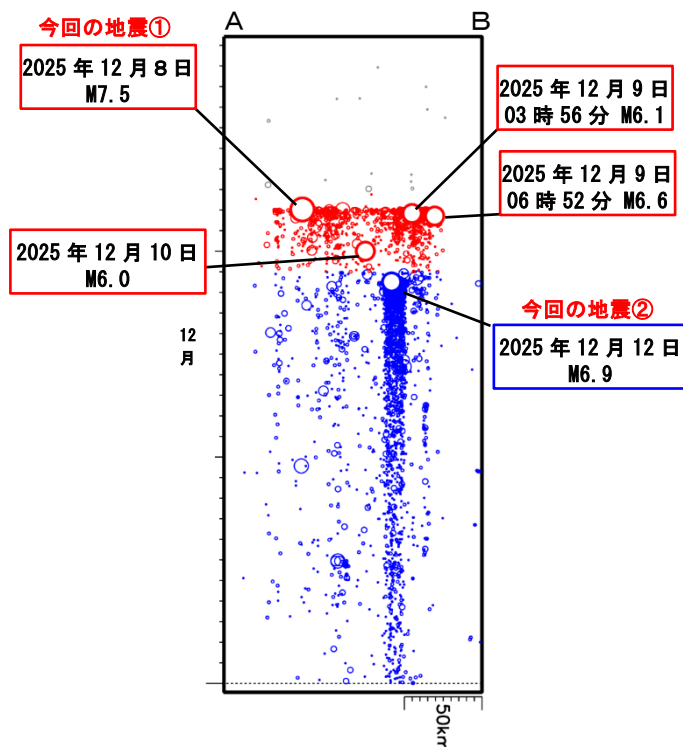


図2-8 領域c内の時空間分布図（A-B投影）

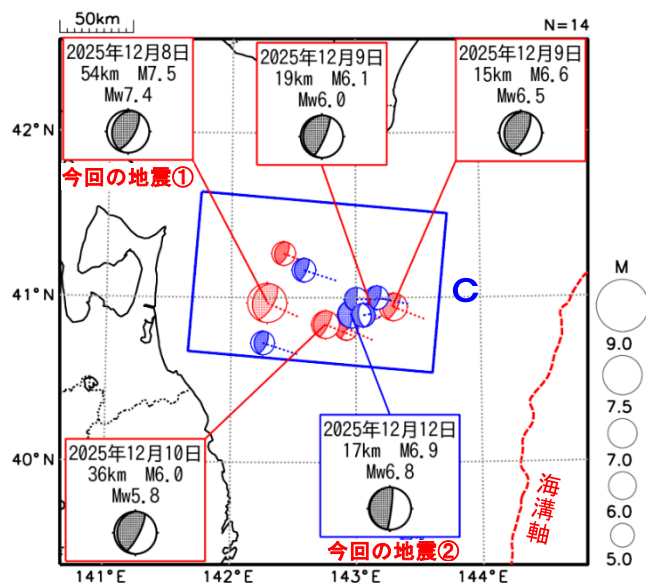


図2-9 震央分布図（CMT解）

(2025年12月1日～2025年12月31日、深さ0～80km、M≥5.0)

赤色 2025年12月8日～2025年12月11日

青色 2025年12月12日～2025年12月31日

震源球から伸びる軸は圧力軸を示す。

M6.0以上の地震に吹き出しを付けた。

Mwはモーメントマグニチュードを示す。

ウ. 過去の地震活動

(ア) 1919年以降の過去地震の発生概要

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域 f）では、M7 を超える地震が時々発生している。このうち、1968年5月16日には「1968年十勝沖地震」（M7.9、最大震度5）が発生し、青森県八戸〔火力発電所〕で295cm（平常潮位からの最大の高さ）の津波を観測したほか、死者52人、負傷者330人、住家全壊673棟、半壊3,004棟、一部破損15,697棟などの被害が生じた。

また、1994年12月28日には「平成6年（1994年）三陸はるか沖地震」（M7.6、最大震度6）が発生した。この地震により、青森県八戸と岩手県宮古で50cm（平常潮位からの最大の高さ）の津波を観測した（「駿震時報第64巻」による）ほか、死者3人、負傷者688人、住家全壊72棟、半壊429棟、一部破損9,021棟などの被害が生じた（被害は、いずれも「日本被害地震総覧」による）。

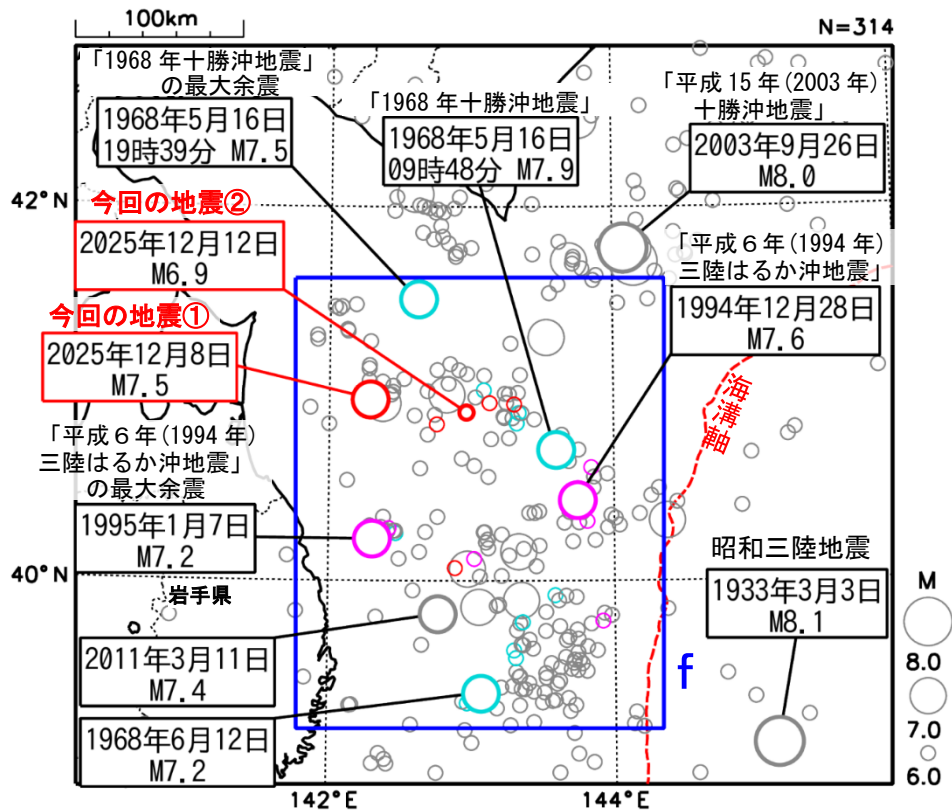


図2-12 震央分布図（1919年1月1日～2025年12月31日、深さ0～100km、M≥6.0

● 1968年5月16日～1968年7月31日 ● 1994年12月28日～1995年2月28日
● 2025年12月1日以降～ ○ 上記以外の期間

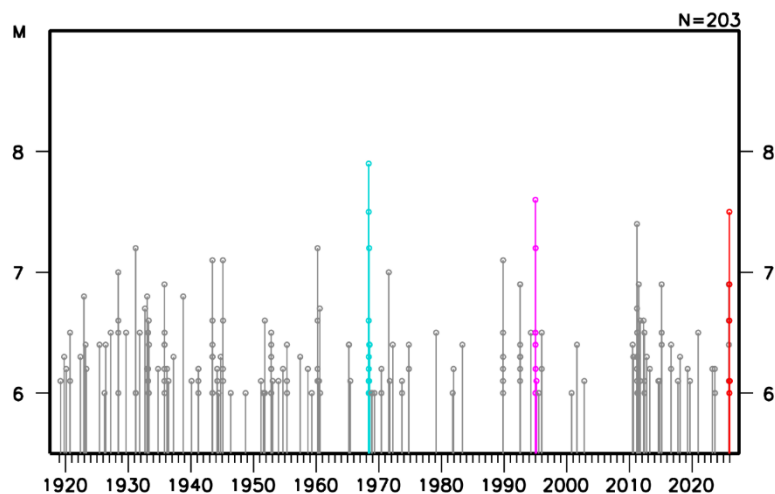


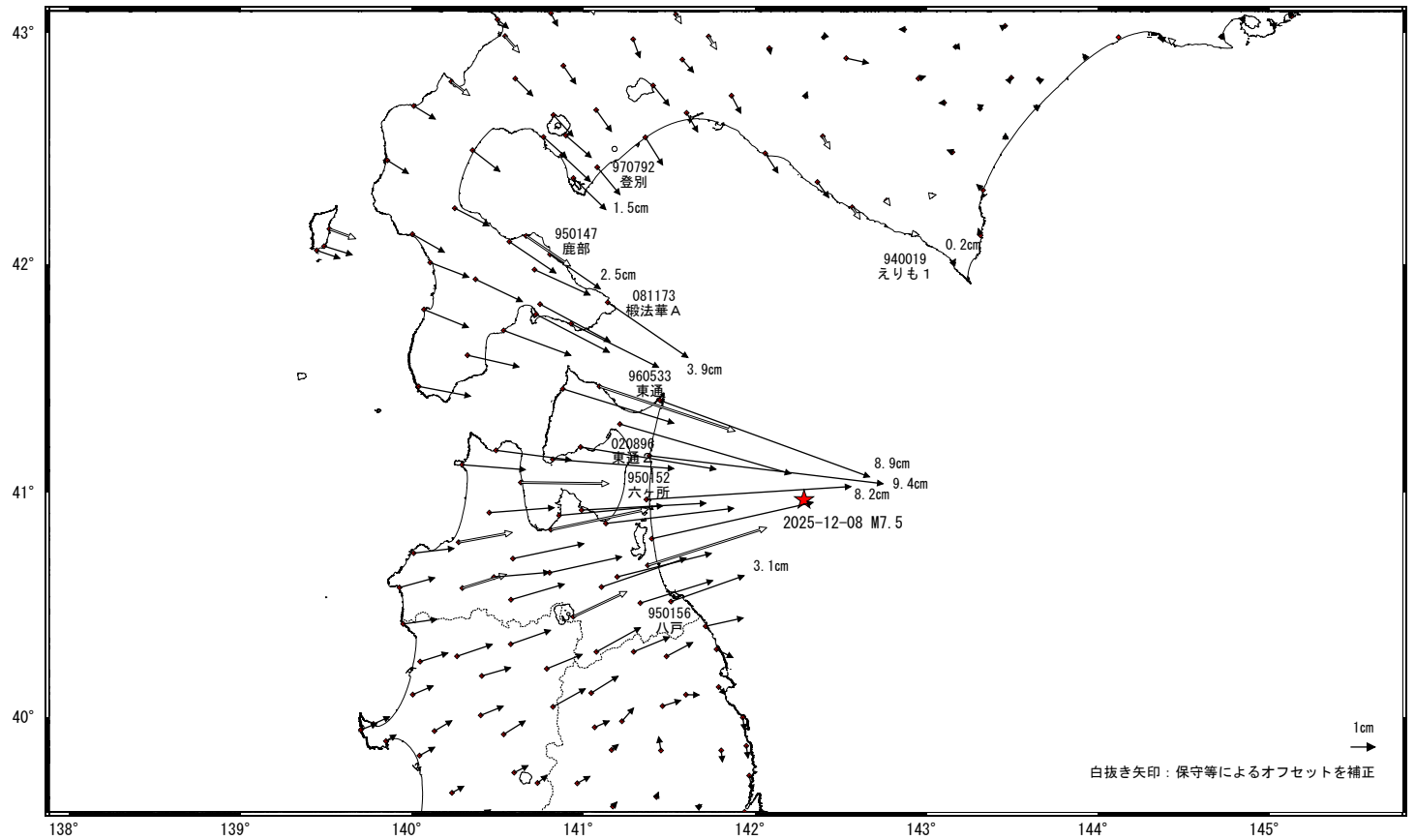
図2-13 領域f内のM-T図

青森県東方沖の地震(12月8日 M7.5)前後の観測データ(暫定)

この地震に伴い地殻変動が観測された。
地殻変動(水平)

基準期間: 2025-12-01 ~ 2025-12-07 [F5: 最終解]
比較期間: 2025-12-09 ~ 2025-12-09 [F5: 最終解]

計算期間: 2023-01-01 ~ 2025-01-01

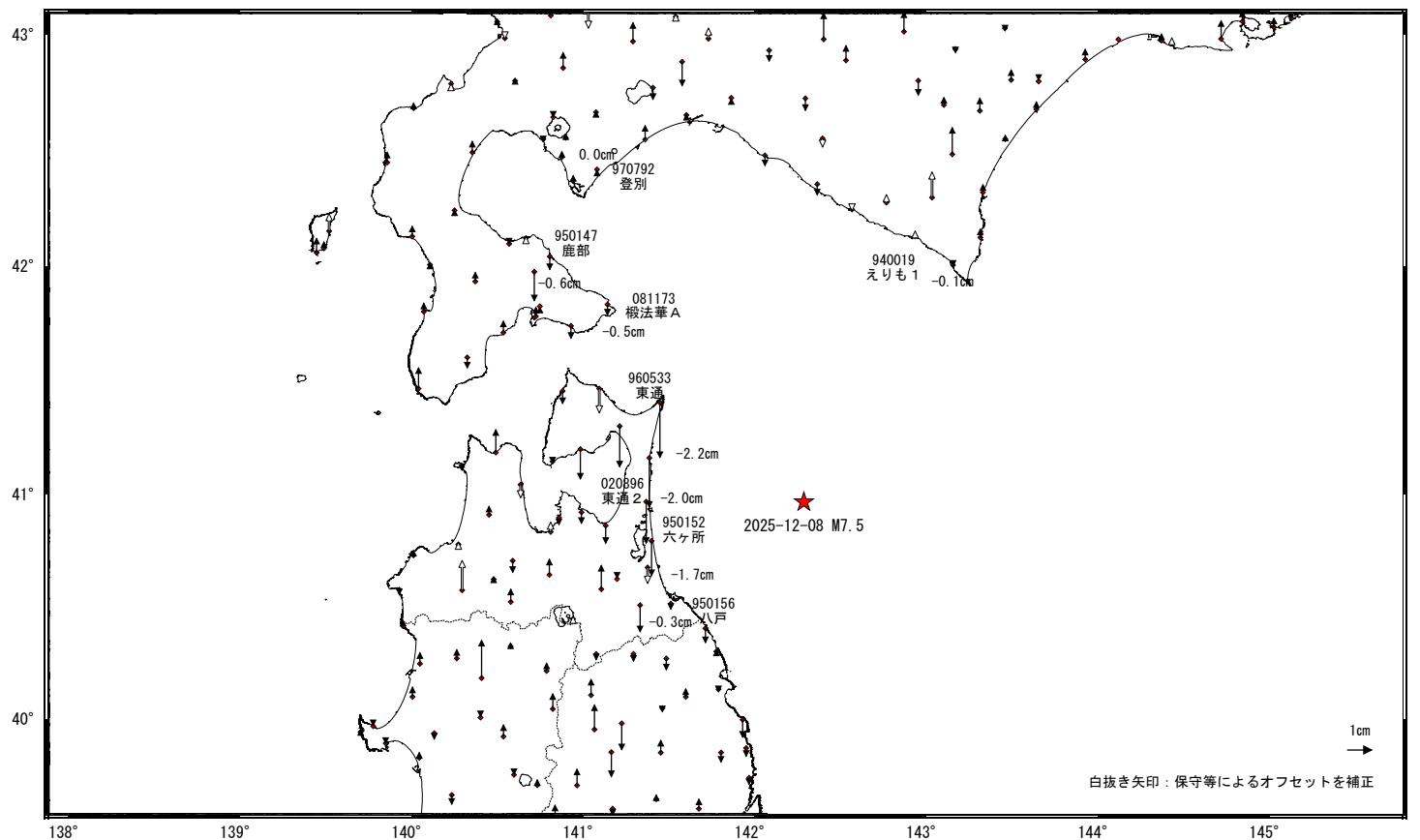


★ 震央
☆ 固定局: 猿払 (950101) (北海道)

地殻変動(上下)

基準期間: 2025-12-01 ~ 2025-12-07 [F5: 最終解]
比較期間: 2025-12-09 ~ 2025-12-09 [F5: 最終解]

計算期間: 2023-01-01 ~ 2025-01-01



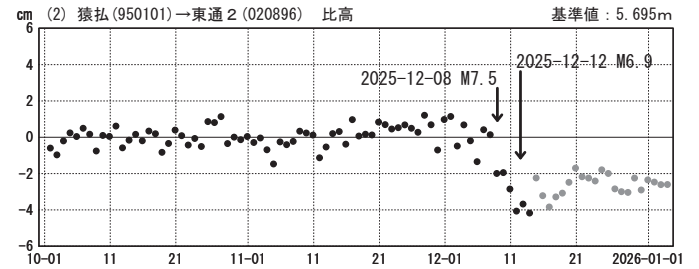
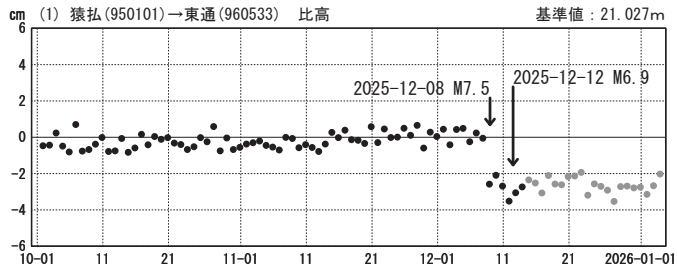
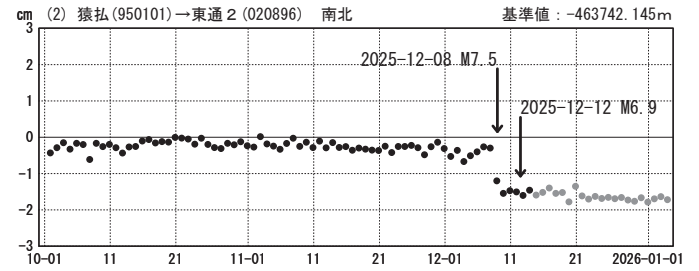
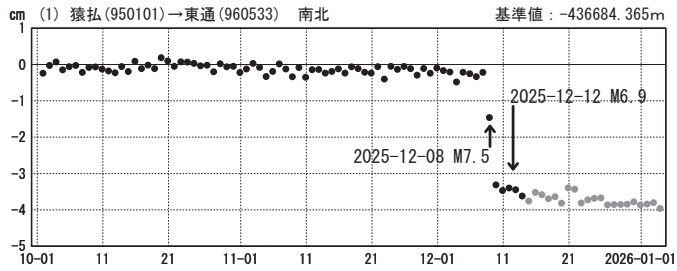
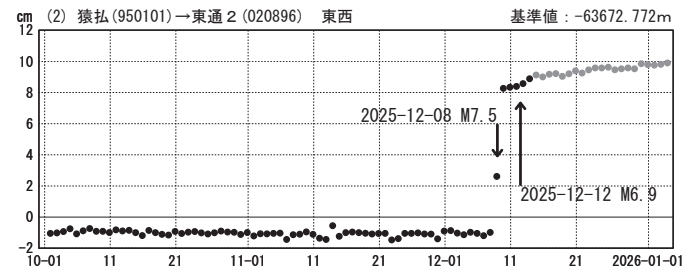
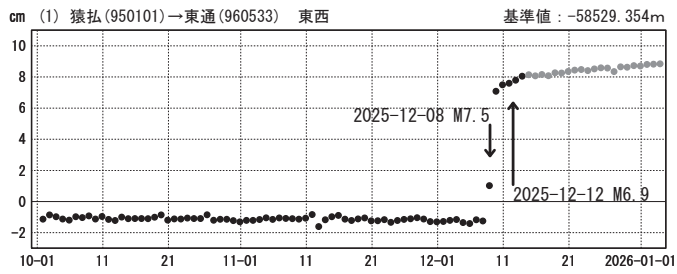
★ 震央
☆ 固定局: 猿払 (950101) (北海道)

1次トレンド除去後グラフ

計算期間: 2023-01-01~2025-01-01

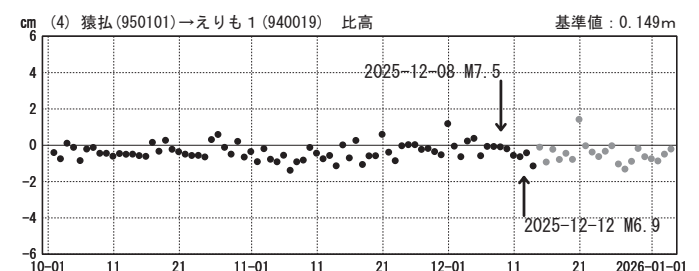
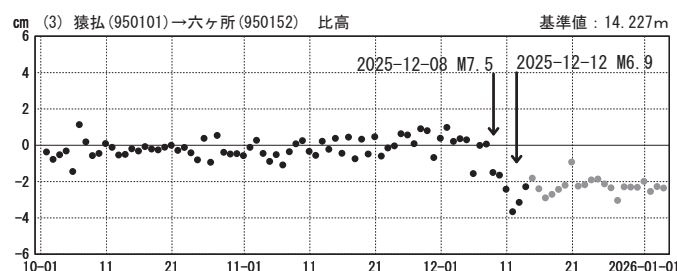
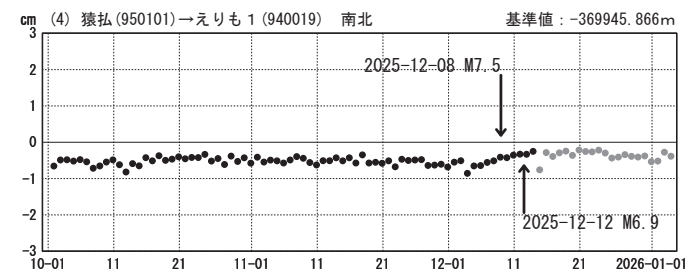
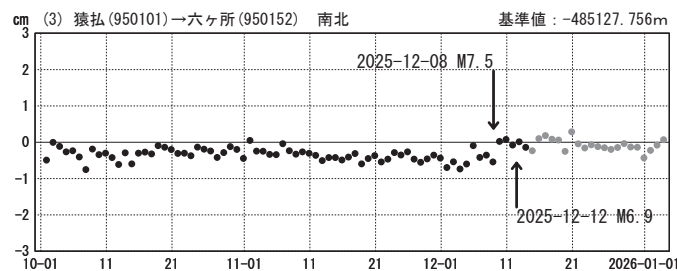
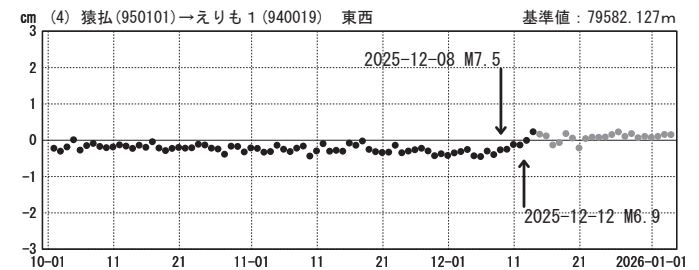
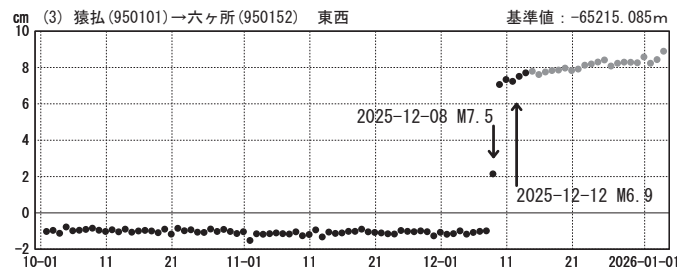
期間: 2025-10-01~2026-01-03 JST

期間: 2025-10-01~2026-01-03 JST



期間: 2025-10-01~2026-01-03 JST

期間: 2025-10-01~2026-01-03 JST



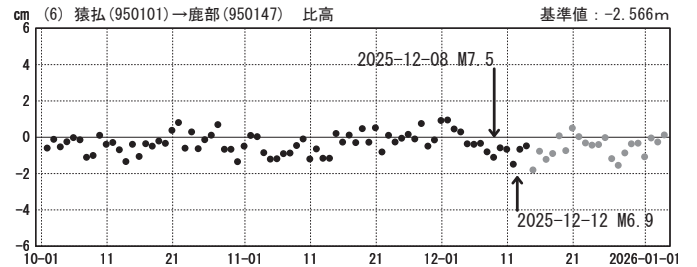
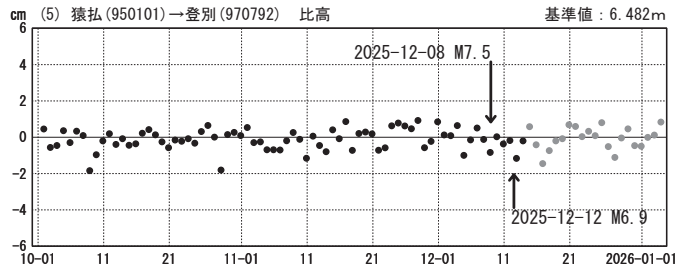
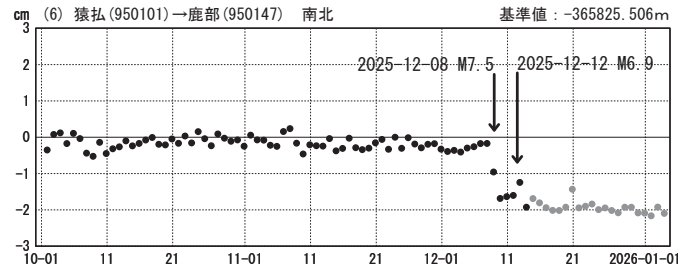
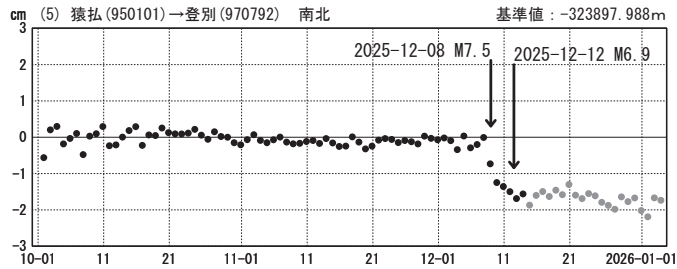
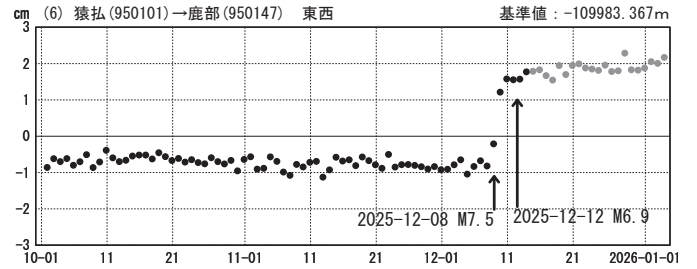
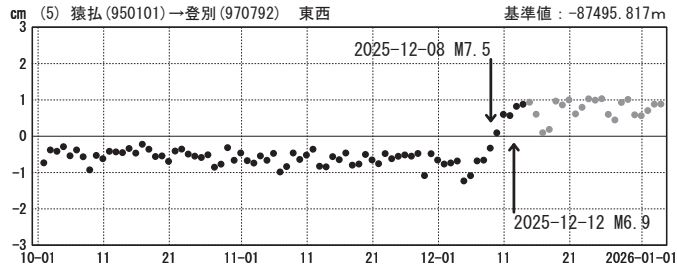
●—[F5:最終解] ●—[R5:速報解]

1次トレンド除去後グラフ

計算期間: 2023-01-01~2025-01-01

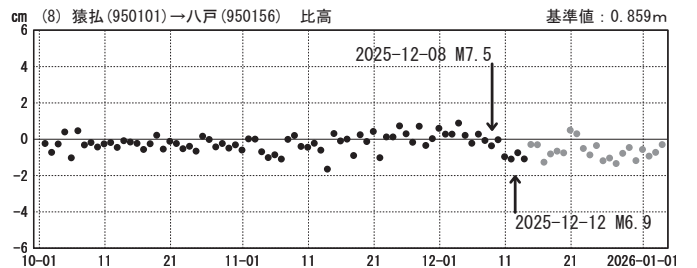
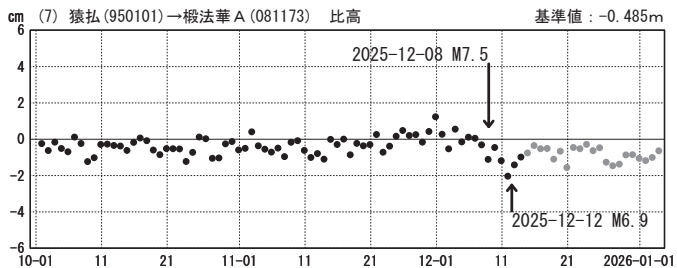
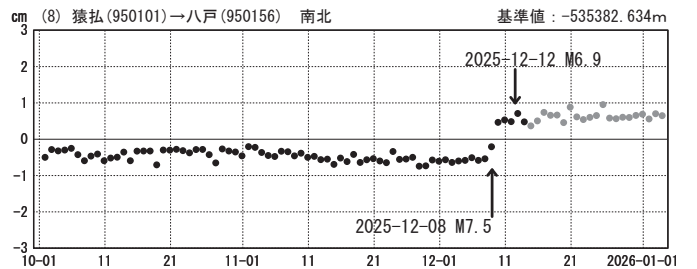
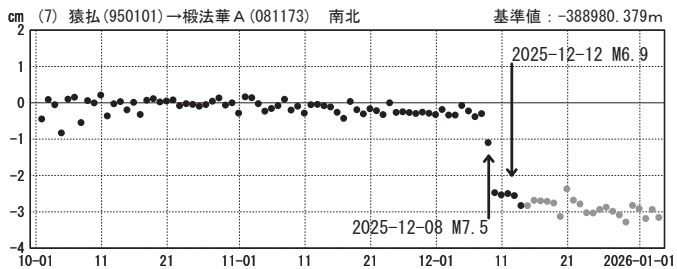
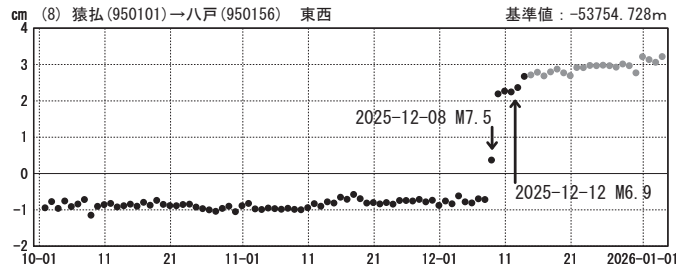
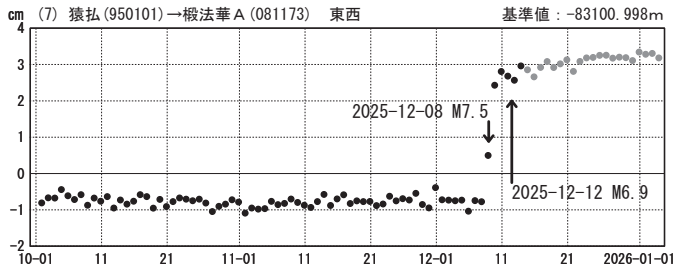
期間: 2025-10-01~2026-01-03 JST

期間: 2025-10-01~2026-01-03 JST



期間: 2025-10-01~2026-01-03 JST

期間: 2025-10-01~2026-01-03 JST



●—[F5:最終解] ●—[R5:速報解]

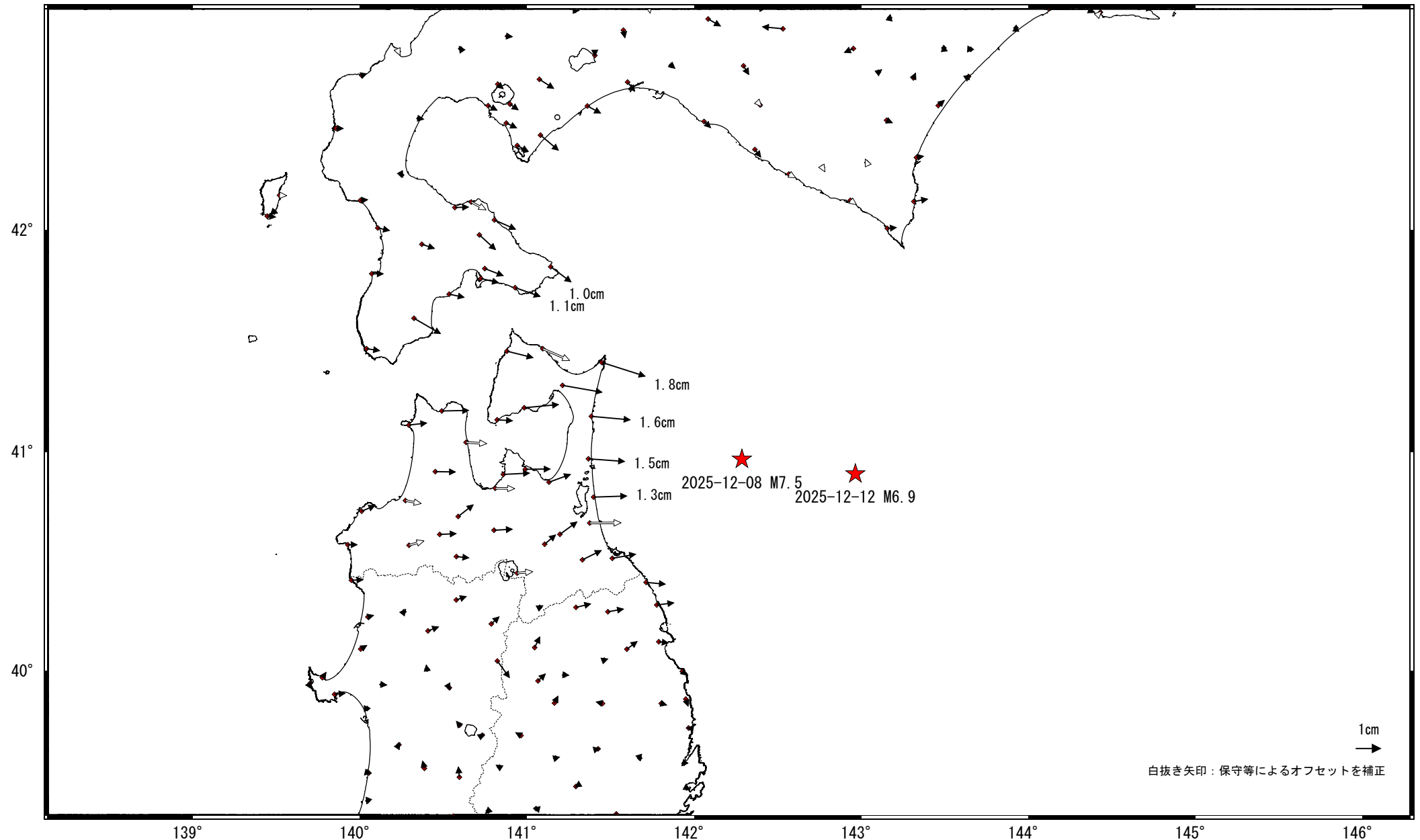
青森県東方沖地震（12月8日 M7.5）後の観測データ（暫定）

地殻変動（水平）

基準期間：2025-12-09～2025-12-09[F5:最終解]

比較期間：2026-01-01～2026-01-03[R5:速報解]

計算期間：2023-01-01～2025-01-01



S-net水圧データから推定した2025年12月8日青森県東方沖の地震における津波波源分布

Tsunami source distribution of an earthquake offshore east of Aomori Prefecture on 8 December 2025 based on S-net pressure data

2025年12月8日に発生した青森県東方沖の地震 (M_{JMA} 7.5) において、S-netの水圧計が津波を観測した。いくつかの観測点ではステップ状の水圧変化が観測された。水圧データの逆解析により津波波源分布を推定したところ、その分布はGlobal CMT解と断層スケーリング則から計算した海底上下変位分布よりも東西に広がった。計算波形は観測された水圧ステップ変化を再現しなかったことから、水圧ステップ変化は海底上下変位に由来するものではないと考えられる。

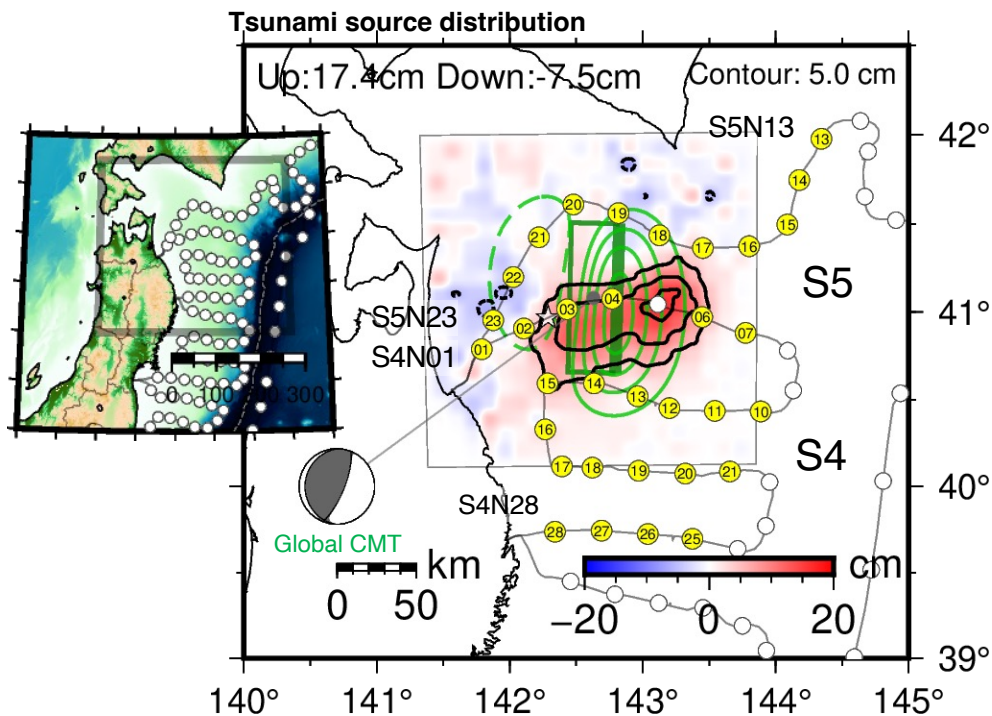
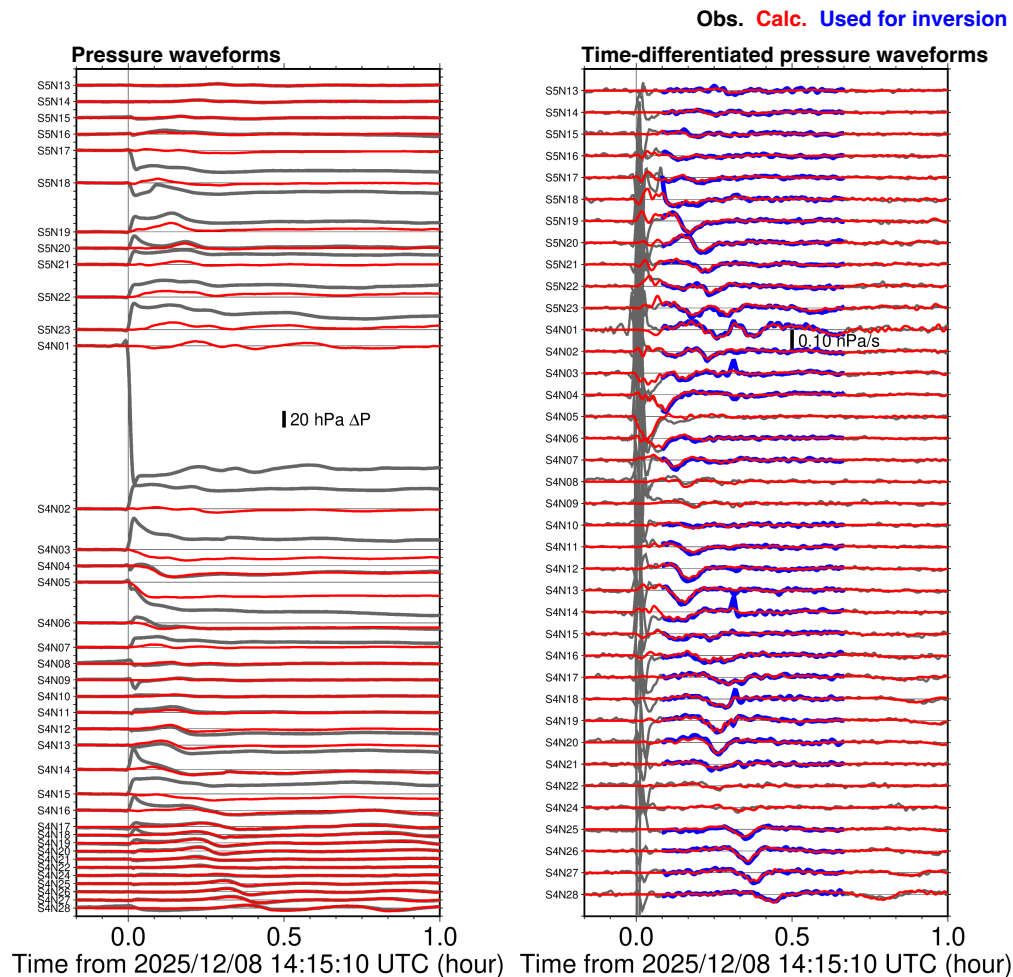


Fig. 1. (上) 推定された津波波源分布 (赤：隆起，青：沈降，コンター線間隔：5 cm)。Global CMT解と断層スケーリング則 (Wells & Coppersmith, 1994) から仮定した矩形断層およびそれによる海底上下変動を緑色で示す。星は気象庁の震央，丸は観測点を示す。解析ではKubota et al. (2018) の水圧時間微分波形の逆解析手法を用いた。逆解析に使用した観測点を黄色で示す。

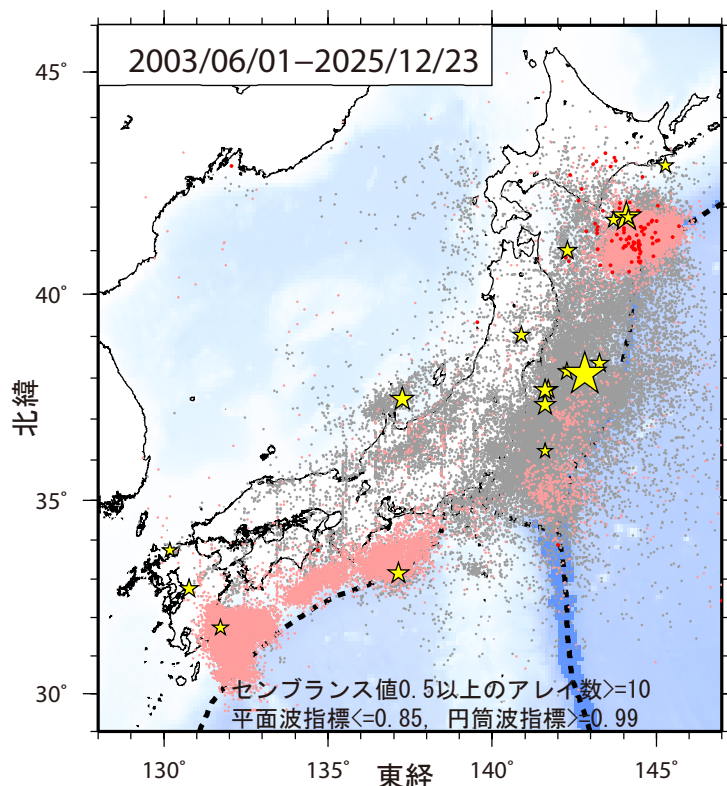
Fig. 2. (右) S-net水圧観測波形とその時間微分波形 (黒線)。青線の部分を逆解析に使用した。津波波源分布にもとづく計算波形を赤線で示す。横軸は地震発生からの経過時間。理論潮汐モデルNaotidej (Matsumoto et al. 2000) により潮汐を除去したのち、オフセットを含む観測点はローパスフィルタ (カットオフ100 s) を、それ以外はバンドパスフィルタ (100–3,600 s) を適用した。



2025年12月8日青森県東方沖の地震の周辺域における浅部超低周波地震活動

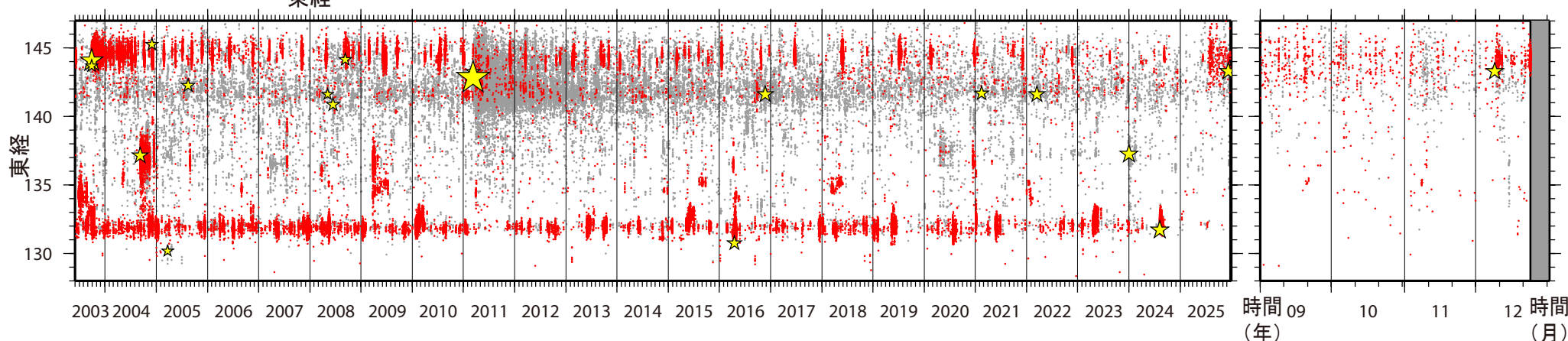
令和7年12月25日公表資料より抜粋

- 2025年12月8日の青森県東北沖の地震の発生後に
十勝沖およびその周辺域において超低周波地震活動を検出
- 検出イベントにはカムチャツカ半島付近の地震（7月30日）
などの遠地地震の後続波（海溝会合部付近は二次波源に
なりやすい）を誤検出したものも含まれる



第1図. 2003年6月1日から2025年12月23日までの期間にアレイ解析によって検出されたイベントの震央分布. 検出イベントを防災科研 Hi-net の手動または自動検測震源と照合し, 対応する地震が見出されたイベントを灰色で, それ以外を桃色 (2025年8月31日以前), および赤色 (9月1日以降) の点でそれぞれ示す. これらは主として周期10秒以上に卓越する超低周波地震を表すが, 除去しきれなかった通常地震やそれらの後続波源も一部含まれる. 期間内に発生した $M7$ 以上の地震 (ただし, 2011年~2015年の期間は東北地方太平洋沖地震の本震のみ) の震央を黄色星印で示す.

参考: 過去の提出資料では
「アレイ数 ≥ 15 」を基準として採用



第2図. 2003年6月1日から2025年12月23日までの期間 (左) および直近約4か月間 (右) に検出されたイベントの時空間分布. 検出されたイベントを防災科研 Hi-net 手動または自動検測震源と照合し, 対応する地震が見出されたイベントを灰色で, それ以外を赤色の点でそれぞれ示す. その他は第1図に同じ.

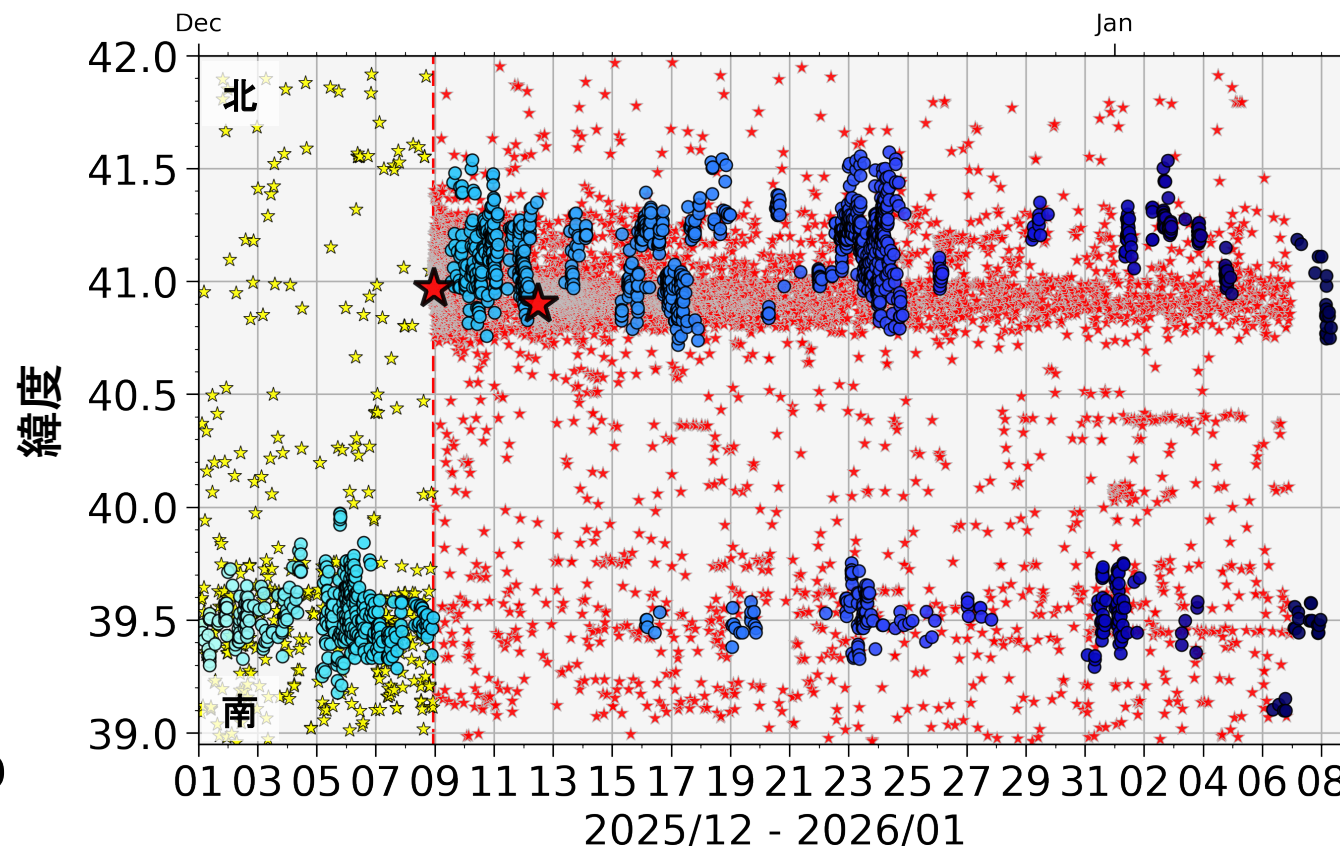
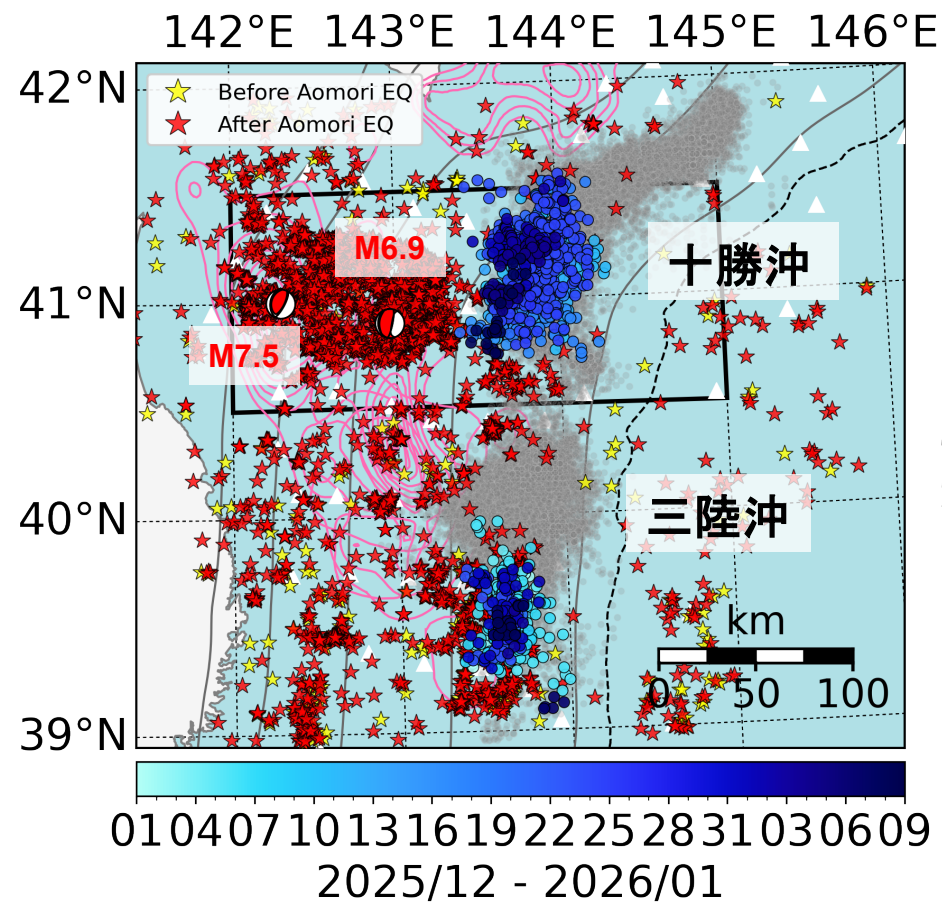
2025/12/08 23:15 青森県東方沖の地震前後の十勝沖・三陸沖における微動活動

十勝沖

- 本震以降、余震活動の東側で微動を検出
- 活動が低調になりつつあるが、断続的に継続

三陸沖

- 本震の前まで、2025年11月から継続する微動活動を観測
- 本震後、一時的に微動が検出されなくなったが、12/16から再び検出



※ 色付きの丸は微動の震央、2026/01/08 23:59:59 までの解析結果
 黄色の星はM7.5の前、赤の星はM7.5以降のM1以上の地震
 灰色の丸は過去2016/08-2024/08に起きた微動 (Sagae et al., 2025)

謝辞: 2025/12/01-2026/01/07 までの気象庁一元化震源カタログを使用しました。
 防災科学技術研究所S-netの地震波形データ、F-netメカニズム解を使用しました。
 記して感謝申し上げます。

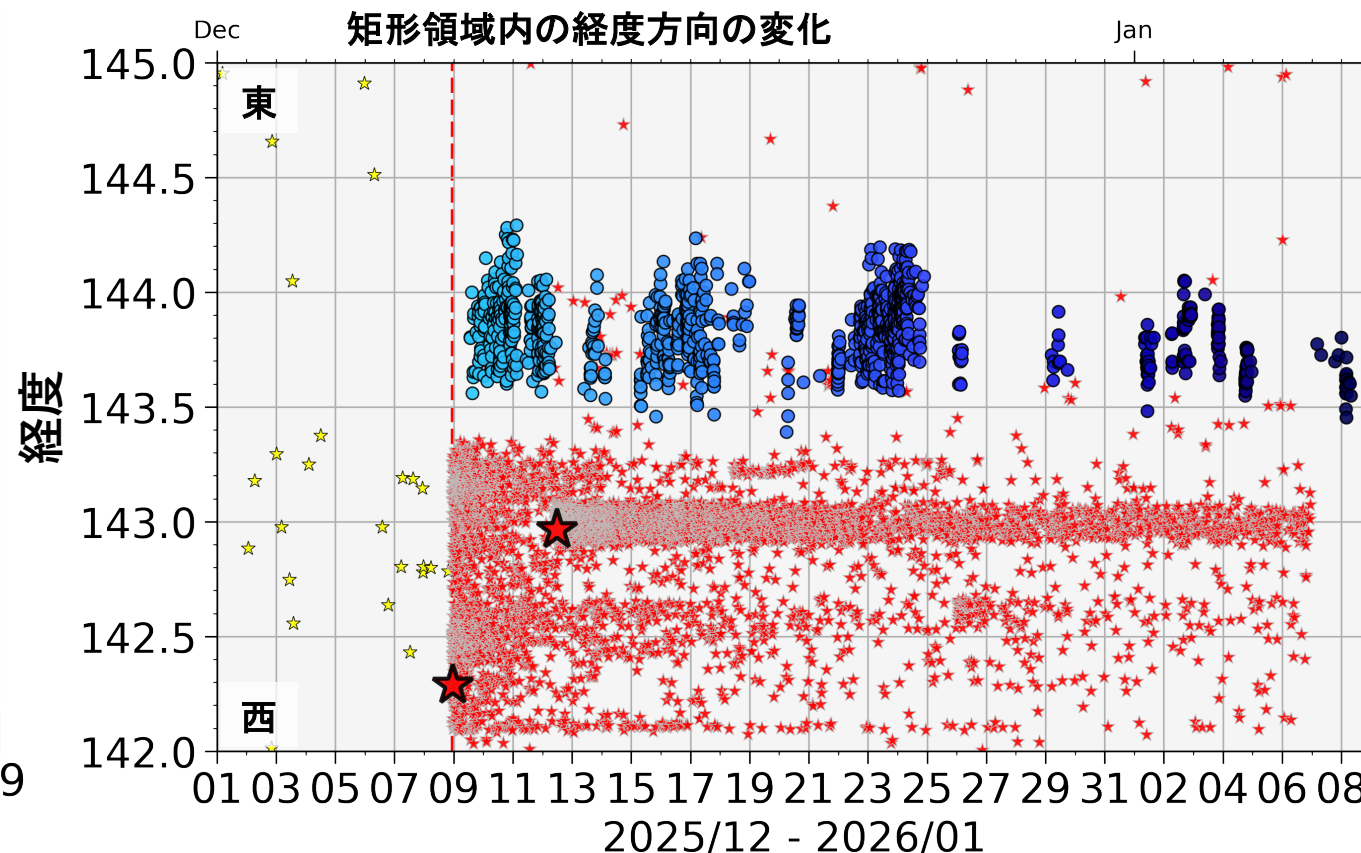
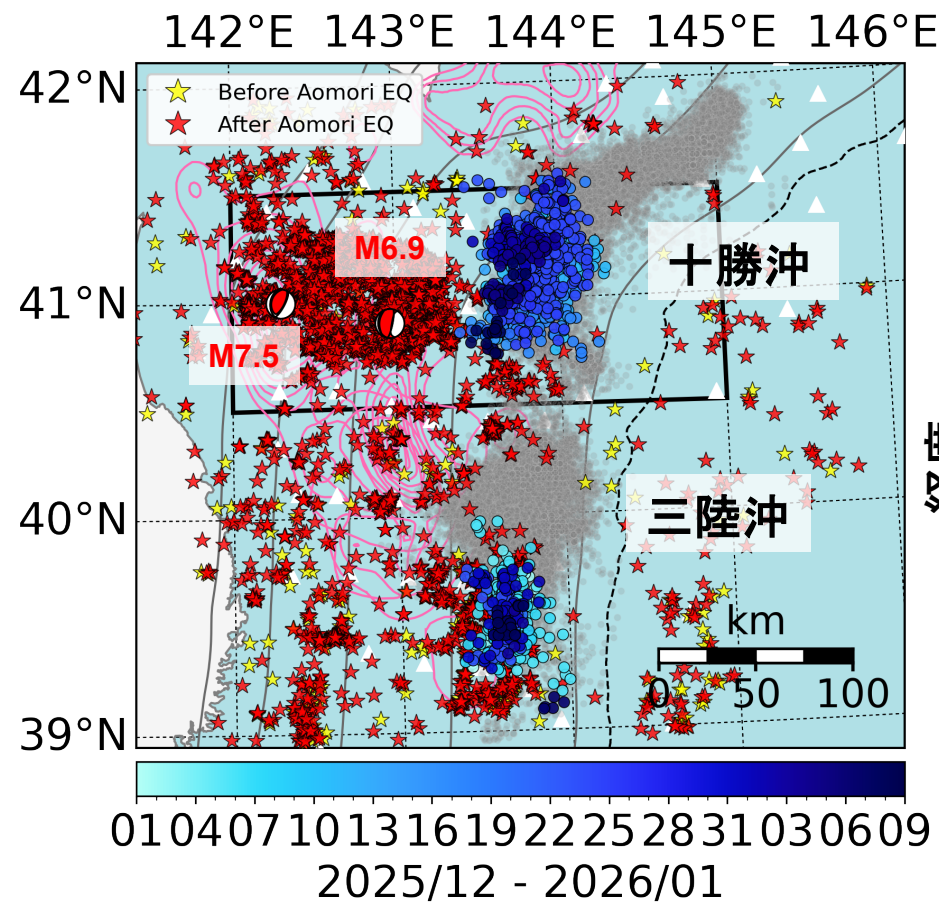
2025/12/08 23:15 青森県東方沖の地震前後の十勝沖・三陸沖における微動活動

十勝沖

- 本震以降、余震活動の東側で微動を検出
- 活動が低調になりつつあるが、断続的に継続

三陸沖

- 本震の前まで、2025年11月から継続する微動活動を観測
- 本震後、一時的に微動が検出されなくなったが、12/16から再び検出



※ 色付きの丸は微動の震央、2026/01/08 23:59:59 までの解析結果
 黄色の星はM7.5の前、赤の星はM7.5以降のM1以上の地震
 灰色の丸は過去2016/08-2024/08に起きた微動 (Sagae et al., 2025)

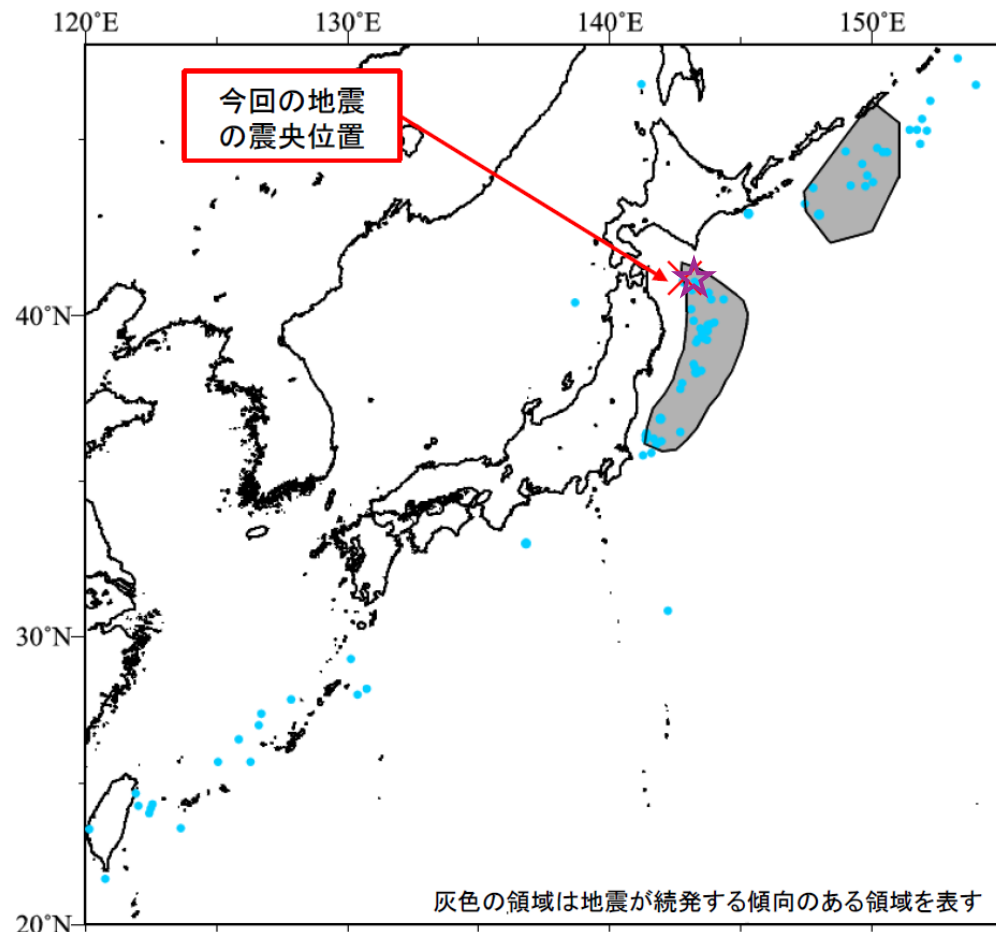
謝辞: 2025/12/01-2026/01/07 までの気象庁一元化震源カタログを使用しました。
 防災科学技術研究所S-netの地震波形データ、F-netメカニズム解を使用しました。
 記して感謝申し上げます。

震源周辺における規模の近い地震の続発事例について

(参考資料)

大きな地震発生後に規模の近い地震が続発した過去の事例 (海域)

1923年～2016年6月、海域で発生した深さ0～80km、マグニチュード6.0以上、規模の差が0.5以内もしくは同規模以上の地震が発生した地震を●で表示



灰色の領域は地震が続発する傾向のある領域を表す

規模が近い地震が続発した過去の事例は、地震調査研究推進本部地震調査委員会「大地震後の地震活動の見通しに関する情報のあり方」報告書による。

令和7年12月25日公表資料より抜粋

気象庁報道発表資料「令和7年12月8日23時15分頃の青森県東方沖の地震について」(<https://www.jma.go.jp/jma/press/2512/09a/kaisetsu202512090115.pdf>)から抜粋

■日本全国での過去の事例

海域で発生した大きな地震の場合、過去には規模が近い地震が続発した事例があります(左図の●印の地震)。

特に、左図の灰色の領域(海域の続発領域)内で大きな地震が発生した場合は、それ以外の海域で発生した場合に比べて、規模の近い地震や、より規模の大きな地震が続発しやすい傾向があります。

■今回の地震の周辺における過去の事例

今回の地震の周辺では、1943年に青森県東方沖で発生したM7.1の地震の2.2日後にM6.6の地震が発生した事例があります。

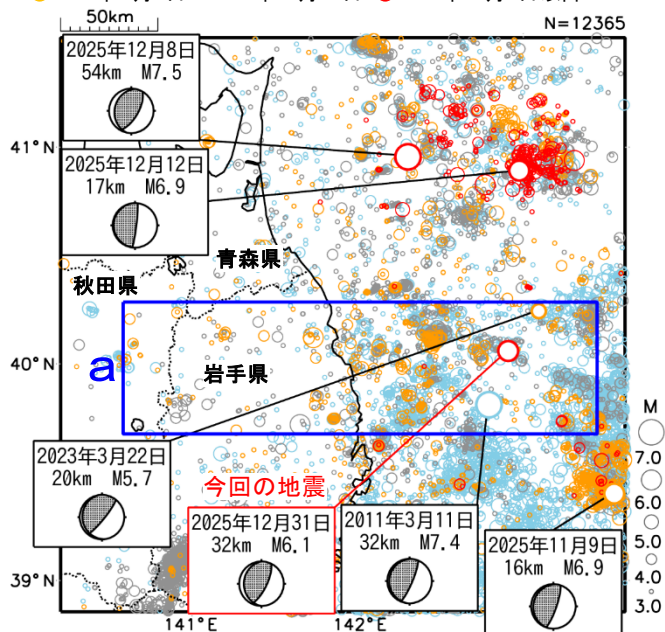
図中の「今回の地震の震央位置」は12月8日青森県東方沖の地震(M7.5)の震央位置であり、12月12日のM6.9の地震の震央位置を☆で気象庁報道発表資料に追記。

12月31日 岩手県沖の地震

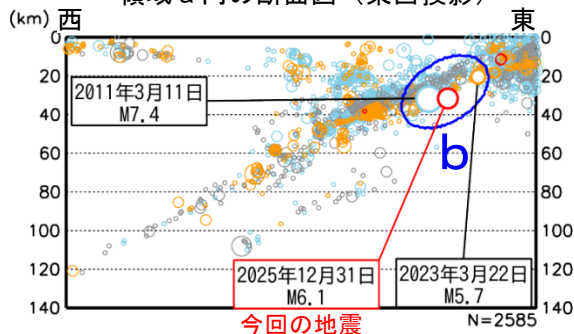
震央分布図

(1997年10月1日～2025年12月31日、
深さ0～140km、M \geq 3.0)

- 1997年10月1日～2011年2月28日
- 2011年3月1日～2020年8月31日
- 2020年9月1日～2025年11月30日
- 2025年12月1日以降



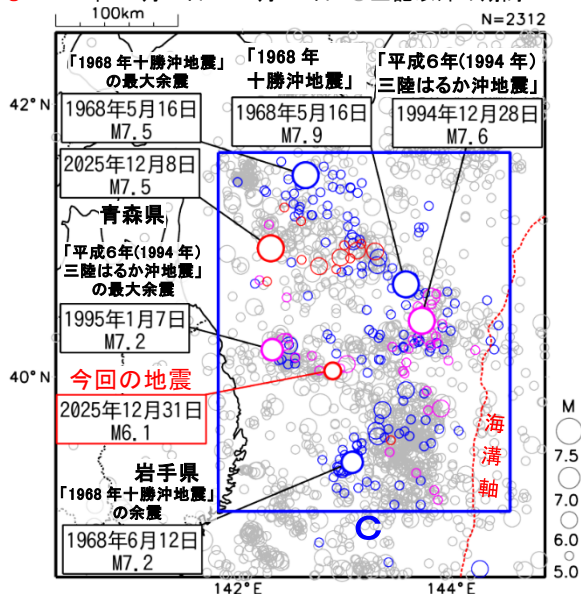
領域 a 内の断面図 (東西投影)



震央分布図

(1919年1月1日～2025年12月31日、
深さ0～100km、M \geq 5.0)

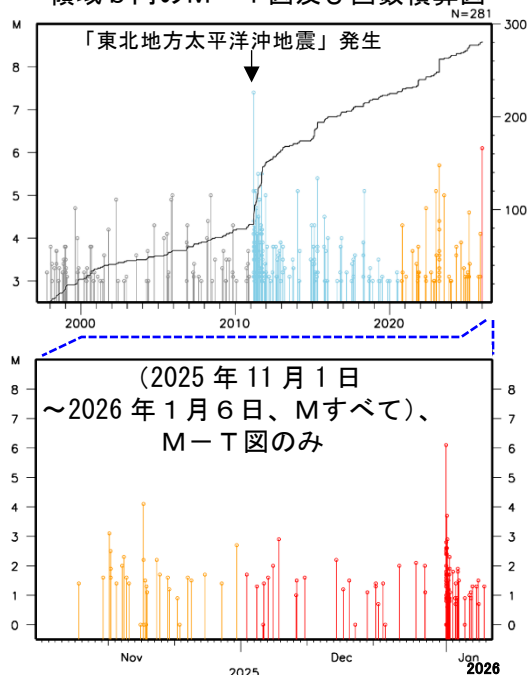
- 1968年5月1日～7月31日
- 1994年12月1日～1995年2月28日
- 2025年12月1日～12月31日
- 上記以外の期間



2025年12月31日23時26分に岩手県沖の深さ32kmでM6.1の地震 (最大震度4) が発生した。この地震は、発震機構 (CMT解) が西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

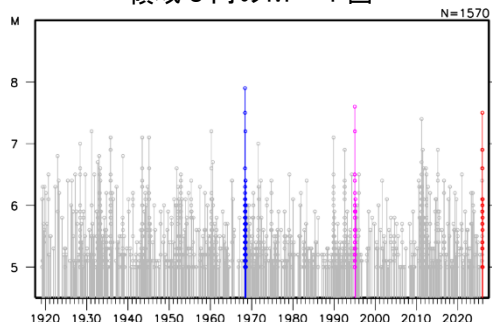
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近 (領域 b) は「平成23年 (2011年) 東北地方太平洋沖地震」 (以下、「東北地方太平洋沖地震」) 以降、地震活動が活発となっていた。また、今回の地震の震央周辺では、2025年11月9日に三陸沖でM6.9の地震 (最大震度4) が、2025年12月8日に青森県東方沖でM7.5の地震 (最大震度6強) が発生している。

領域 b 内の M-T 図及び回数積算図



1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域 c) では、M7を超える地震が時々発生しており、1968年5月16日に「1968年十勝沖地震」 (M7.9、最大震度5、死者52人) で、青森県八戸 [火力発電所] で295cm (平常潮位からの最大の高さ) の津波を観測した。また、1994年12月28日には「平成6年 (1994年) 三陸はるか沖地震」 (M7.6、最大震度6、死者3人) が発生し、青森県八戸と岩手県宮古で50cm (平常潮位からの最大の高さ) の津波を観測した (「験震時報第64巻」による)。被害は、いずれも「日本被害地震総覧」による。

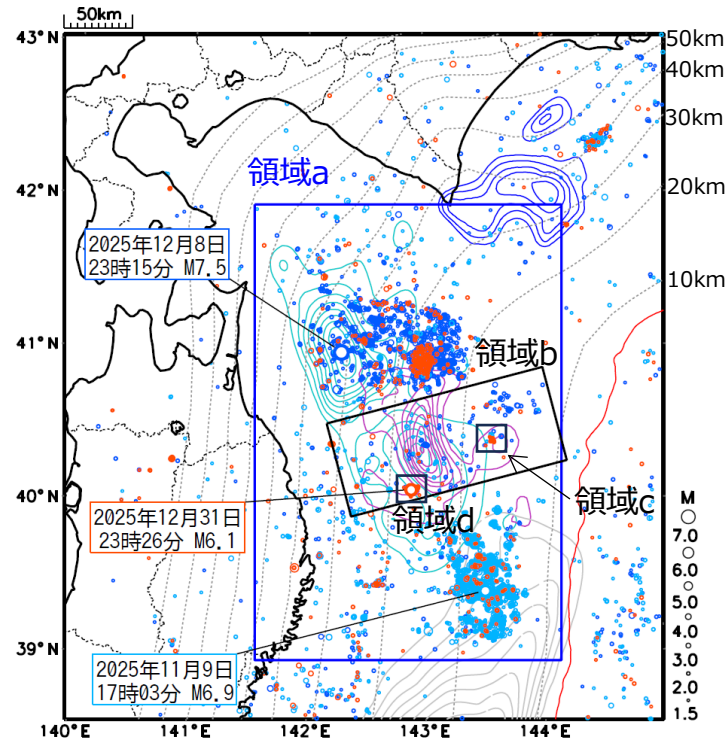
領域 c 内の M-T 図



11月9日三陸沖の地震・12月8日青森県東方沖・12月31日岩手県沖 周辺の地震活動

震央分布図

2025年11月1日～2026年1月11日、深さ0～100km、 $M \geq 1.5$



色付きのコンターは主な地震のすべり分布

青色：2003年十勝沖地震 (Yamanaka and Kikuchi, 2003)

水色：1968年十勝沖地震 (永井・他, 2001)

紫色：1994年三陸はるか沖地震 (永井・他, 2001)

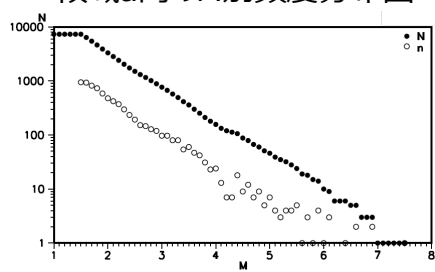
灰色：2011年東北地方太平洋沖地震 (Yoshida et al., 2011)

黒色破線は太平洋プレート上面のおよその深さ

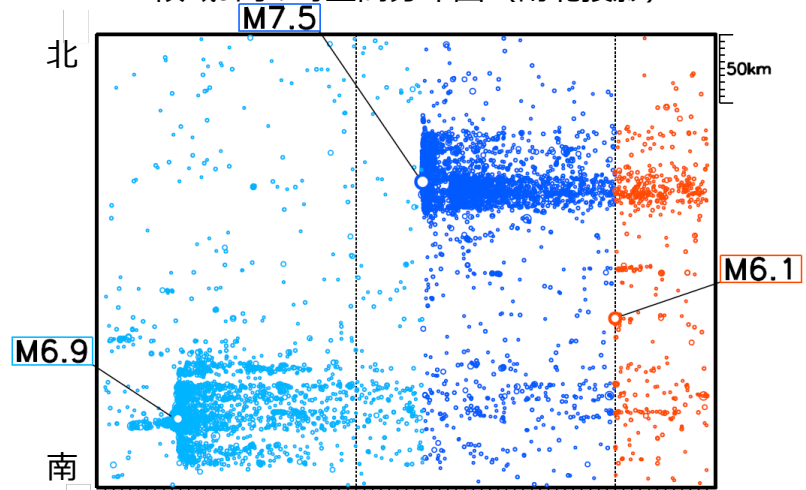
Kita et al. (2010)及びNakajima and Hasegawa (2006)

領域a内のM別頻度分布図

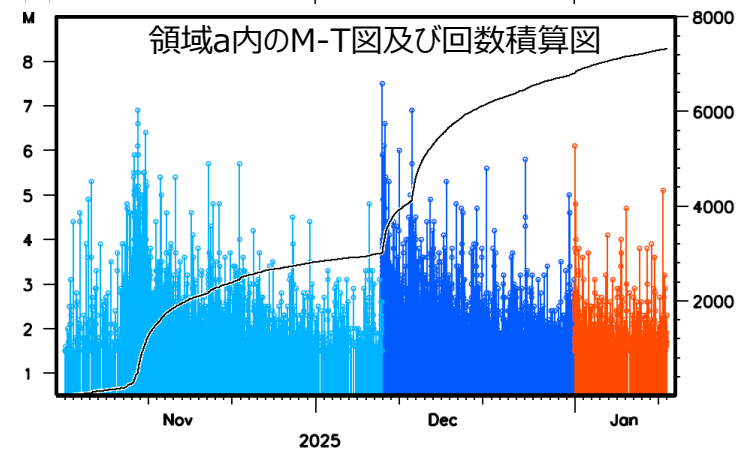
- 2025年11月1日～12月8日23時14分
- 2025年12月8日23時15分～31日23時25分
- 2025年12月31日23時26分～



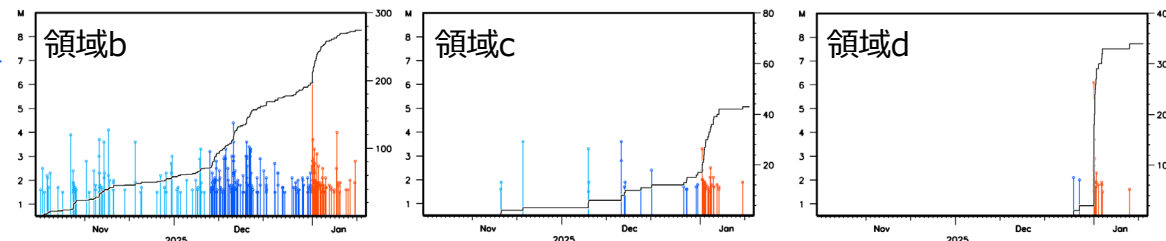
領域a内の時空間分布図 (南北投影)



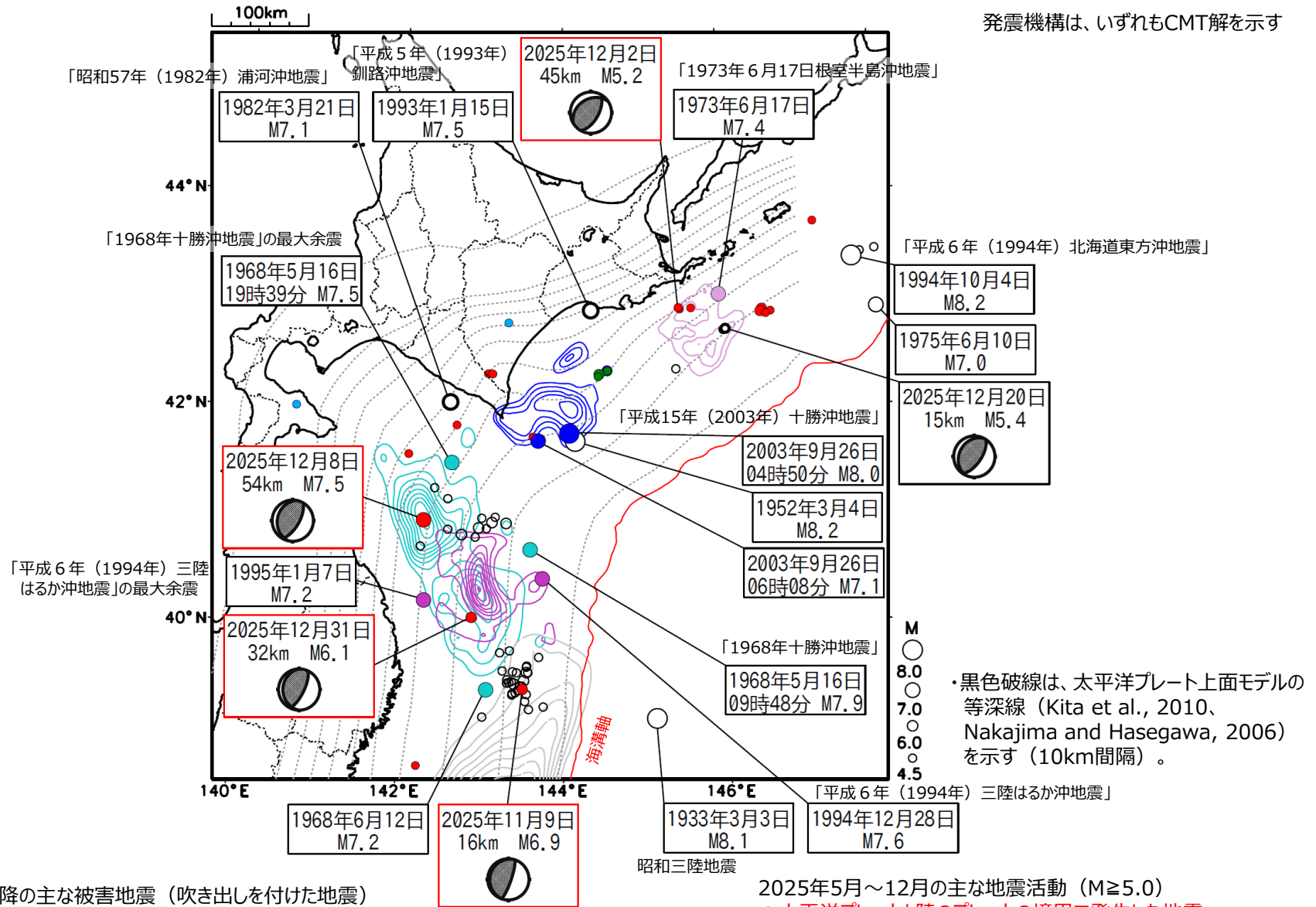
領域a内のM-T図及び回数積算図



領域b-d内のM-T図及び回数積算図



2025年5月～12月の主な地震活動と1919年以降の主な被害地震（三陸沖～北海道東方沖）



○1919年1月1日以降の主な被害地震（吹き出しを付けた地震）

・震央の塗りつぶしは以下の地震の本震及び主な余震を、色付き等値線は、以下の地震時すべり分布を示す。

水色：1968年十勝沖地震〔永井・他(2001)〕

薄紫色：1973年根室半島沖地震〔山中(2005)〕

紫色：1994年三陸はるか沖地震〔永井・他(2001)〕

青色：2003年十勝沖地震〔Yamanaka and Kikuchi (2003)〕

灰色：2011年東北地方太平洋沖地震〔Yoshida et al. (2012)〕

2025年5月～12月の主な地震活動（ $M \geq 5.0$ ）

●太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震

●太平洋プレート内部で発生した地震

●陸のプレート内で発生した地震

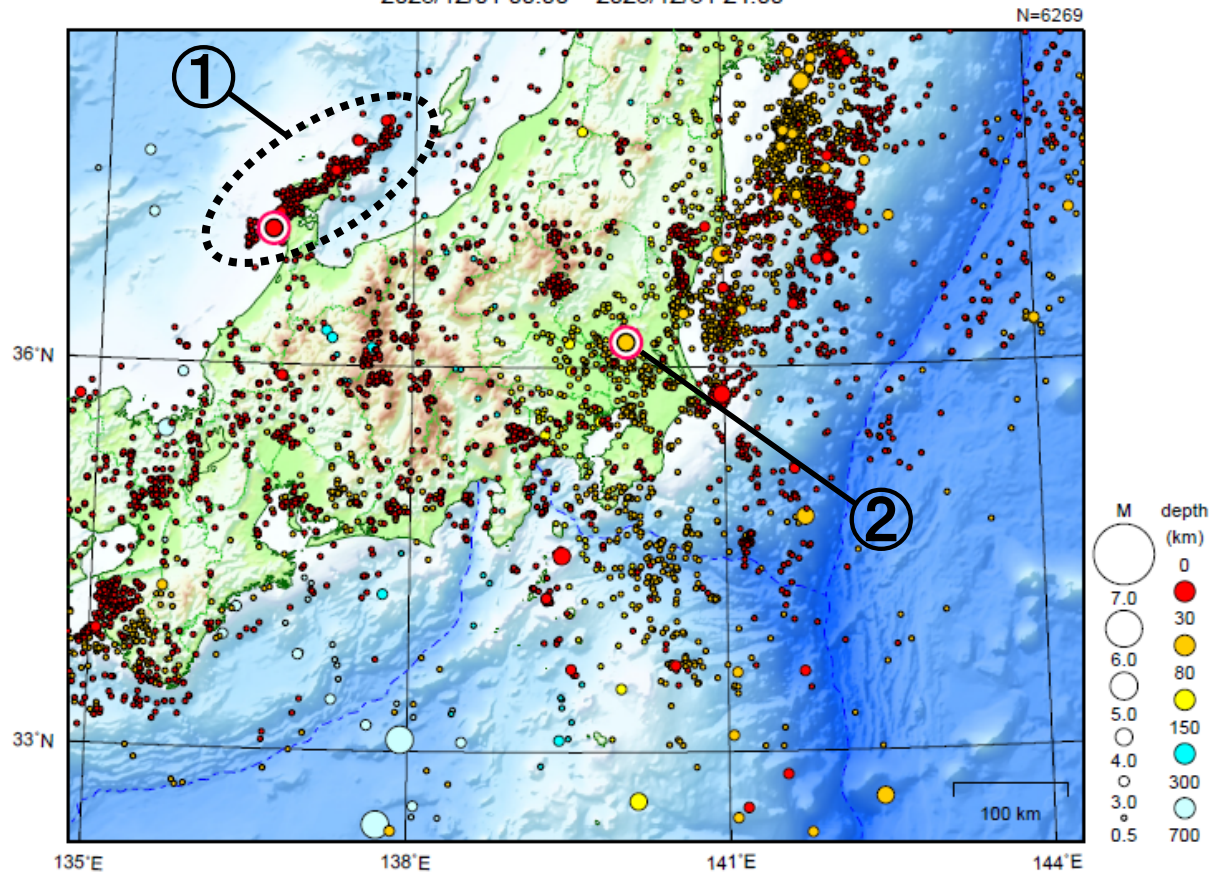
※11月及び12月の主な地震に吹き出しを付けた

※11月9日三陸沖の地震（ $M6.9$ ）及び12月8日青森県東方沖の地震（ $M7.5$ ）以降の地震活動は○で表示

気象庁作成

関東・中部地方

2025/12/01 00:00 ~ 2025/12/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- ① 12月14日に石川県西方沖で M4.9 の地震（最大震度 4）が発生した。「令和 6 年能登半島地震」の地震活動域では、12 月中に震度 1 以上を観測した地震が 13 回（震度 4：1 回、震度 3：1 回、震度 2：3 回、震度 1：8 回）発生した。

情報発表に用いた震央地名は「能登半島沖」である。

- ② 12月12日に茨城県南部で M4.9 の地震（最大震度 4）が発生した。

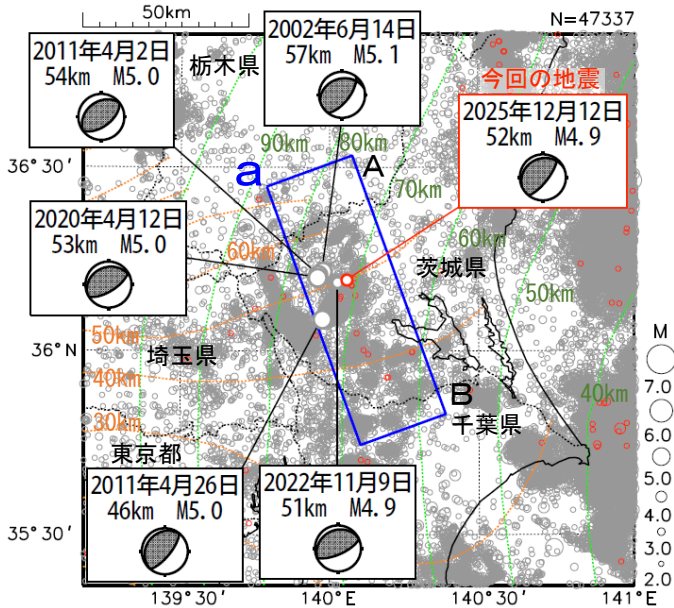
[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

12月12日 茨城県南部の地震

震央分布図

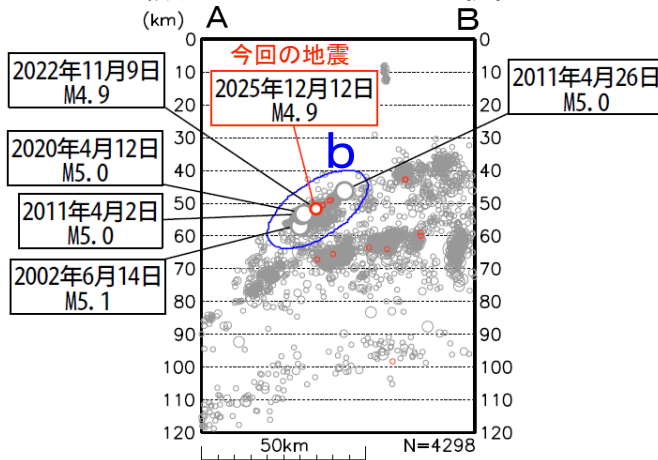
(1997年10月1日～2025年12月31日、
深さ0～120km、 $M \geq 2.0$)

2025年12月の地震を赤色で表示

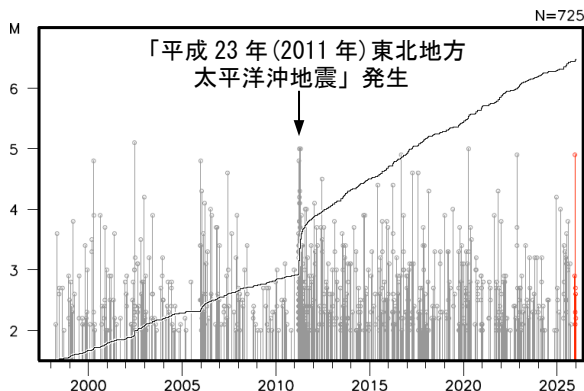


震央分布図中の緑色及び橙色の破線は、それぞれ、弘瀬・他（2008）による太平洋プレート上面及びフィリピン海プレート上面のおおよその深さを示す。

領域a内の断面図（A-B投影）



領域b内のM-T図及び回数積算図



2025年12月12日19時05分に茨城県南部の深さ52kmでM4.9の地震（最大震度4）が発生した。この地震の発震機構は、北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。

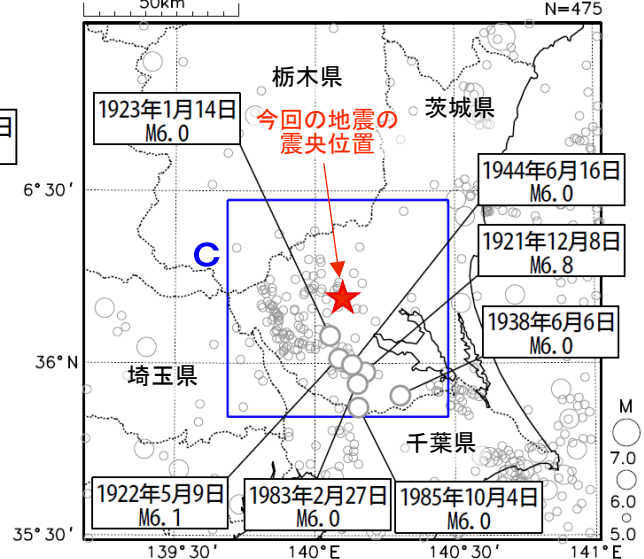
1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近（領域b）は、地震活動が活発な領域であり、「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」（以下、「東北地方太平洋沖地震」）の発生以降、地震活動がより活発になっている。この領域では、2022年11月9日にはM4.9の地震（最大震度5強）が発生し、負傷者1人の被害が生じた（被害は総務省消防庁による）。

1919年以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、M6.0以上の地震がまれに発生している。1921年12月8日にはM6.8の地震が発生し、土蔵破損や道路の亀裂などの被害が生じた（被害は「日本被害地震総覧」による）。

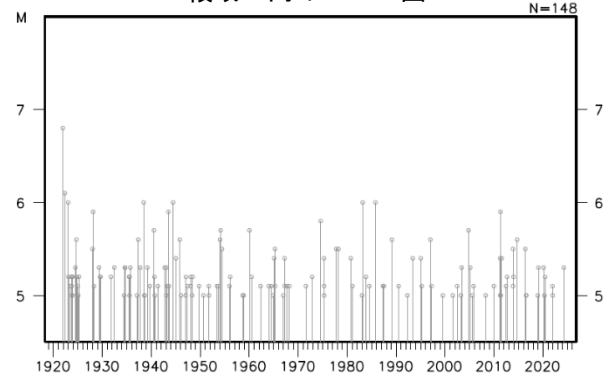
震央分布図

(1919年1月1日～2025年12月31日、
深さ0～120km、 $M \geq 5.0$)

2025年12月の地震を赤色で表示



領域c内のM-T図



「令和6年能登半島地震」の地震活動

震央分布図

(2020年12月1日～2025年12月31日、
深さ0～30km、 $M \geq 3.0$)

震源のプロット

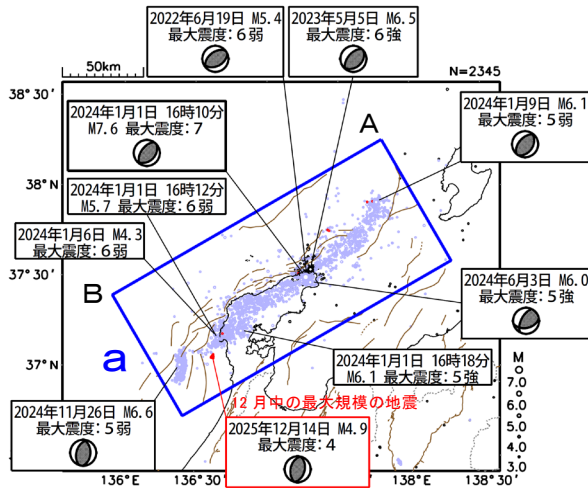
黒色 2020年12月1日～2023年12月31日

水色 2024年1月1日～2025年11月30日

赤色 2025年12月1日～31日

吹き出しは最大震度6弱以上の地震、 $M6.0$ 以上の地震
及び12月中の最大規模の地震

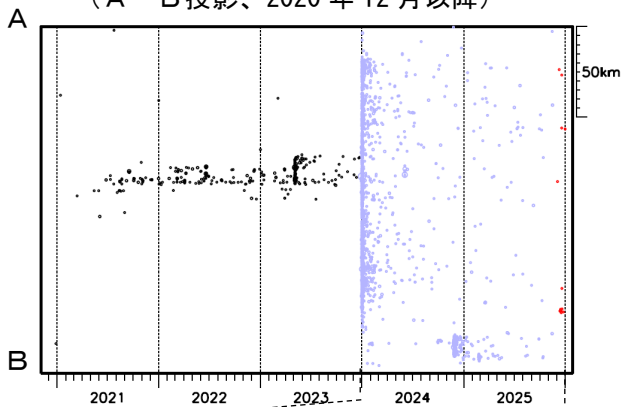
図中の発震機構はCMT解



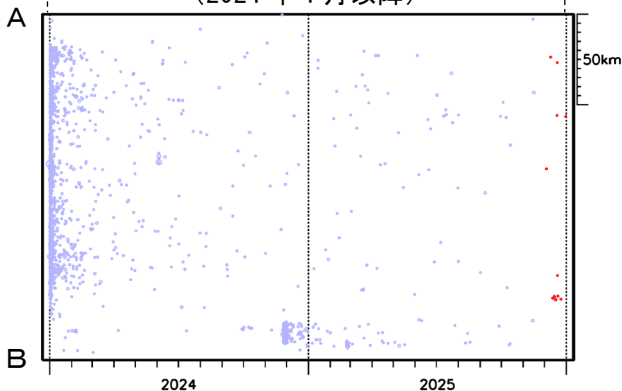
図中の茶色の線は、地震調査研究推進本部の
長期評価による活断層を示す。

領域a内の時空間分布図

(A-B投影、2020年12月以降)

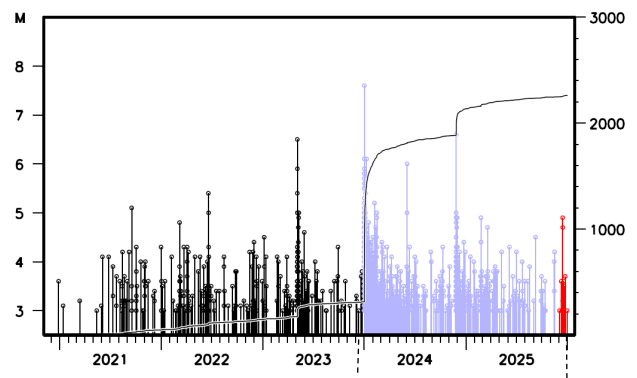


(2024年1月以降)

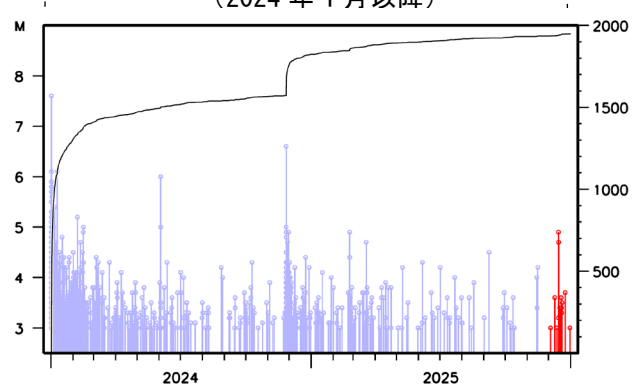


領域a内のM-T図及び回数積算図

(2020年12月以降)



(2024年1月以降)



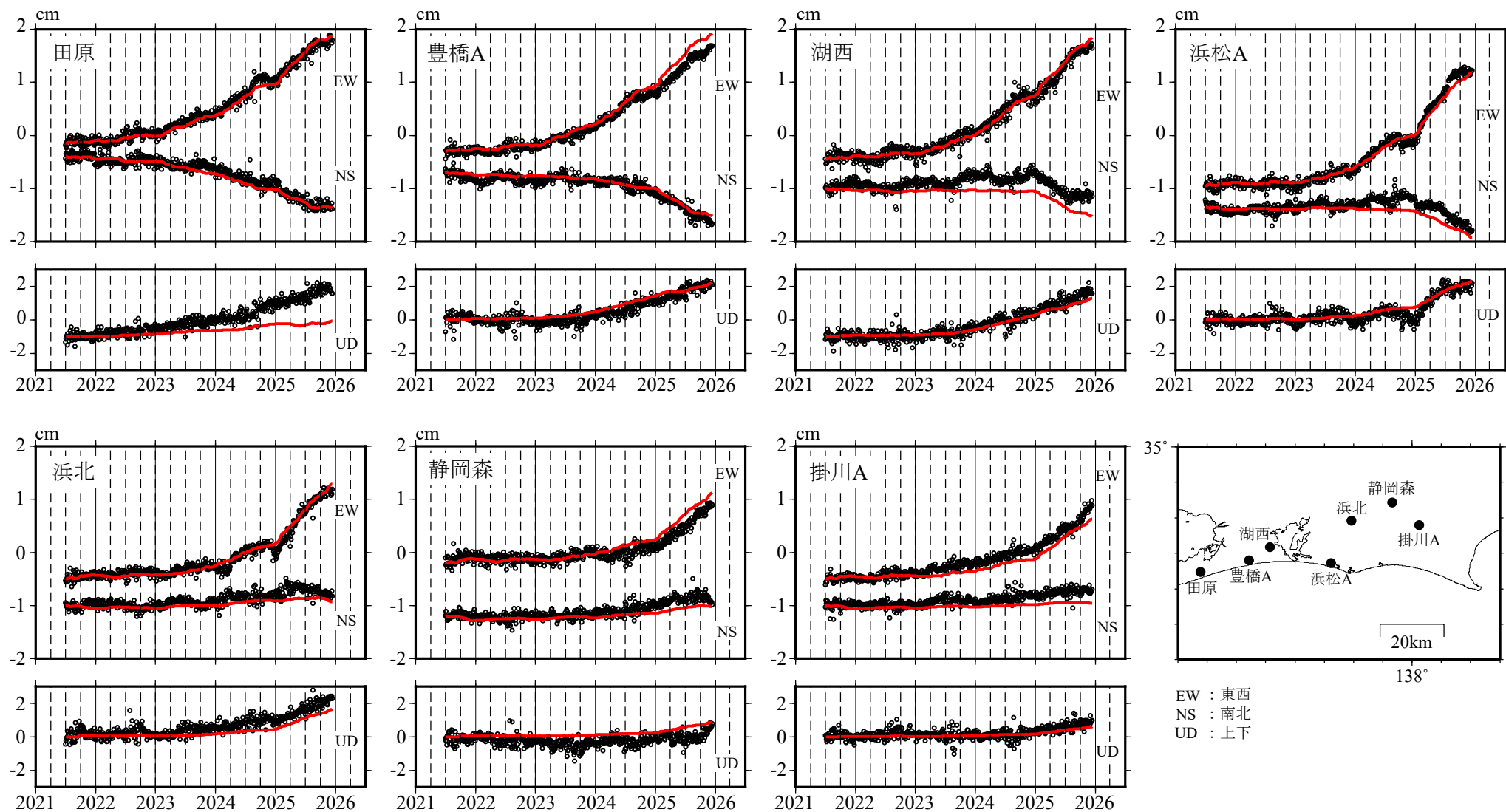
能登半島では2020年12月から地震活動が活発になり、2023年5月5日には $M6.5$ の地震(最大震度6強)が発生していた。2023年12月までの活動域は、能登半島北東部の概ね30km四方の範囲であった。

2024年1月1日16時10分に石川県能登地方の深さ16kmで $M7.6$ の地震(最大震度7)が発生した後、地震活動はさらに活発になり、活動域は、能登半島及びその北東側の海域を中心とする北東-南西に延びる150km程度の範囲に広がっている。 $M7.6$ の地震後の地震活動域の西端の石川県西方沖で、2024年11月26日に $M6.6$ の地震(最大震度5弱)が発生した。

地震の発生数は増減を繰り返しながら大局的に緩やかに減少してきているが、12月中に震度1以上を観測した地震は13回発生するなど、活動は継続している。なお、12月中の最大規模の地震は、14日23時26分に石川県西方沖^(注)の深さ8kmで発生した $M4.9$ の地震(最大震度4)である。この地震の発震機構(CMT解)は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

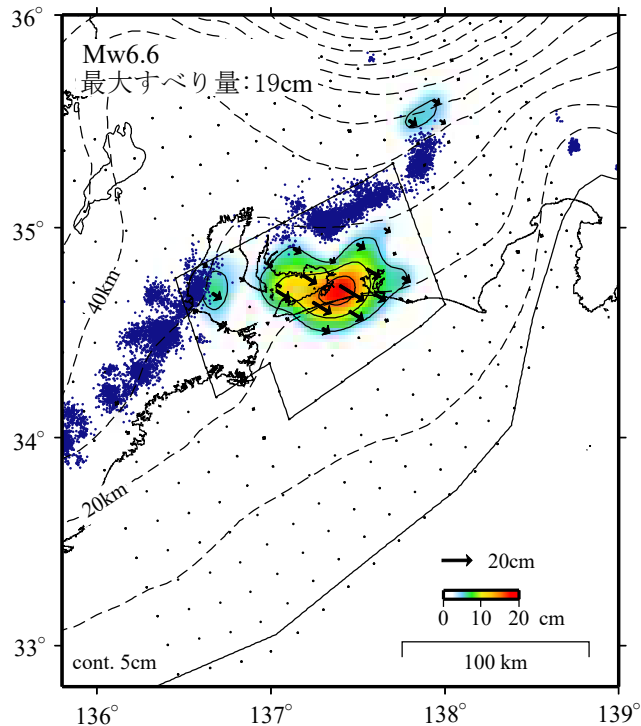
(注) 情報発表の震央地名は「能登半島沖」である。

東海地域の観測点の座標時系列(黒丸)と計算値(赤線) 時間依存のインバージョン

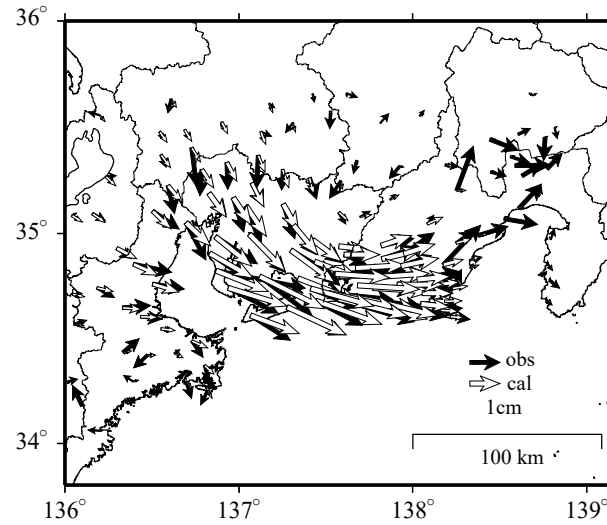


GNSSデータから推定された東海地域の長期的ゆっくりすべり(暫定)

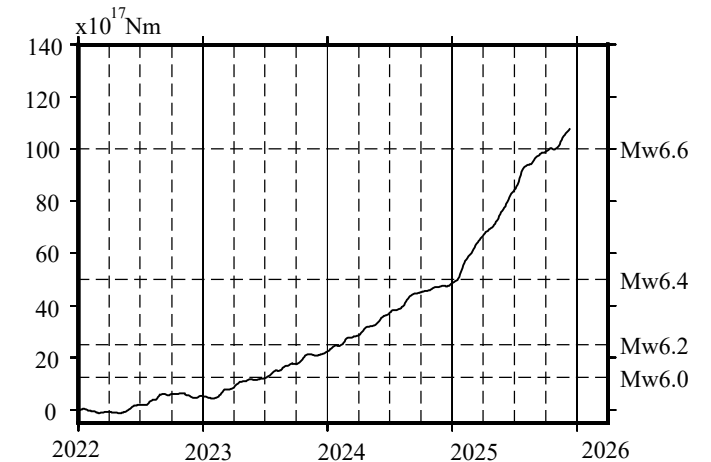
推定すべり分布
(2022-01-01/2025-12-11)



観測値(黒)と計算値(白)の比較
(2022-01-01/2025-12-11)



モーメント時系列(試算)



Mw及び最大すべり量はプレート面に沿って評価した値を記載している。
すべり量(カラー)及びすべりベクトルは水平面に投影したものを示している。
推定したすべり量が標準偏差(σ)の3倍以上のグリッドを黒色で示している。

使用データ：GEONETによる日々の座標値(F5解、R5解)
・F5解(2021-07-01/2025-11-22) + R5解(2025-11-23/2025-12-11)
・トレンド期間：2020-01-01/2022-01-01(年周・半年周成分は補正していない)
モーメント計算範囲：左図の黒枠内側
観測値：3日間の平均値をカルマンフィルターで平滑化した値
黒破線：フィリピン海プレート上面の等深線(Hirose et al., 2008)
すべり方向：プレートの沈み込み方向に拘束
青丸：低周波地震(気象庁一元化震源)(期間：2022-01-01/2025-12-11)
固定局：三隅

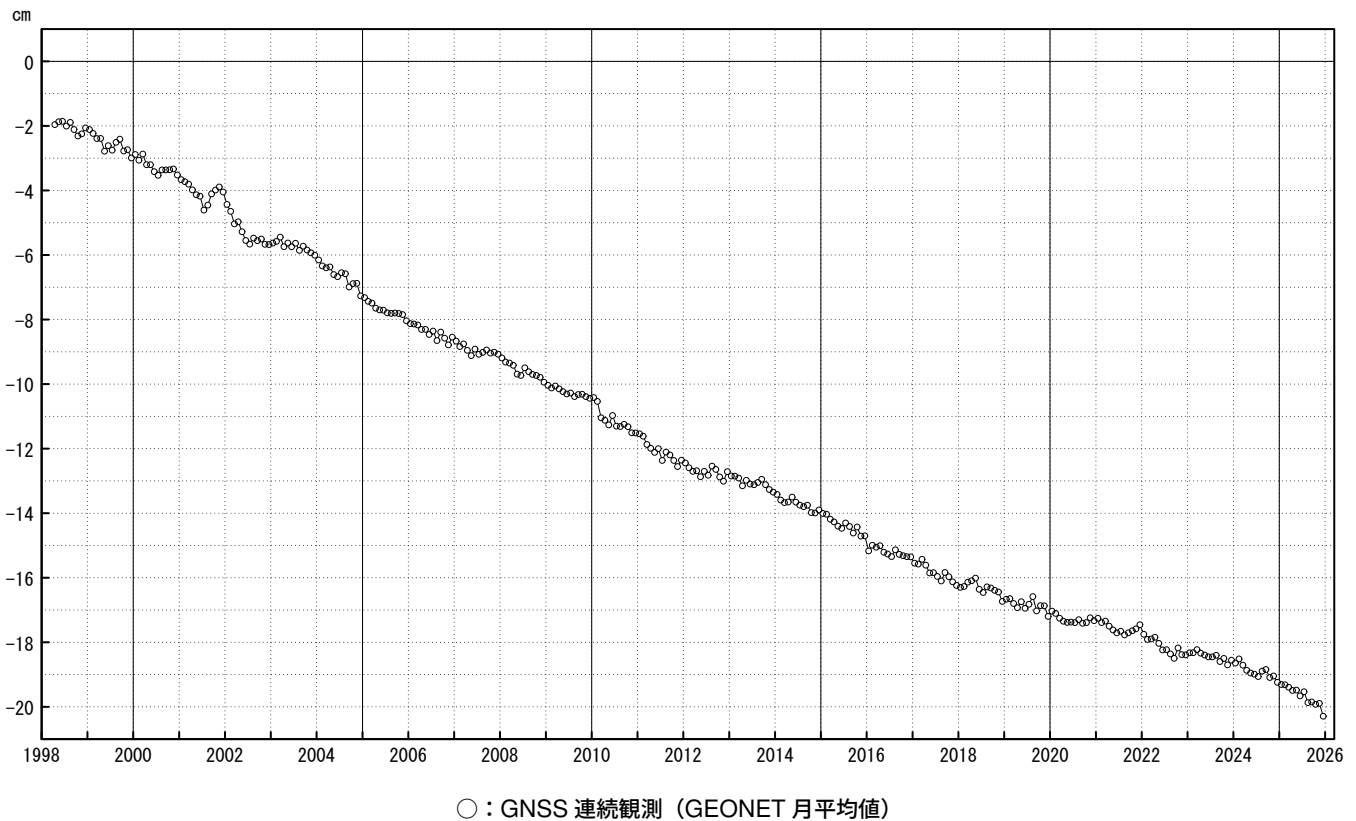
*モーメント：断層運動のエネルギーの目安となる量。
*電子基準点の保守等による変動は補正している。
*気象庁カタログ(2017年以降)の短期的ゆっくりすべりを補正している。
*共通誤差成分を推定している。
*平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の粘弾性変形は補正している(Suito, 2017)。
*令和6年能登半島地震に伴う地殻変動は補正している。
*令和6年能登半島地震の粘弾性変形は補正している(Suito, 2025)。

御前崎 電子基準点の上下変動

水準測量と GNSS 連続観測

掛川に対して、御前崎が沈降する長期的な傾向が続いている。

掛川 A (161216) - 御前崎 A (091178)



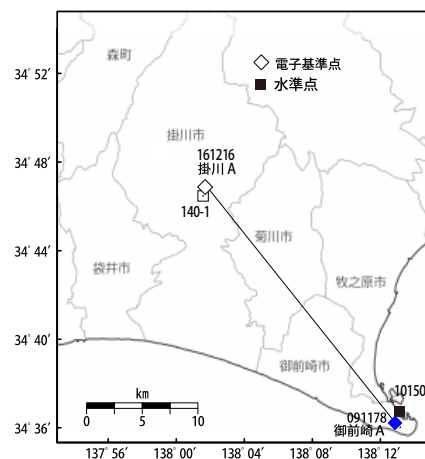
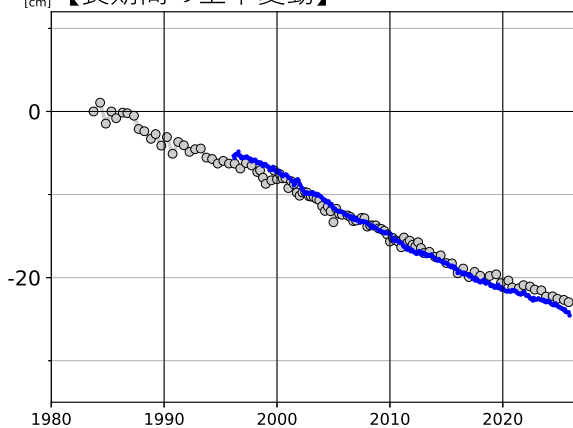
・ GNSS 連続観測のプロット点は、GEONET による日々の座標値 (F5: 最終解) から計算した値の月平均値。最新のプロット点は 12 月 1 日～12 月 6 日の平均。

※ 1 2009 年 8 月 11 日の駿河湾の地震に伴う電子基準点「御前崎」の局所的な変動について、地震前後の水準測量で得られた「御前崎」周辺の水準点との比高の差を用いて補正を行った。

※ 2 電子基準点「御前崎 A」については、2010 年 3 月 23 日まで電子基準点「御前崎」のデータを使用。

※ 3 電子基準点「掛川 A」については、2017 年 1 月 29 日まで電子基準点「掛川」のデータを使用。

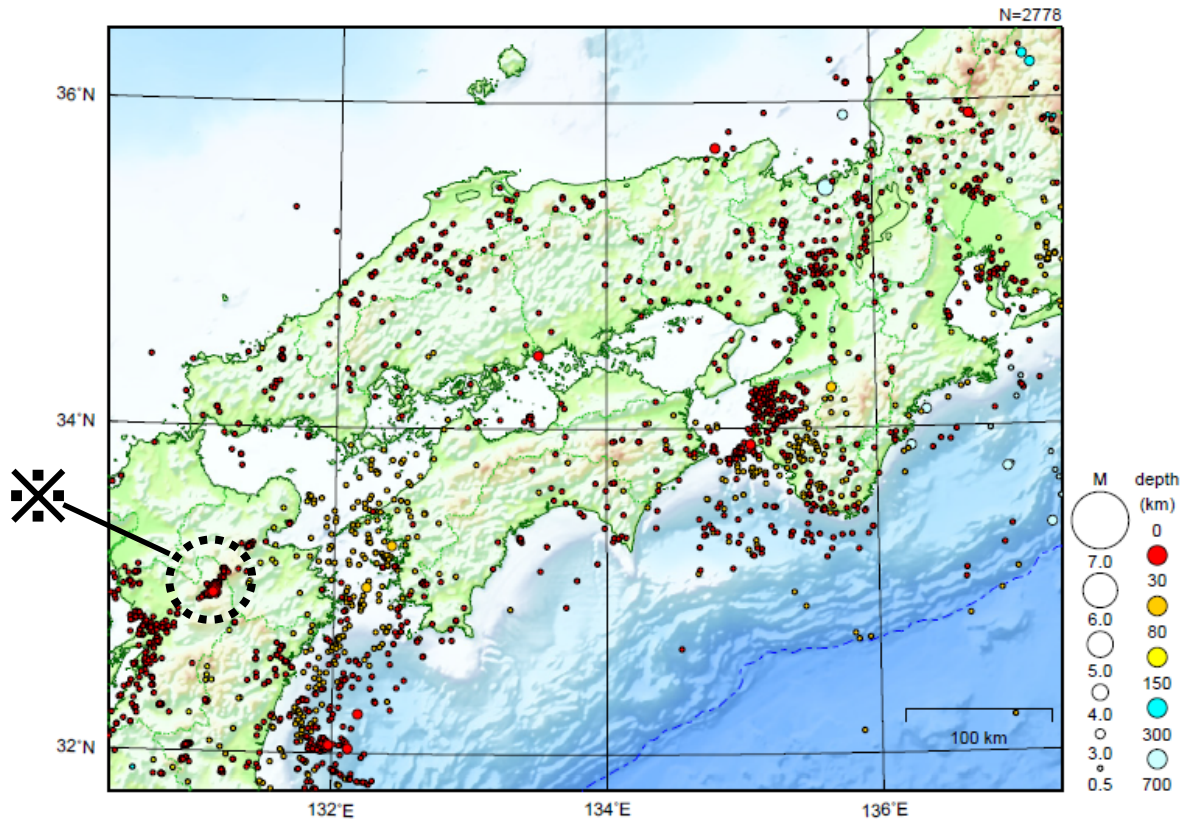
【長期間の上下変動】



- ・ 青色のプロットは上記の GEONET による日々の座標値の月平均値。
- ・ 灰色のプロットは電子基準点の最寄りの水準点「10150」の水準測量結果を示している (固定：140-1)。

近畿・中国・四国地方

2025/12/01 00:00 ~ 2025/12/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った地震活動はなかった。

※で示した地震については九州地方の資料を参照。

(上記期間外)

2026 年 1 月 6 日 10 時 18 分に島根県東部で M6.4 の地震（最大震度 5 強）が発生した。

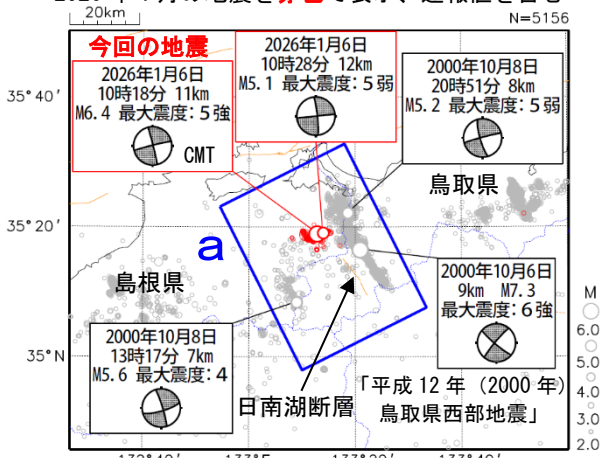
2026 年 1 月 6 日 10 時 28 分に島根県東部で M5.1 の地震（最大震度 5 弱）が発生した。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

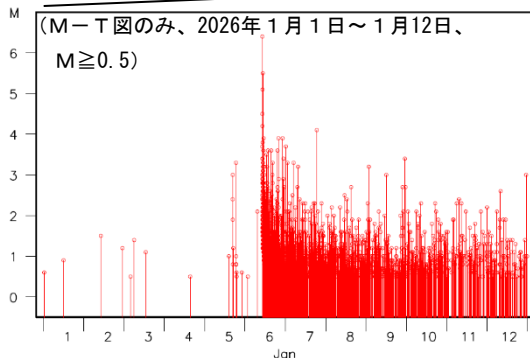
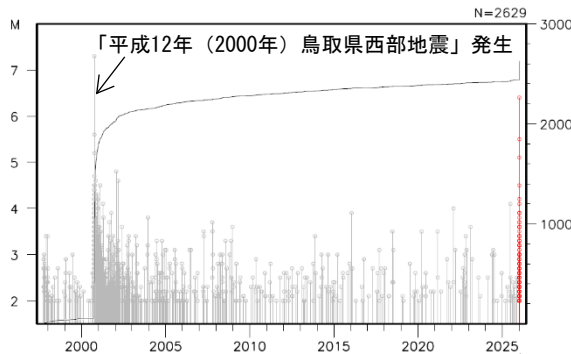
1月6日 島根県東部の地震

震央分布図
(1997年10月1日～2026年1月12日、
深さ0～30km、 $M \geq 2.0$)
2026年1月の地震を赤色で表示、速報値を含む

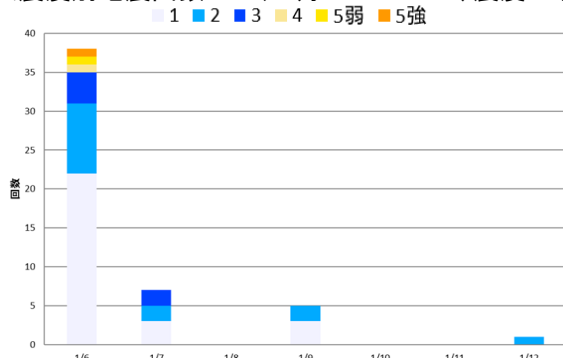


震央分布図中の橙色の細線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

領域a内のM-T図及び回数積算図



最大震度別地震回数 (注1) (1月6日～12日、震度1以上)



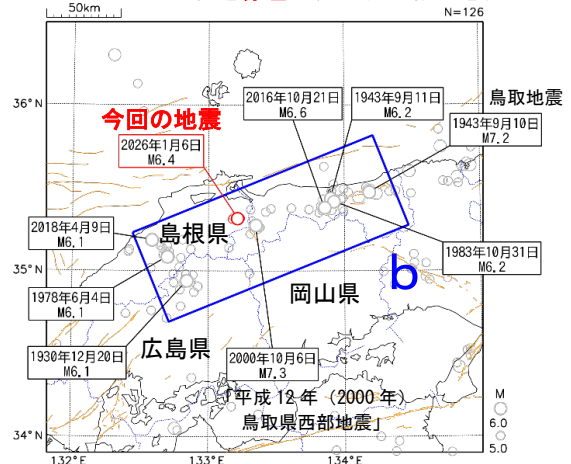
(注1) 震度1以上を観測した地震の回数は、後日の調査で変更する場合がある。

2026年1月6日10時18分に島根県東部の深さ11kmでM6.4の地震（最大震度5強）が発生した。この地震は地殻内で発生した。発震機構（CMT解）は、西北西－東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。この地震の震央付近では、1月5日16時43分にM3.0の地震（最大震度1）および同日18時42分にM3.3の地震（最大震度2）が発生した。また、1月6日10時28分にM5.1の地震（最大震度5弱）が発生した。6日から12日までに震度1以上を観測した地震が51回（震度5強：1回、震度5弱：1回、震度4：1回、震度3：6回、震度2：14回、震度1：28回）^(注1) 発生した。この地震により、負傷者12人、住家一部破損62棟の被害が生じた（被害は2026年1月9日14時00分現在、総務省消防庁による）。

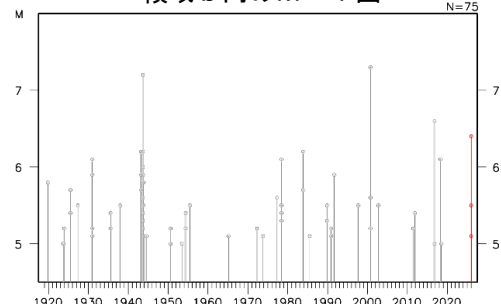
1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近（領域a）では、「平成12年（2000年）鳥取県西部地震」が発生している。この地震により、負傷者182人、住家全壊435棟などの被害が生じた（被害は総務省消防庁による）。

1919年以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（領域b）では、M6.0程度の地震が時々発生している。このうち、1943年9月10日に発生したM7.2の地震（鳥取地震、最大震度6）では、死者1,083人、住家全壊7,485棟などの被害が生じた（被害は「日本被害地震総覧」による）。

震央分布図
(1919年1月1日～2026年1月12日、
深さ0～30km、 $M \geq 5.0$)
2026年1月の地震を赤色で表示、速報値を含む



領域b内のM-T図



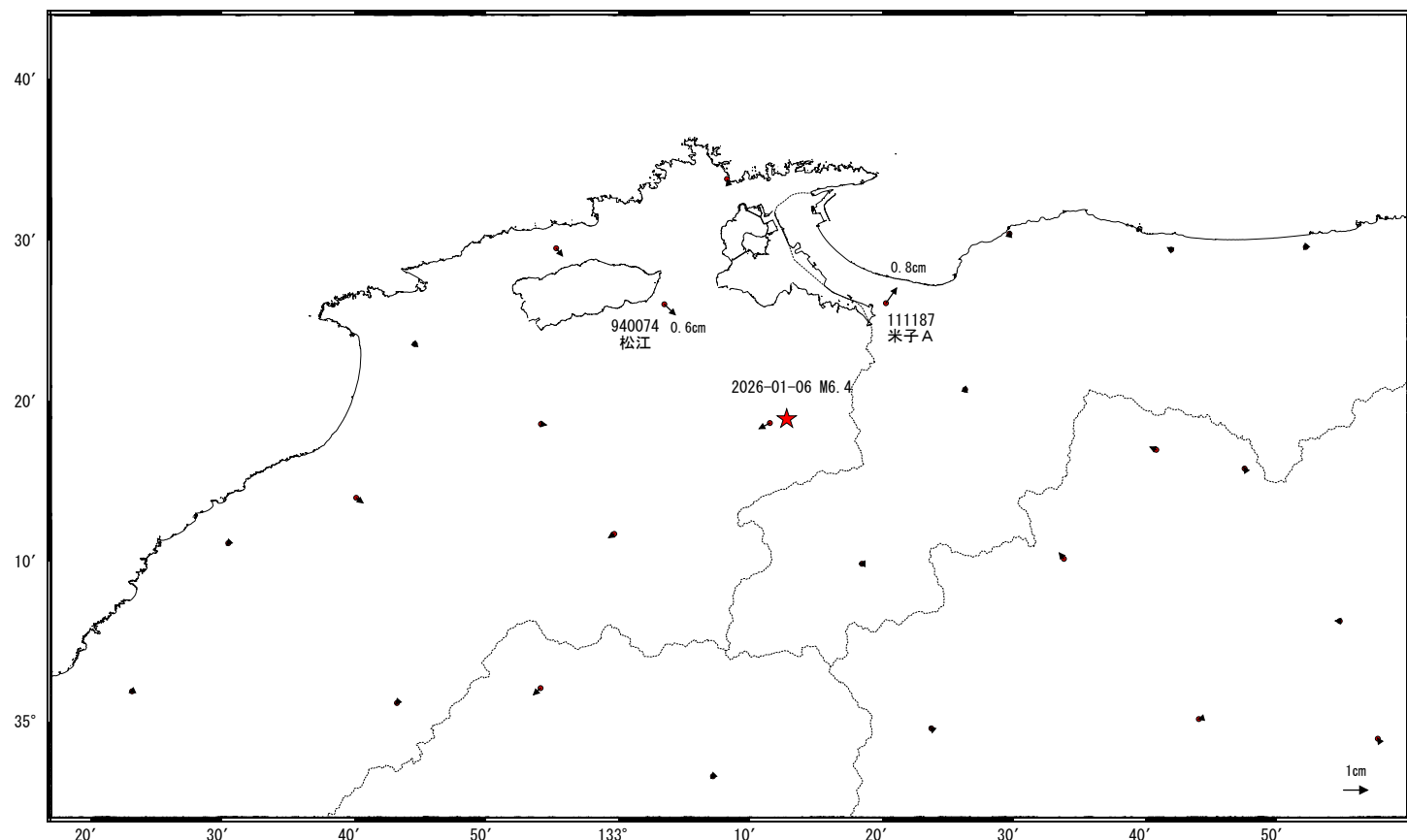
気象庁作成

島根県東部の地震(1月6日 M6.4)前後の観測データ(暫定)

この地震に伴いわずかな地殻変動が観測された。

地殻変動(水平)

基準期間: 2025-12-30~2026-01-05 [R5:速報解]
比較期間: 2026-01-07~2026-01-11 [R5:速報解]

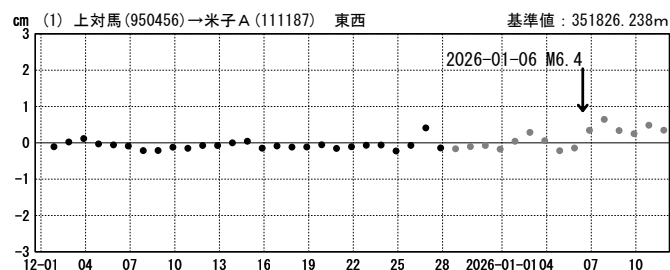


★震央

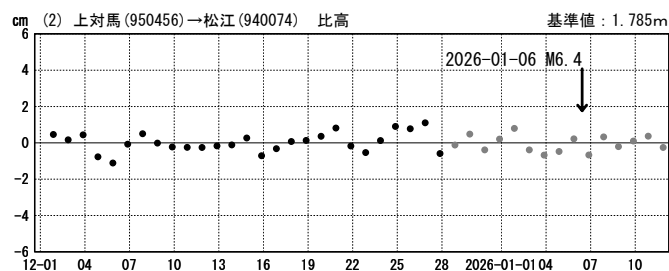
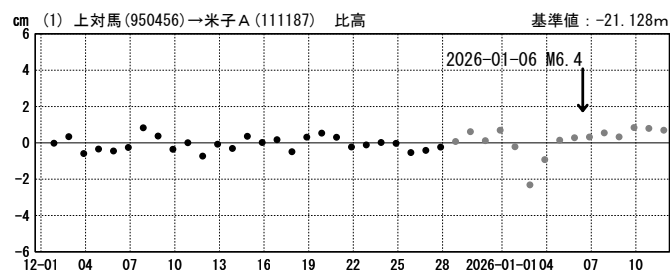
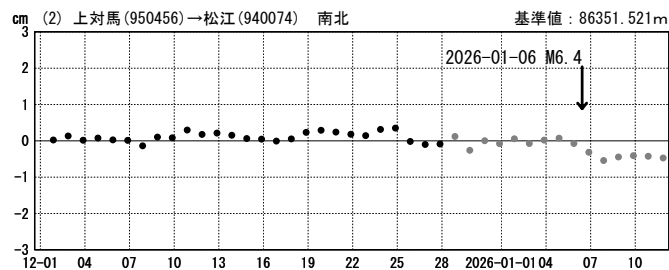
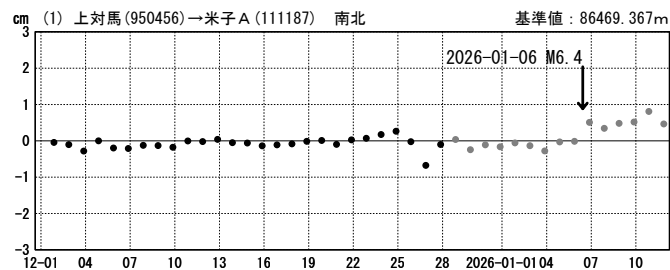
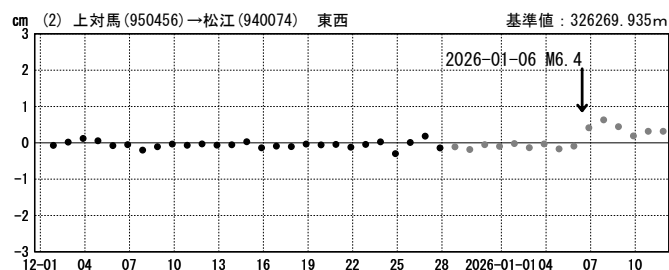
☆固定局: 上対馬(950456) (長崎県)

成分変化グラフ

期間: 2025-12-01~2026-01-11 JST



期間: 2025-12-01~2026-01-11 JST



●---[F5:最終解] ●---[R5:速報解]

島根県東部の地震の最大震度別地震回数表

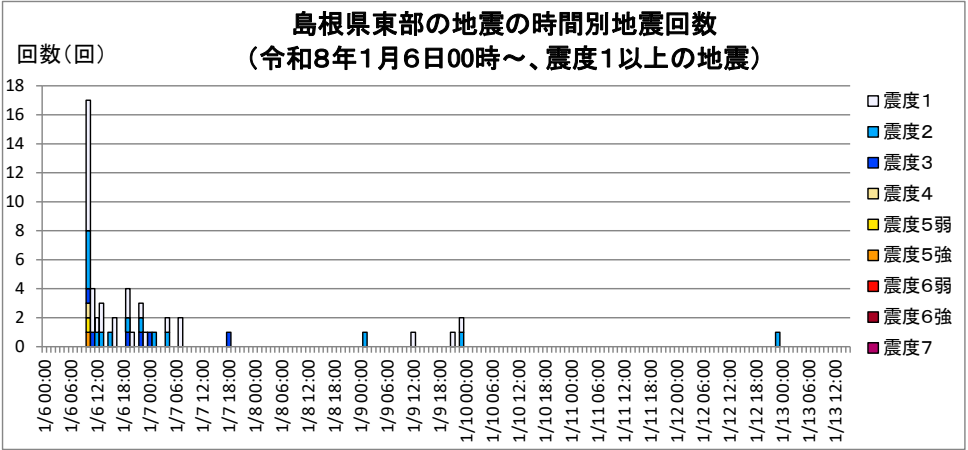
令和8年1月6日00時～、震度1以上

(注)掲載している値は速報のもので、その後の調査で変更する場合があります。

日別	最大震度別回数										震度1以上を 観測した回数		備考
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	回数	累計		
1/6	22	9	4	1	1	1	0	0	0	38	38		
1/7	3	2	2	0	0	0	0	0	0	7	45		
1/8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	45		
1/9	3	2	0	0	0	0	0	0	0	5	50		
1/10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50		
1/11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50		
1/12	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	51		
1/13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	51	16時現在	
総計	28	14	6	1	1	1	0	0	0	51			

(注)1月6日10時18分に発生した最大震度5強の地震のほか、その直前の10時17分に発生した地震1回(最大震度2)を含んでいます。

時間別 (直近2日分)	最大震度別回数										震度1以上を 観測した回数	備考
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	回数		
1/12 00時-01時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
01時-02時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
02時-03時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
03時-04時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
04時-05時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
05時-06時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
06時-07時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
07時-08時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
08時-09時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
09時-10時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
10時-11時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
11時-12時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
12時-13時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
13時-14時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
14時-15時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
15時-16時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
16時-17時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
17時-18時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
18時-19時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
19時-20時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
20時-21時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
21時-22時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
22時-23時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
23時-24時	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
1/13 00時-01時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
01時-02時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
02時-03時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
03時-04時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
04時-05時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
05時-06時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
06時-07時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
07時-08時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
08時-09時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
09時-10時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
10時-11時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
11時-12時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
12時-13時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
13時-14時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
14時-15時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
15時-16時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

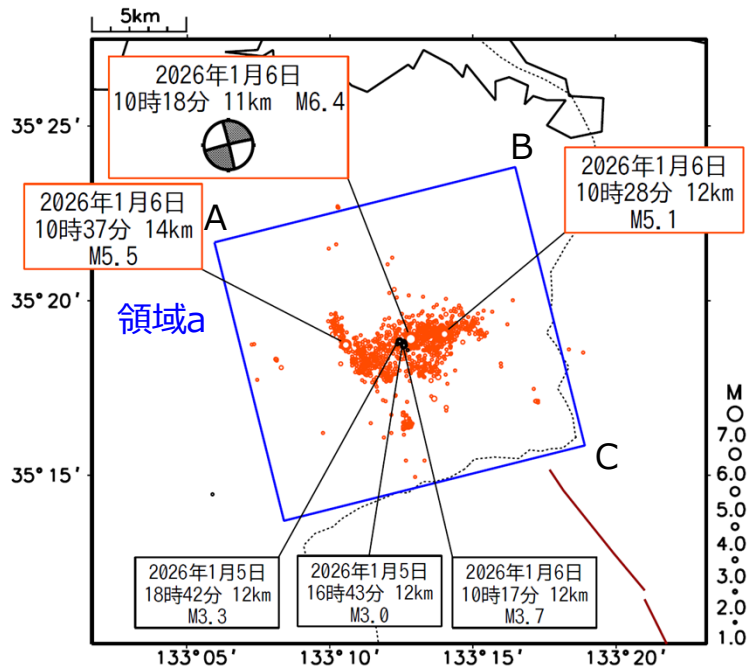


1月6日 島根県東部の地震（今回の地震活動）

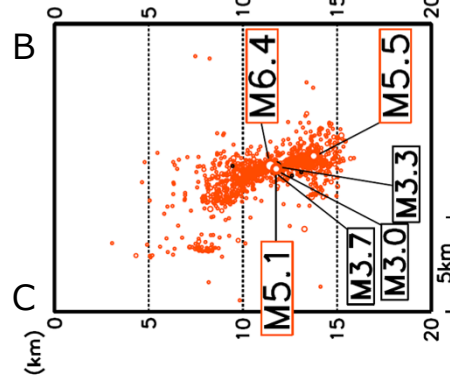
震央分布図

2026年1月5日～12日、深さ0～20km、 $M \geq 1.0$

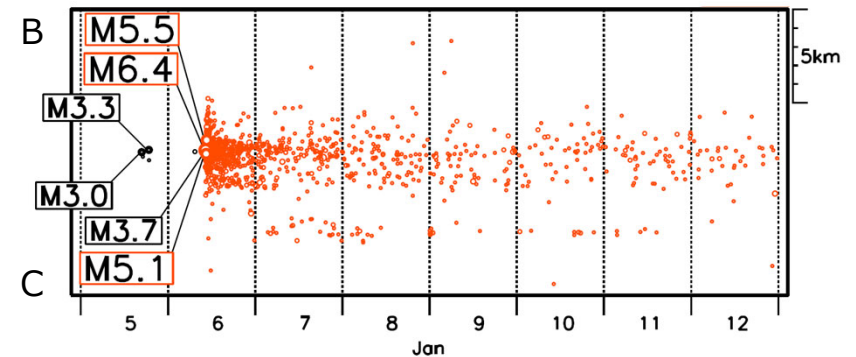
1月5日10時18分（ $M6.4$ ）以降の地震を赤色で表示



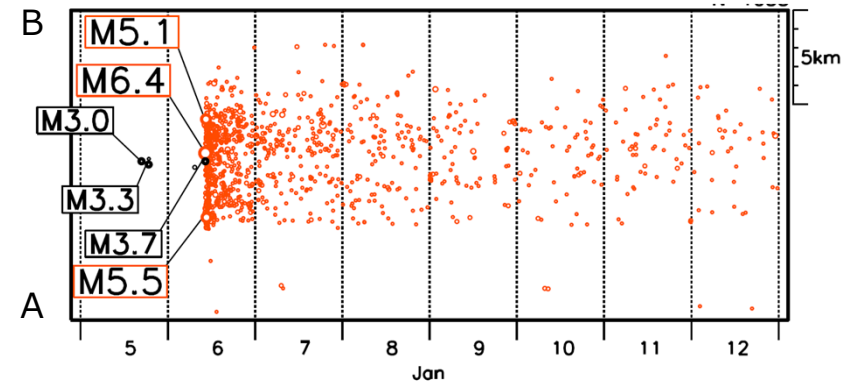
領域a内の断面図（B-C投影）



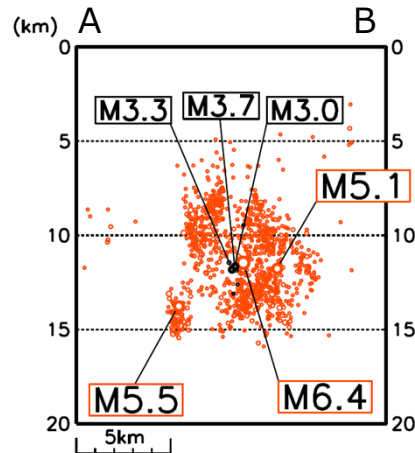
領域a内の時空間分布図（B-C投影）



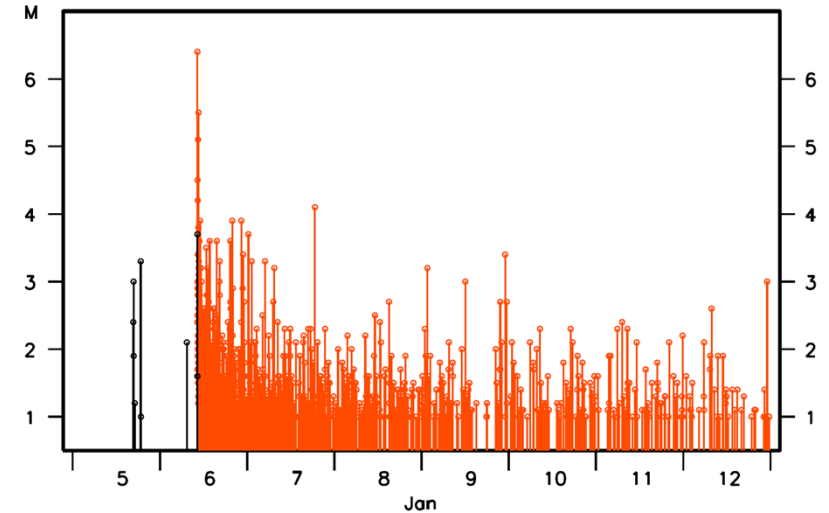
領域a内の時空間分布図（A-B投影）



領域a内の断面図（A-B投影）



領域a内のM-T図



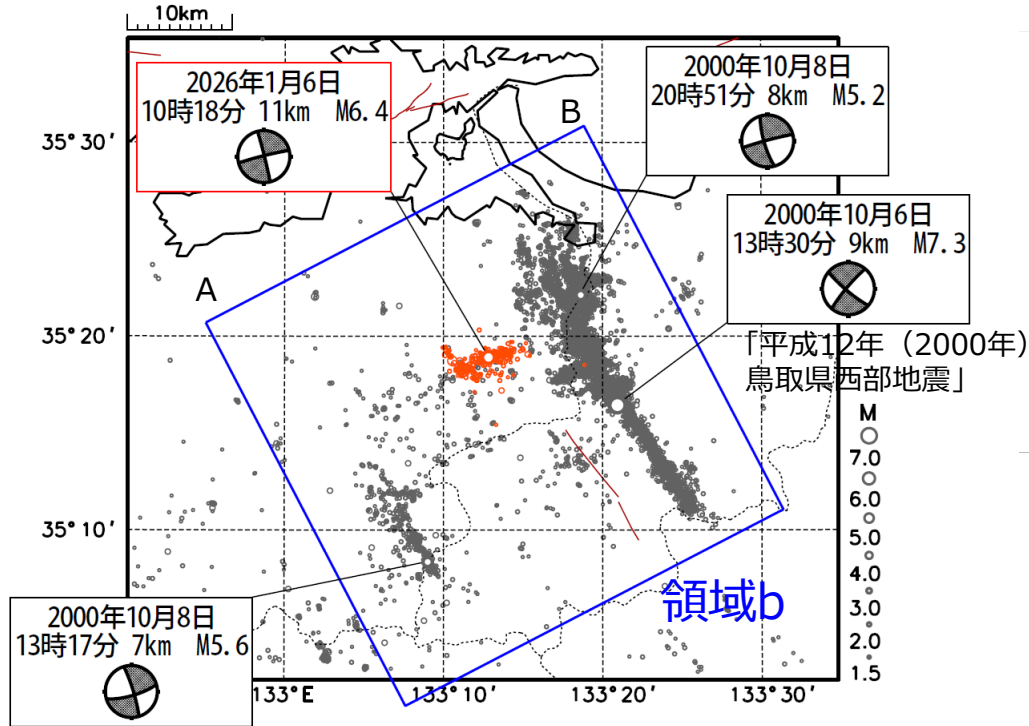
震央分布図中の茶色実線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す

1月6日 島根県東部の地震（1997年10月以降の地震活動）

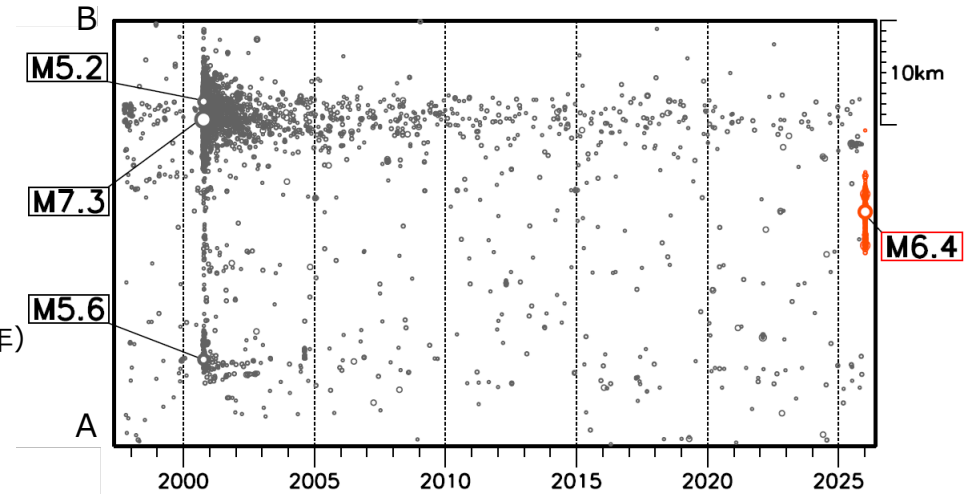
震央分布図

1997年10月1日～2026年1月6日、深さ0～30km、 $M \geq 1.5$

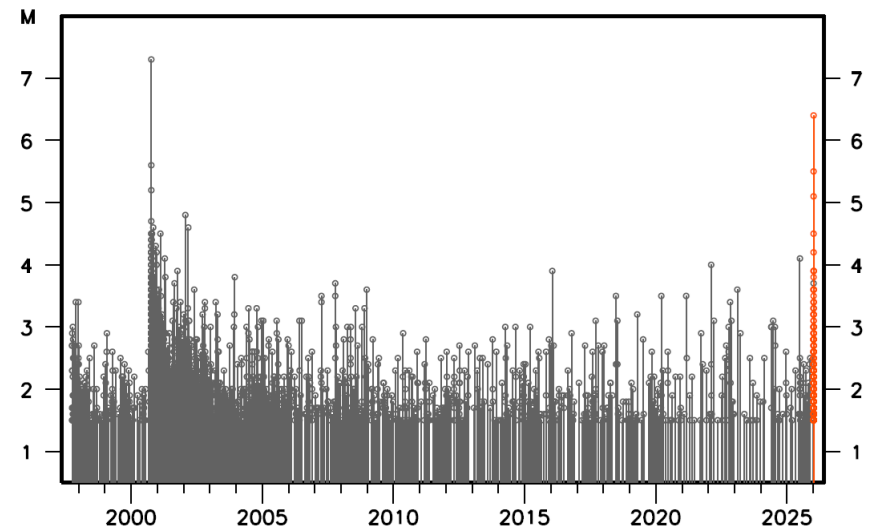
20256年1月5日10時18分（M6.4）以降の地震を**赤色**で表示



領域b内の時空間分布図 (A-B投影)



領域b内のM-T図



震央分布図中の茶色実線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す

中国地域の活断層で発生する地震の長期評価

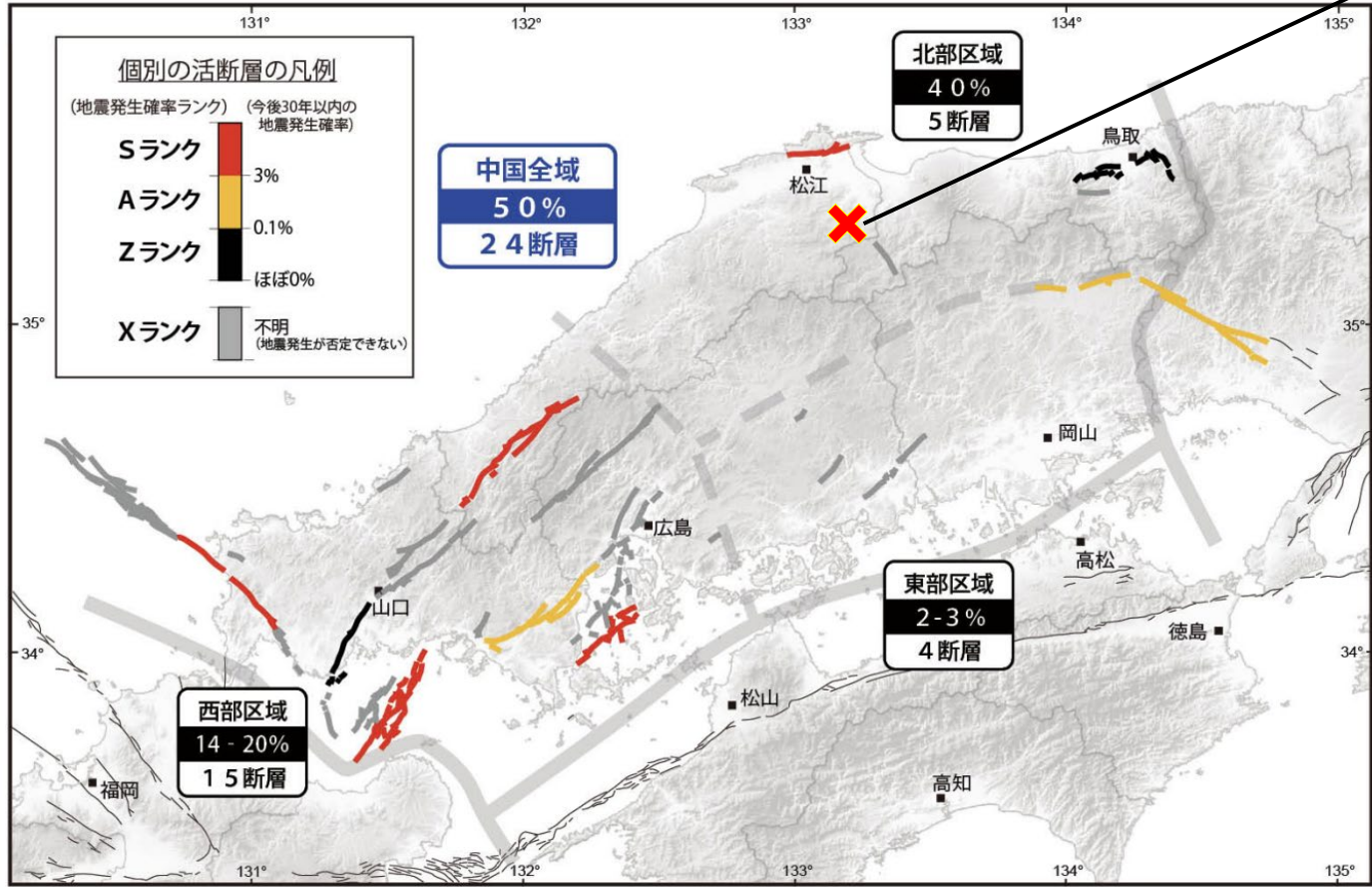
地域内でM6.8以上の地震が30年以内に発生する確率

北部区域・・・活断層は少ないが、地震活動は比較的活発

東部区域・・・活断層も少なく、地震活動も低調

西部区域・・・活断層が相対的に多く、活動性も概して高い

2026/1/6 M6.4



※黒細線は評価対象外の活断層

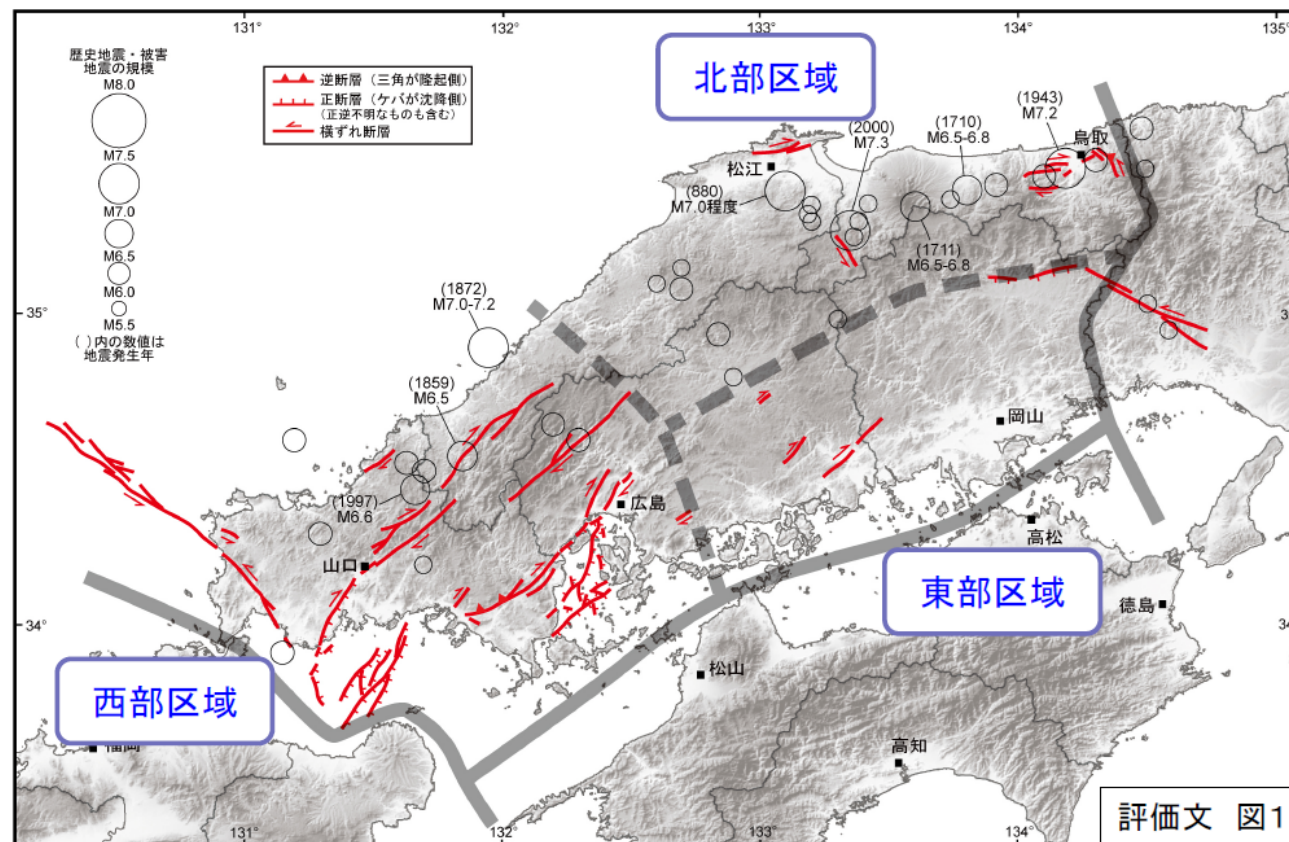
4. 活断層で発生する地震の規模・確率

区域	M6.8以上の地震が 30年以内に 発生する確率※		活断層	区域内の最大の 地震の規模 (マグニチュード)
	各区域	中国全域		
北部	40%		鹿野－吉岡断層 ほか4断層	M7.2程度
東部	2-3%	50%	山崎断層帯 ほか3断層	M7.7程度
西部	14-20%		菊川断層帯 ほか14断層	M7.8-8.2程度 もしくはそれ以上

※ これらの確率は、区域内の最大規模の地震が発生する確率を表すものではない

②中国地域内の区分

活断層の分布・特徴、地質構造や地震活動の特性を基に、3つの区域に分割



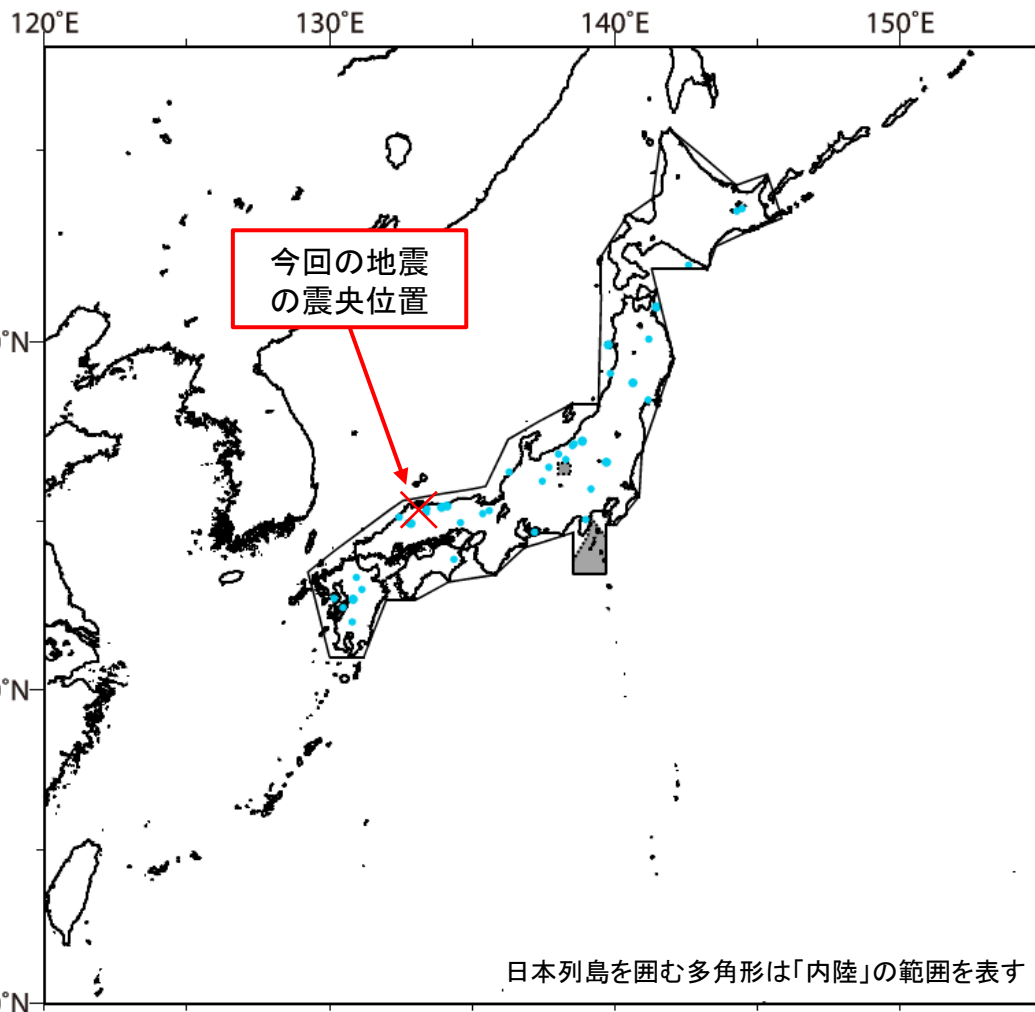
中国地域の評価対象の活断層、ずれの向きと種類及び歴史地震・被害地震の震央

区域は、短期間で変化する事の無い、活断層の特徴やこれを形成した要因となる地質・地下構造等の特性を考慮した。このため、境界は明確に分かれるものではなく、また地震活動を縛るものでもない。

震源周辺における規模の近い地震の続発事例について

大きな地震発生後に規模の近い地震が続発した過去の事例 (内陸地殻内)

1923年～2016年6月、内陸で発生した深さ0～30km、マグニチュード5.0以上、規模の差が0.5以内もしくは同規模以上の地震が発生した地震を●で表示



日本列島を囲む多角形は「内陸」の範囲を表す

規模が近い地震が続発した過去の事例は、地震調査研究推進本部地震調査委員会「大地震後の地震活動の見通しに関する情報のあり方」報告書による。

■日本全国での過去の事例

内陸の浅い場所で発生した大きな地震の場合、過去には規模が近い地震が続発した事例があります(左図の●及び灰色の領域)。また、まれに、発生した大きな地震よりも、より規模の大きな地震が発生した事例もあります(563事例中、35事例で全体の6%)。

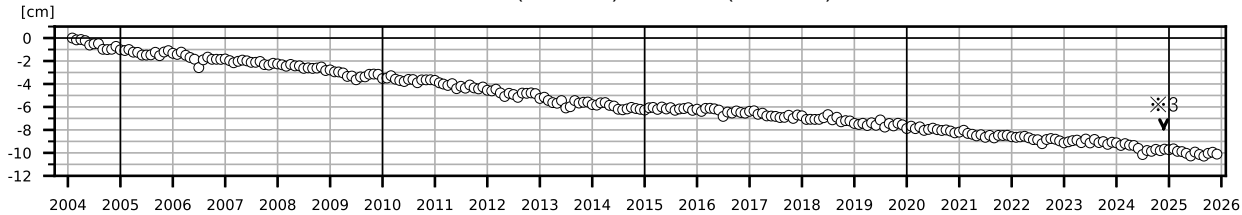
■今回の地震の周辺における過去の事例

今回の地震の周辺では、1990年に鳥取県西部で発生したM5.1の地震の1分後にM4.8の地震が、2.3日後にM5.2の地震が、10.4日後にM5.1の地震が発生した事例があります。また、1989年に鳥取県西部で発生したM5.3の地震の5.9日後にM5.5の地震が発生した事例もあります。

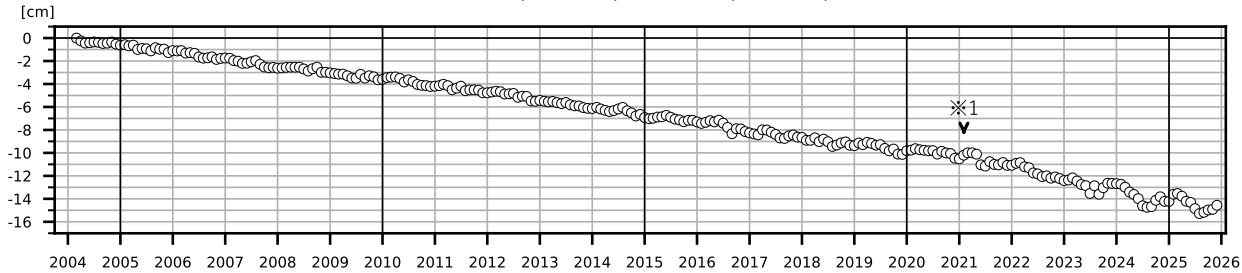
紀伊半島及び室戸岬周辺 電子基準点の上下変動

潮岬周辺及び室戸岬周辺の長期的な沈降傾向が続いている。

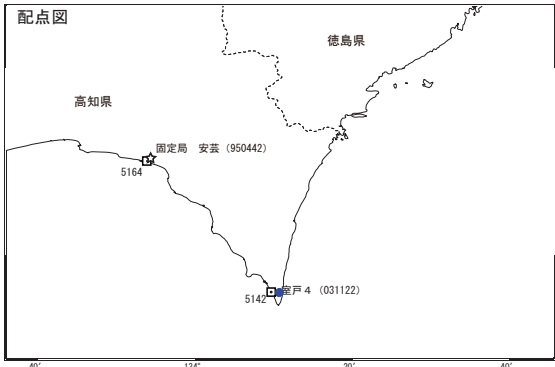
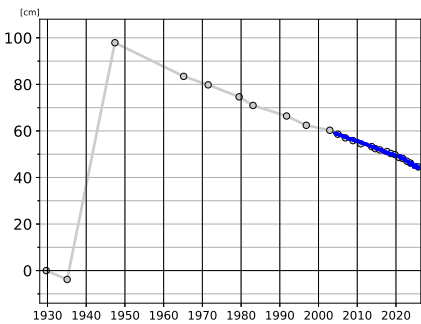
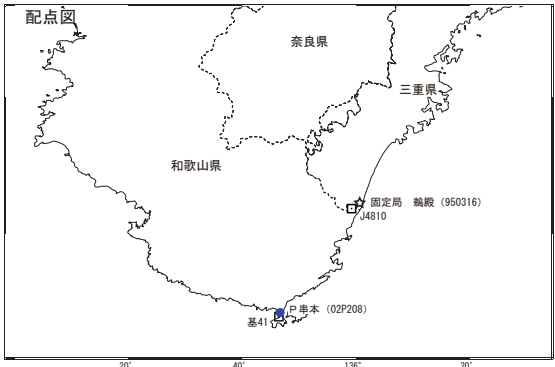
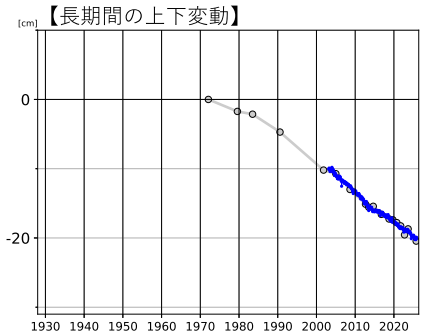
鵜殿 (950316) - P 串本 (02P208)



安芸 (950442) - 室戸 4 (031122)



○：GNSS 連続観測（GEONET 月平均値）



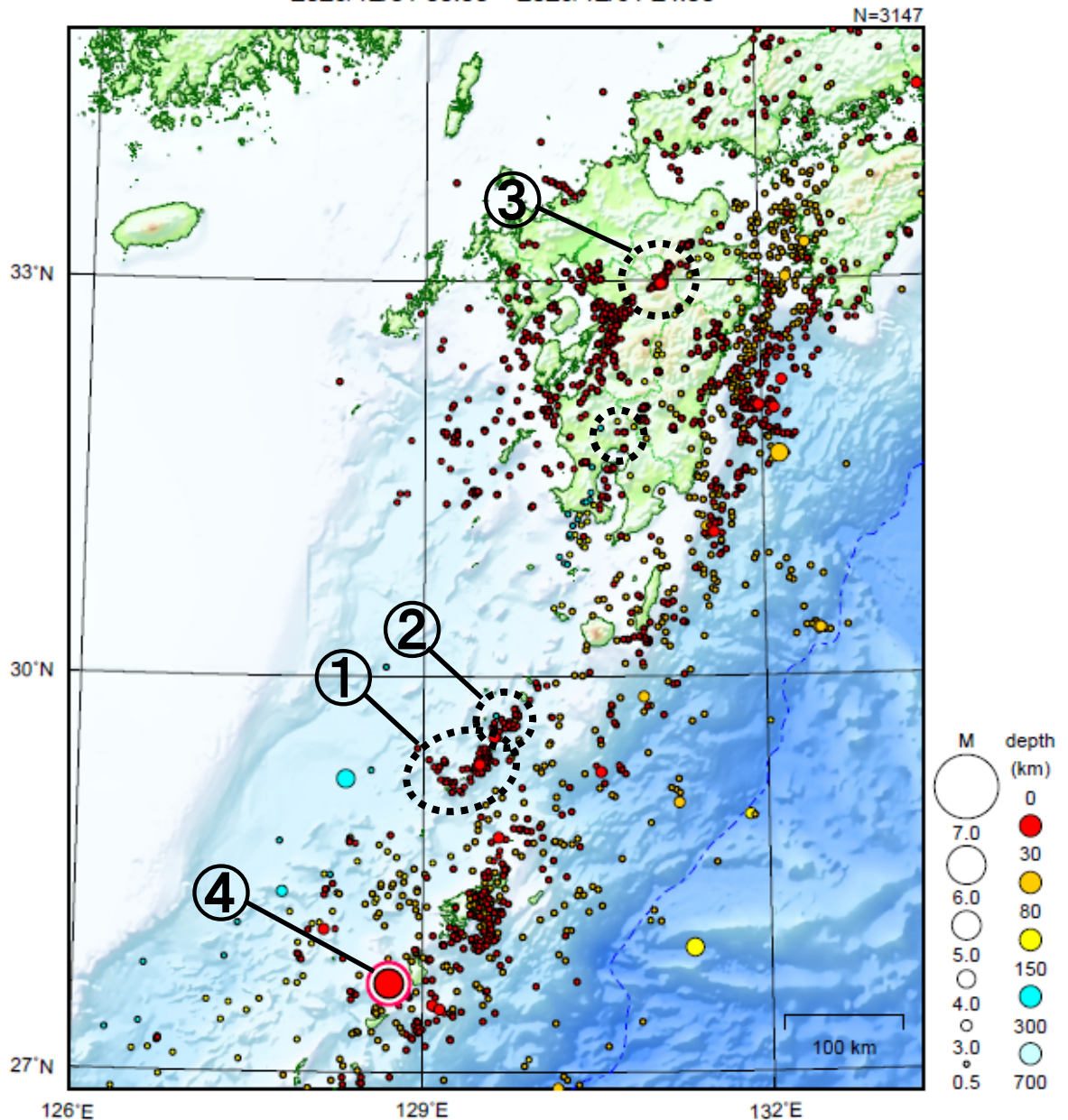
- GNSS 連続観測のプロット点は、GEONET による日々の座標値（F5：最終解）から計算した値の月平均値である。（最新のプロット点：12 月 1 日～12 月 6 日の平均値）
- 灰色のプロットは電子基準点の最寄りの水準点の水準測量結果を示している（固定：J4810、5164）。

※ 1 2021 年 2 月 2 日に電子基準点「安芸」のアンテナ更新及びレドーム交換を実施した。

※ 2 2024 年 11 月 25 日に電子基準点「鵜殿」のアンテナ更新を実施した。

九州地方

2025/12/01 00:00 ~ 2025/12/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- ① トカラ列島近海（小宝島付近）では、12 月中に震度 1 以上を観測した地震が 10 回（震度 3：1 回、震度 1：9 回）^{（注）} 発生した。このうち最大規模の地震は、29 日に発生した M3.4 の地震（最大震度 3）である。
- ② トカラ列島近海（諏訪之瀬島）では、12 月中に震度 1 以上を観測した地震が 10 回（震度 3：1 回、震度 2：2 回、震度 1：7 回）発生した。このうち最大規模の地震は、21 日に発生した M3.5 の地震（最大震度 3）である。
- ③ 熊本県阿蘇地方では、12 月中に震度 1 以上を観測した地震が 14 回（震度 3：2 回、震度 2：5 回、震度 1：7 回）発生した。このうち最大規模の地震は、29 日に発生した M3.9 の地震（最大震度 3）である。
- ④ 12 月 30 日に奄美大島近海で M5.7 の地震（最大震度 4）が発生した。

（注）震度 1 以上を観測した地震の回数は、後日の調査で変更する場合がある。

〔上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。〕

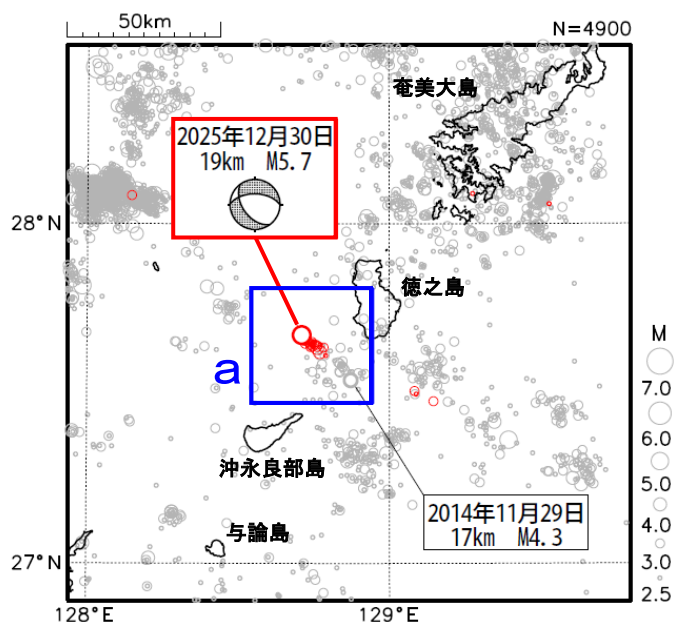
12月30日 奄美大島近海の地震

震央分布図

(1994年10月1日～2025年12月31日、
深さ0～30km、 $M \geq 2.5$)

2025年12月の地震を赤色○で表示

図中の発震機構はCMT解

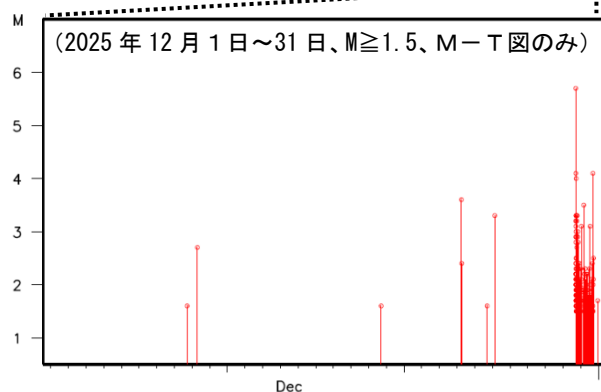
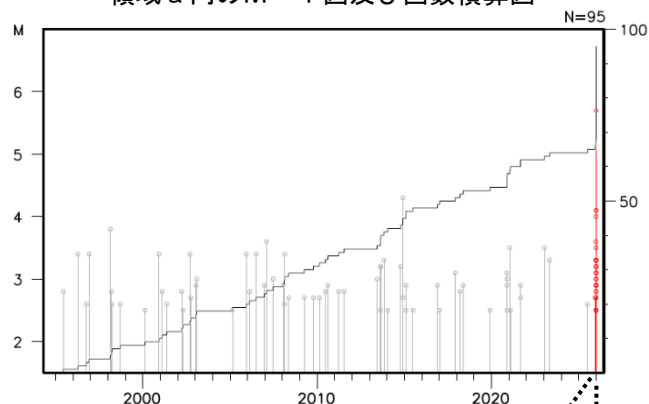


2025年12月30日17時12分に奄美大島近海の深さ19kmで $M 5.7$ の地震 (最大震度4) が発生した。この地震は陸のプレート内で発生した。この地震の発震機構 (CMT解) は北北東-南南西方向に張力軸を持つ正断層型である。

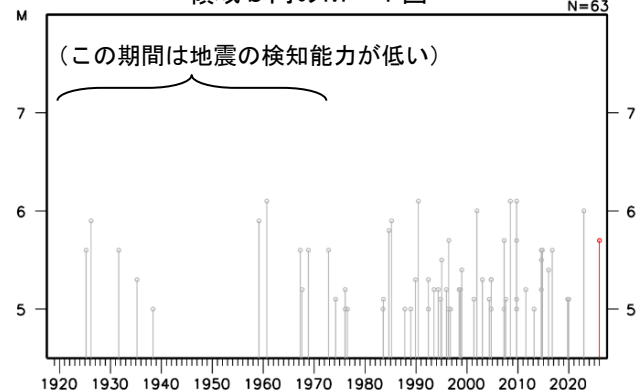
1994年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近 (領域a) では、2014年11月29日に $M 4.3$ の地震 (最大震度2) が発生するなど $M 4$ 程度の地震は時々発生しているが、 $M 5.0$ 以上の地震は発生していなかった。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域b) では、 $M 6.0$ 以上の地震が6回発生している。2008年7月8日には $M 6.1$ の地震が発生し、与論町のホテルで壁の落下、石膏ボードの破損などの被害が生じた (被害は「日本被害地震総覧」による)。

領域a内のM-T図及び回数積算図



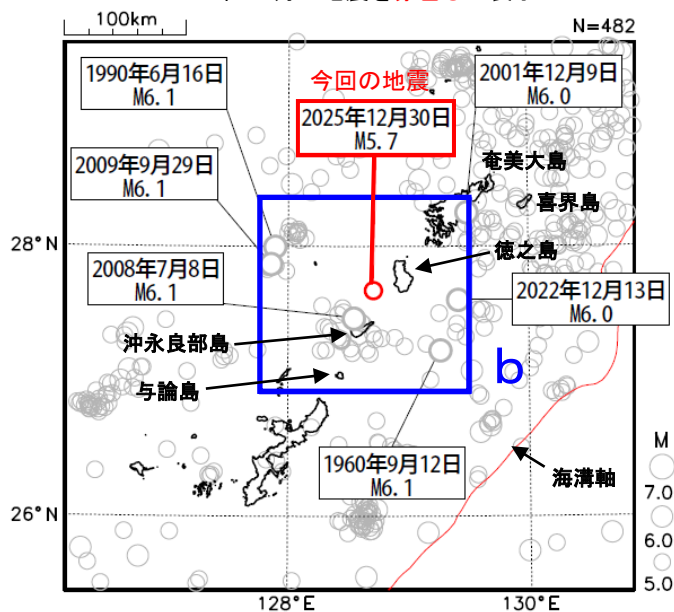
領域b内のM-T図



震央分布図

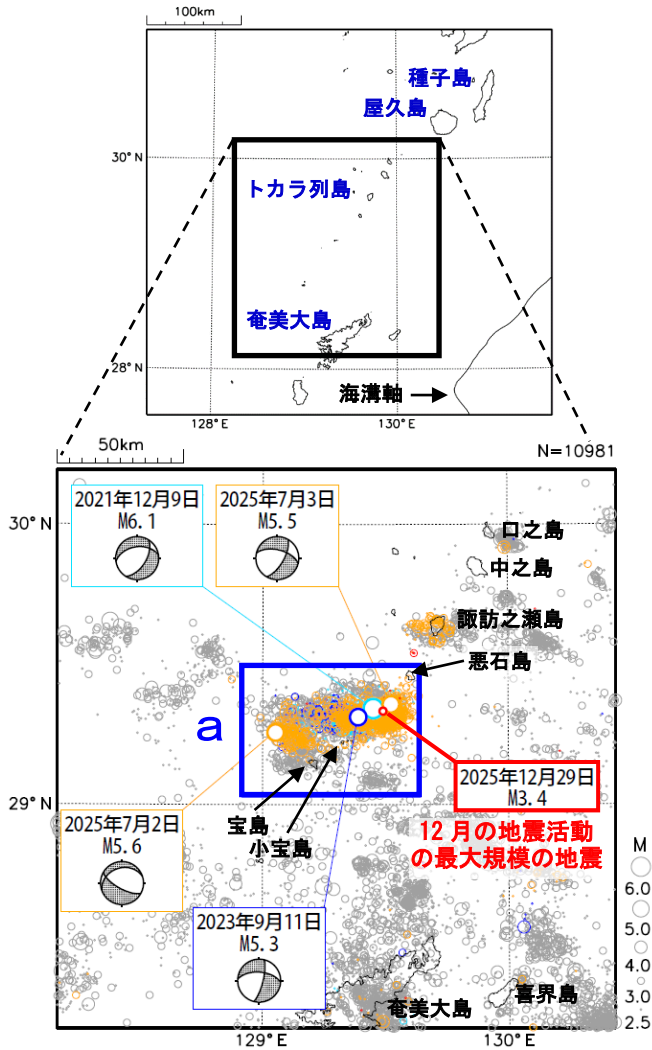
(1919年1月1日～2025年12月31日、
深さ0～100km、 $M \geq 5.0$)

2025年12月の地震を赤色○で表示



トカラ列島近海の地震活動（小宝島付近）

震央分布図
 (1994年10月1日～2025年12月31日、
 深さ0～50km、 $M \geq 2.5$)
 2021年12月の地震を水色○で表示
 2023年9月の地震を青色○で表示
 2025年6月～11月の地震をオレンジ色○で表示
 2025年12月の地震を赤色○で表示
 図中の発震機構はCMT解



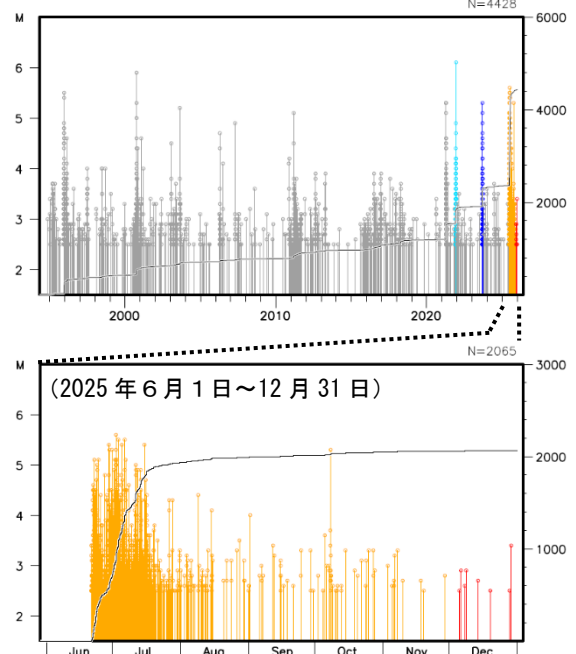
トカラ列島近海（小宝島付近）では、2025年12月に震度1以上を観測した地震が10回（震度3：1回、震度1：9回）^(注1) 発生した。このうち最大規模の地震は29日07時51分に発生したM3.4の地震（最大震度3）である。今回の地震活動は2025年6月21日から活発になっており、7月3日16時13分にはM5.5の地震（最大震度6弱）が発生した。地震活動は7月20日頃から低下してきており、規模が大きな地震の回数も減少しているが、活動は継続している。6月21日から12月31日までに震度1以上を観測した地震が2405回（震度6弱：1回、震度5強：3回、震度5弱：4回、震度4：52回、震度3：165回、震度2：586回、震度1：1594回）^(注1) 発生した。これらの地震は陸のプレート内で発生した。これらの地震により、住家一部破損1棟の被害が生じた（被害は総務省消防庁による）。

1994年10月以降の活動をみると、今回の地震活動域付近（領域a）では、時々まとまった活動がある。2023年9月8日から活発になった地震活動では、9月30日までに震度1以上を観測した地震が346回発生した（最大震度4の地震2回を含む）。また、2021年12月4日から活発になった地震活動では、12月31日までに震度1以上を観測した地震が308回発生した。このうち、12月9日に発生したM6.1の地震（最大震度5強）により、鹿児島県十島村（悪石島）でがけ崩れ等の被害が生じた（被害は鹿児島県による）。

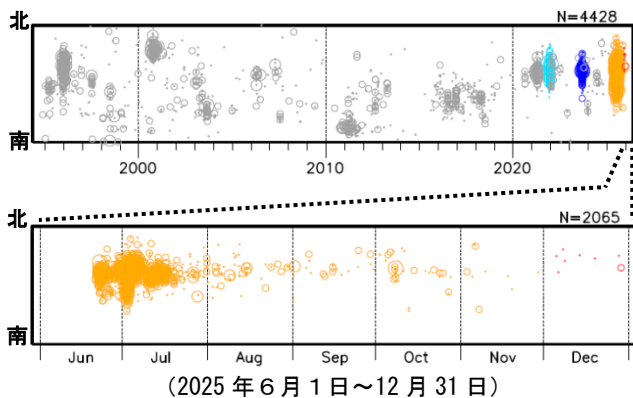
今回の地震活動と過去の主な地震活動について、活動期間ごとに1年間の期間で比較すると多様な活動の形態が見られる（5ページ後を参照）。この地域の地震活動は、活発な期間と落ち着いた期間を繰り返しながら継続することが多く、個々の地震活動の終わりの時期を特定することが難しい。

(注1) 震度1以上を観測した地震の回数は、後日の調査で変更する場合がある。

領域a内のM-T図及び回数積算図

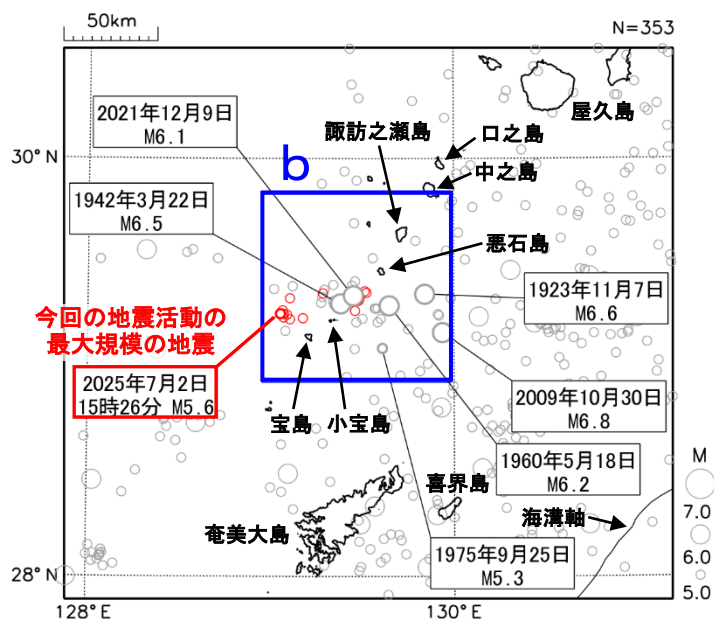


領域a内の時空間分布図（南北投影）



※2025年7月8日15時から、通常用いている観測点に加えて、鹿児島大学設置の臨時観測点 悪石島を使用している。

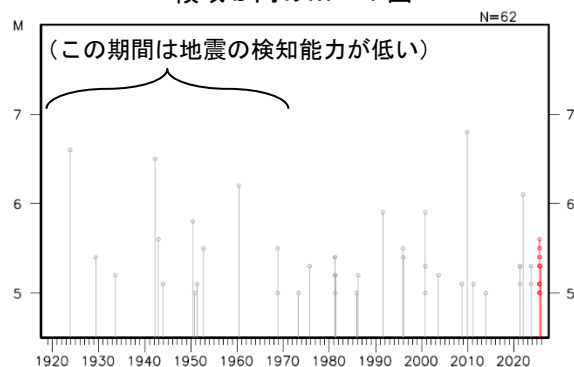
震央分布図
(1919年1月1日～2025年12月31日、
深さ0～100km、 $M \geq 5.0$)
2025年6月以降の地震を赤色○で表示



※2025年7月8日15時から、通常用いている観測点に加えて、鹿児島大学設置の臨時観測点 悪石島を使用している。

1919年以降の活動をみると、今回の地震活動域周辺(領域b)では、 $M5.0$ 以上の地震がしばしば発生している。このうち、2021年12月9日に発生した $M6.1$ の地震(最大震度5強)では、鹿児島県十島村(悪石島)でがけ崩れなどの被害が生じた(被害は鹿児島県による)。また、1975年9月25日に発生した $M5.3$ の地震では、鹿児島県十島村(小宝島)で地割れの被害が生じた(被害は「日本被害地震総覧」による)。

領域b内のM-T図



トカラ列島近海の地震活動(小宝島付近)の最大震度別地震回数表

震度1以上の最大震度別地震回数表(2025年6月21日～12月31日)

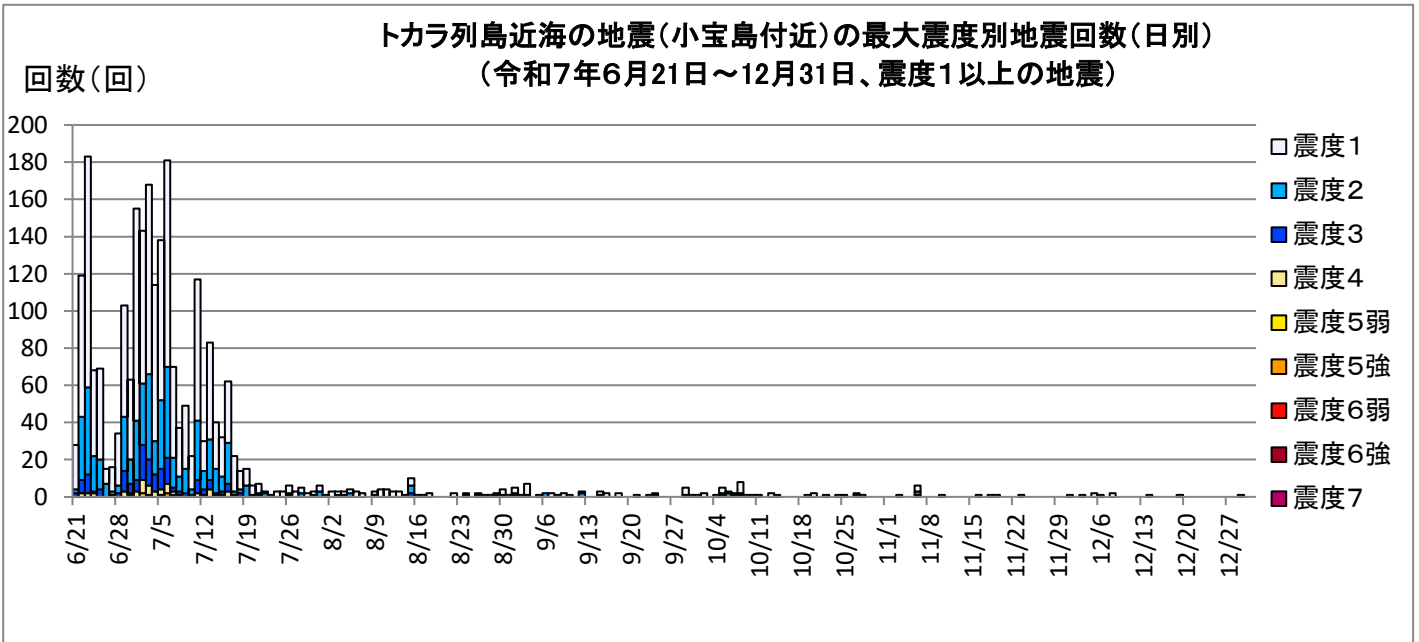
(注)掲載している値は速報のもので、その後の調査で変更する場合があります。

【令和7年6月21日以降の月別発生回数】

月別	最大震度別回数										震度1以上を観測した回数		備考
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	回数	累計		
6/21 - 30	471	173	43	10	1	0	0	0	0	698	698		
7/1 - 31	1002	382	108	41	3	3	1	0	0	1540	2238		
8/1 - 31	49	12	5	0	0	0	0	0	0	66	2304		
9/1 - 30	30	8	3	1	0	0	0	0	0	42	2346		
10/1 - 31	25	8	4	0	0	0	0	0	0	37	2383		
11/1 - 30	8	3	1	0	0	0	0	0	0	12	2395		
12/1 - 31	9	0	1	0	0	0	0	0	0	10	2405		
総計(6月21日～)	1594	586	165	52	4	3	1	0	0	2405			

【令和7年12月1日以降の日別発生回数】

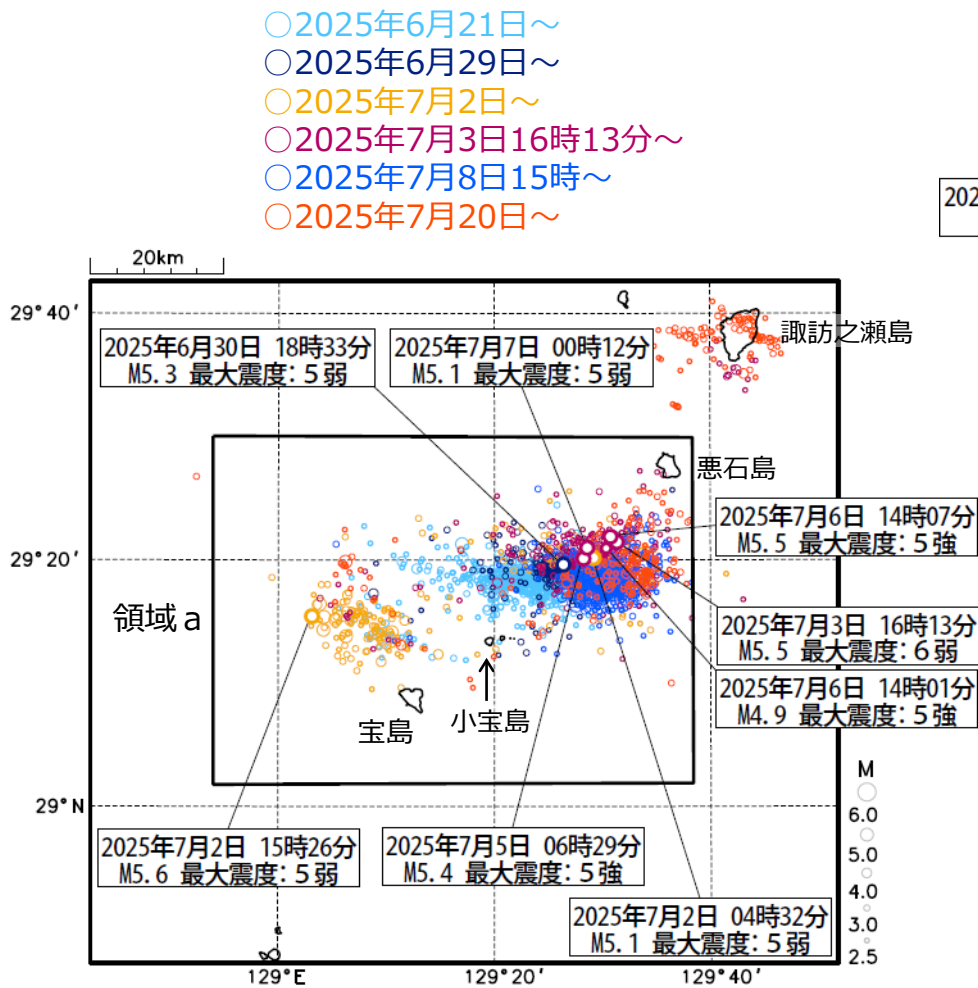
日別	最大震度別回数										震度1以上を観測した回数		備考
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	回数	累計		
12/1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1		
12/2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
12/3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2		
12/4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2		
12/5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4		
12/6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5		
12/7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5		
12/8	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	7		
12/9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7		
12/10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7		
12/11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7		
12/12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7		
12/13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7		
12/14	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8		
12/15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8		
12/16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8		
12/17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8		
12/18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8		
12/19	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	9		
12/20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9		
12/21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9		
12/22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9		
12/23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9		
12/24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9		
12/25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9		
12/26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9		
12/27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9		
12/28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9		
12/29	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	10		
12/30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10		
12/31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10		
総計(12月1日～)	9	0	1	0	0	0	0	0	0	10			



トカラ列島近海の地震活動（小宝島付近） 2025年6月21日以降の地震活動

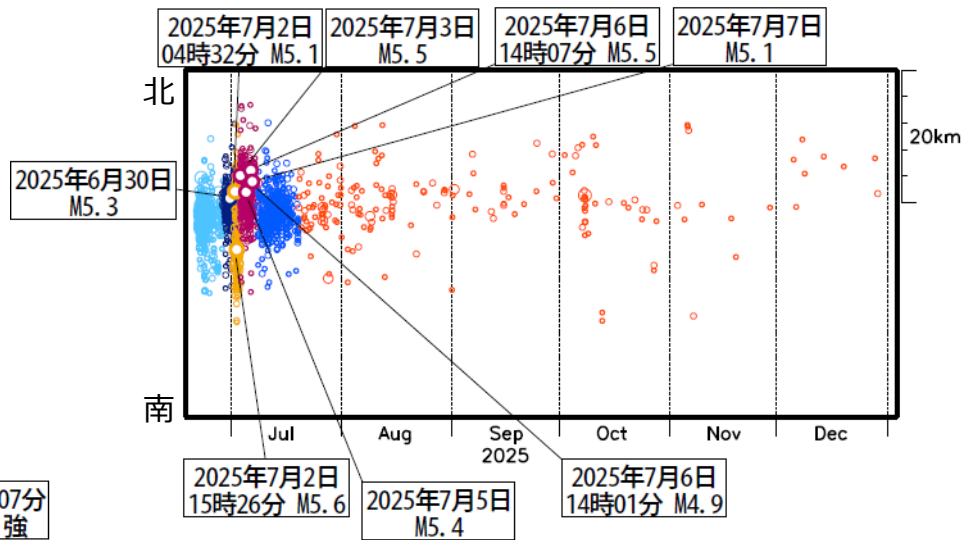
震央分布図

(2025年6月21日～12月31日、深さ0～50km、 $M \geq 2.5$)

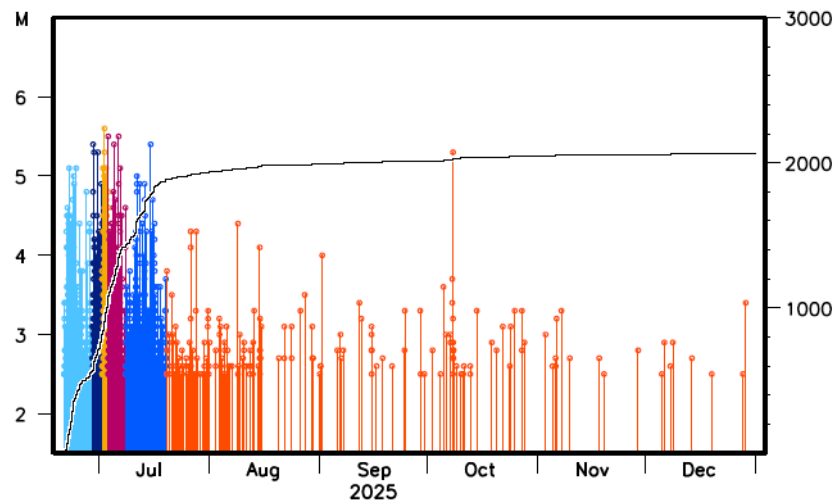


2025年7月8日15時から、通常用いている観測点に加えて、鹿児島大学設置の臨時観測点 悪石島を使用している。

領域a内の時空間分布図（南北投影）

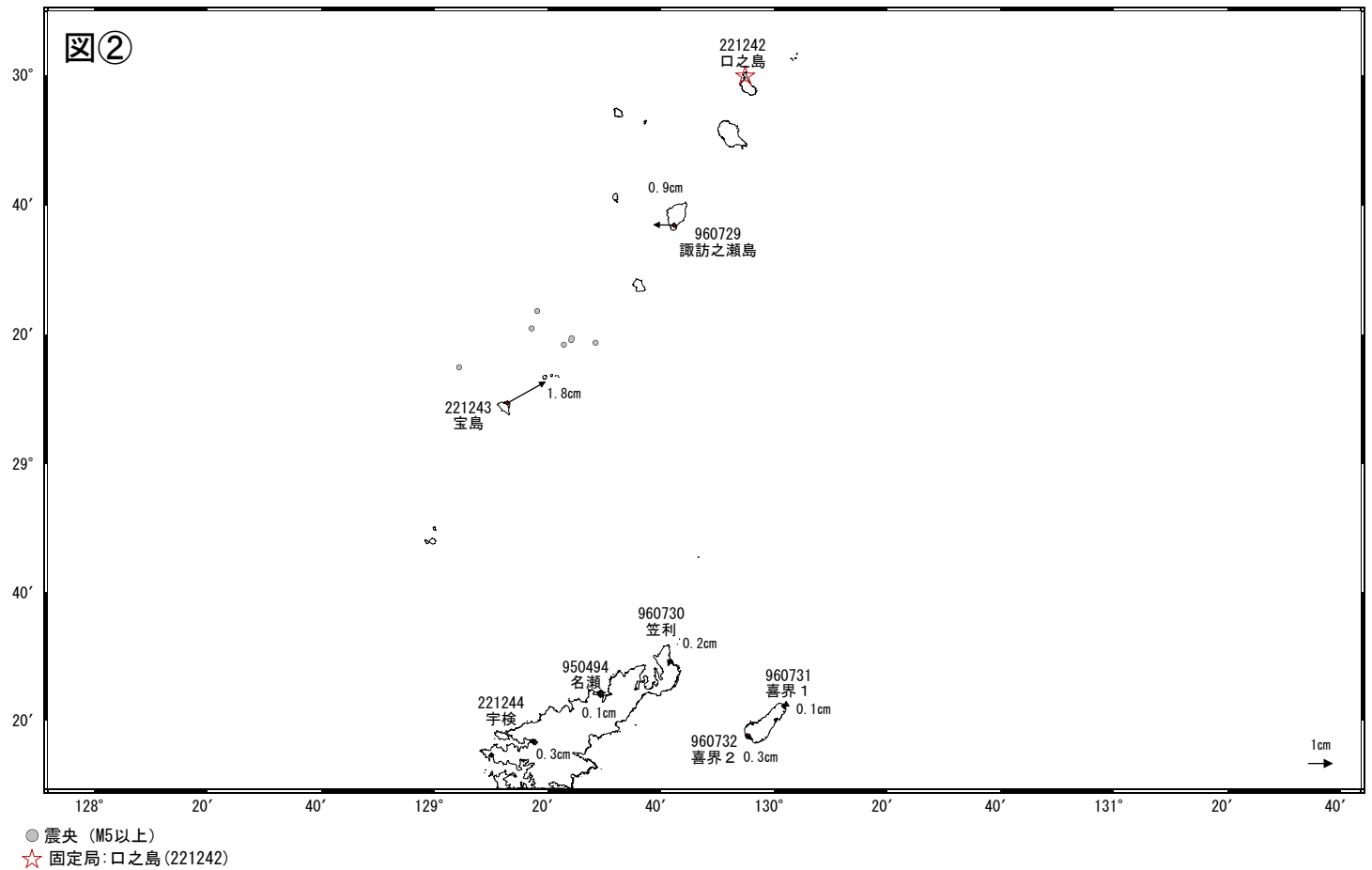


領域a内のM-T図及び回数積算図



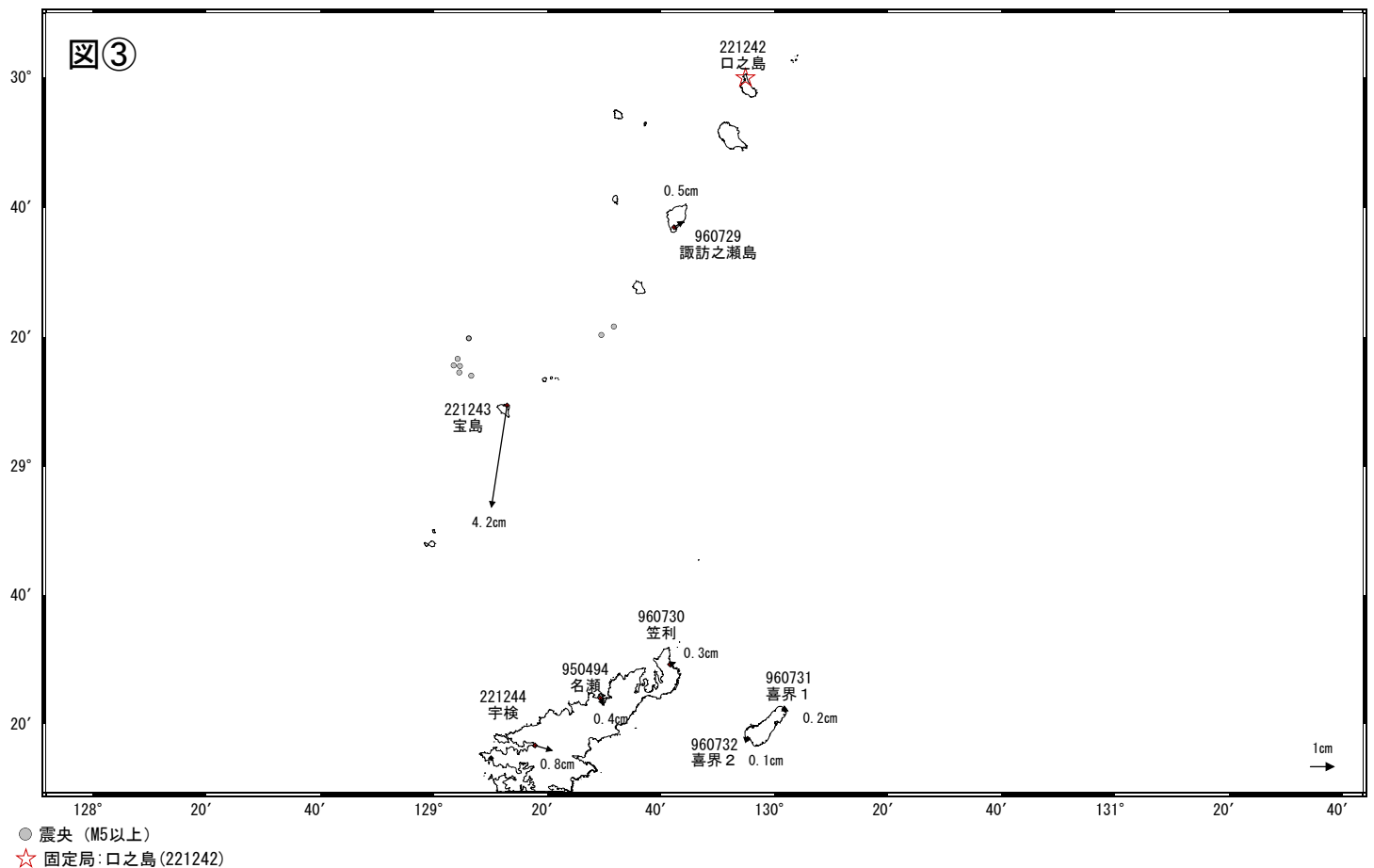
7月2日 15時26分の地震(M5.6 最大震度5弱)前までの地殻変動（暫定）

基準期間: 2025-06-01 00:00~2025-06-07 23:59[F5:最終解]
比較期間: 2025-07-02 03:00~2025-07-02 11:59[Q5:迅速解]



7月2日 15時26分の地震(M5.6 最大震度5弱)前後の地殻変動（暫定）

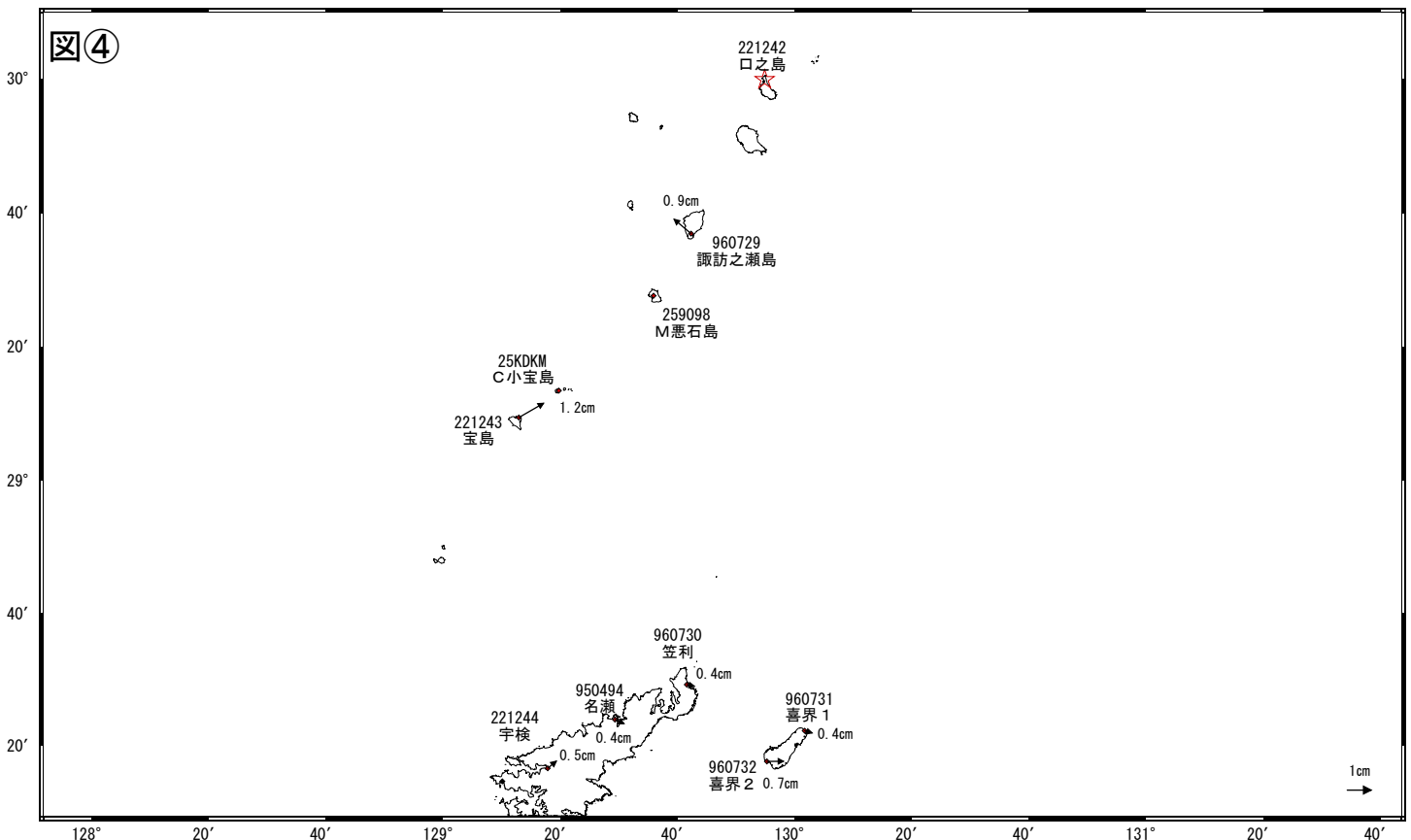
基準期間: 2025-07-02 03:00~2025-07-02 11:59[Q5:迅速解]
比較期間: 2025-07-03 03:00~2025-07-03 14:59[Q5:迅速解]



※諏訪之瀬島で見られる動きは、この地震活動と関連したものであるかは不明。

7月4日から7月22日の地殻変動

基準期間: 2025-07-04~2025-07-04 [F5: 最終解]
比較期間: 2025-07-20~2025-07-22 [F5: 最終解]



震央 (M5以上)

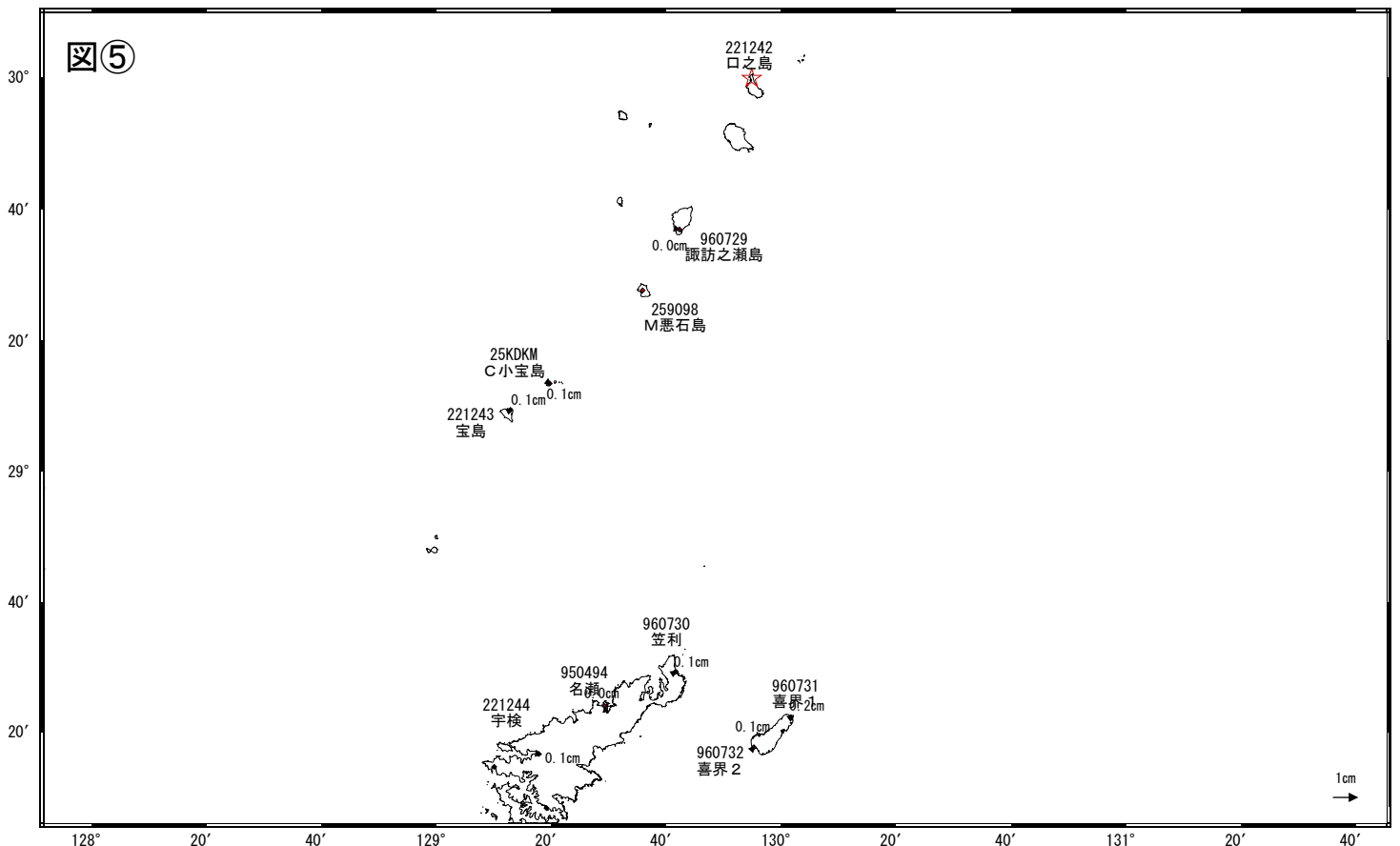
☆ 固定局: 口之島 (221242)

※ M悪石島、C小宝島は基準期間のデータが存在しない。

※ 諏訪之瀬島で見られる動きが地震活動と関連したものであるかは不明である。

最近1か月の地殻変動 (暫定)

基準期間: 2025-12-03~2025-12-05 [F5: 最終解]
比較期間: 2026-01-03~2026-01-05 [R5: 速報解]



震央 (M5以上)

☆ 固定局: 口之島 (221242)

※ M悪石島は基準期間のデータが存在しない。

トカラ列島近海の地震活動（諏訪之瀬島付近）

震央分布図

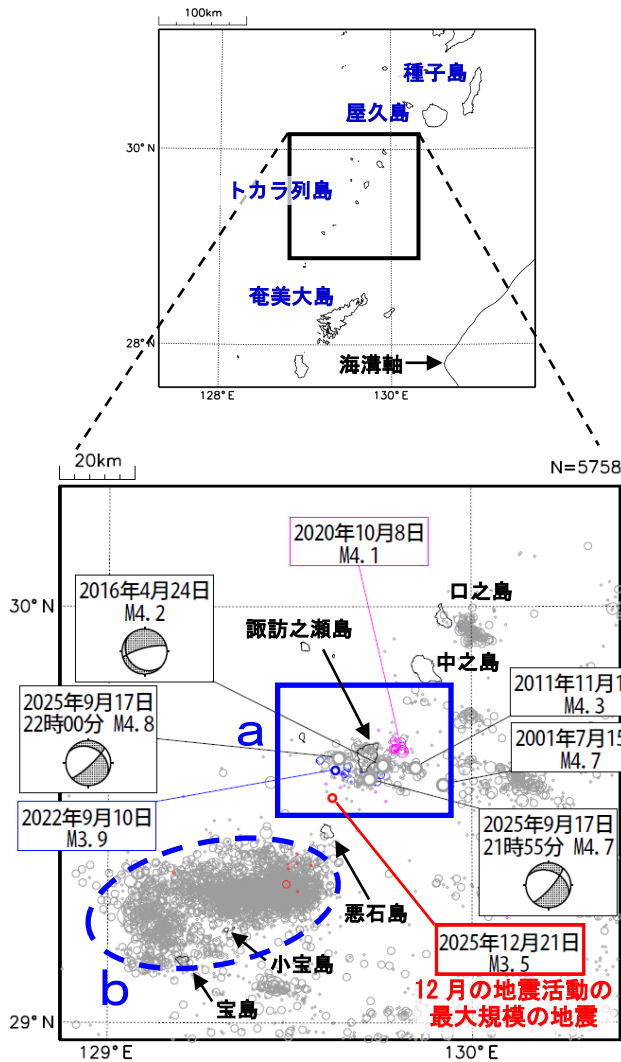
(1994年10月1日～2025年12月31日、
深さ0～50km、 $M \geq 2.5$)

2020年9月～10月の地震を桃色○で表示

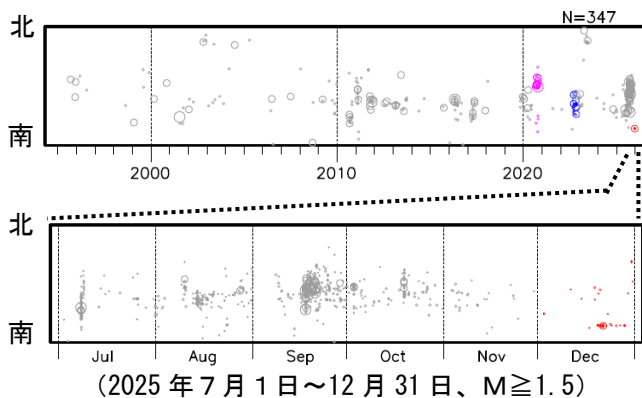
2022年9月～10月の地震を青色○で表示

2025年12月の地震を赤色○で表示

図中の発震機構はCMT解



領域a内の時空間分布図（南北投影）



※2025年7月8日15時から、通常用いている観測点に加えて、鹿児島大学設置の臨時観測点 悪石島を使用している。

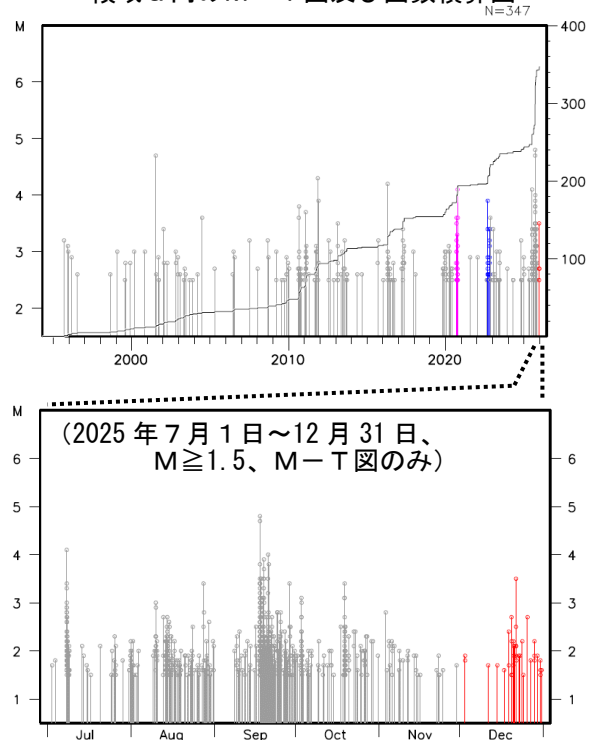
トカラ列島近海（諏訪之瀬島付近）では、2025年12月に震度1以上を観測した地震が10回（震度3：1回、震度2：2回、震度1：7回）発生した。このうち最大規模の地震は、21日22時03分に発生したM3.5の地震（最大震度3）である。この地震活動は陸のプレート内で発生した。なお、今回の地震活動域付近（領域a）では、2025年7月から時々まとまった地震活動が見られ、9月17日にM4.7の地震（最大震度5弱）が発生し、地震活動が活発となった。その後、地震活動は消長を繰り返しながら継続している。7月1日から12月31日までに震度1以上を観測した地震が212回（震度5弱：1回、震度4：3回、震度3：27回、震度2：47回、震度1：134回）^{（注1）}発生している。

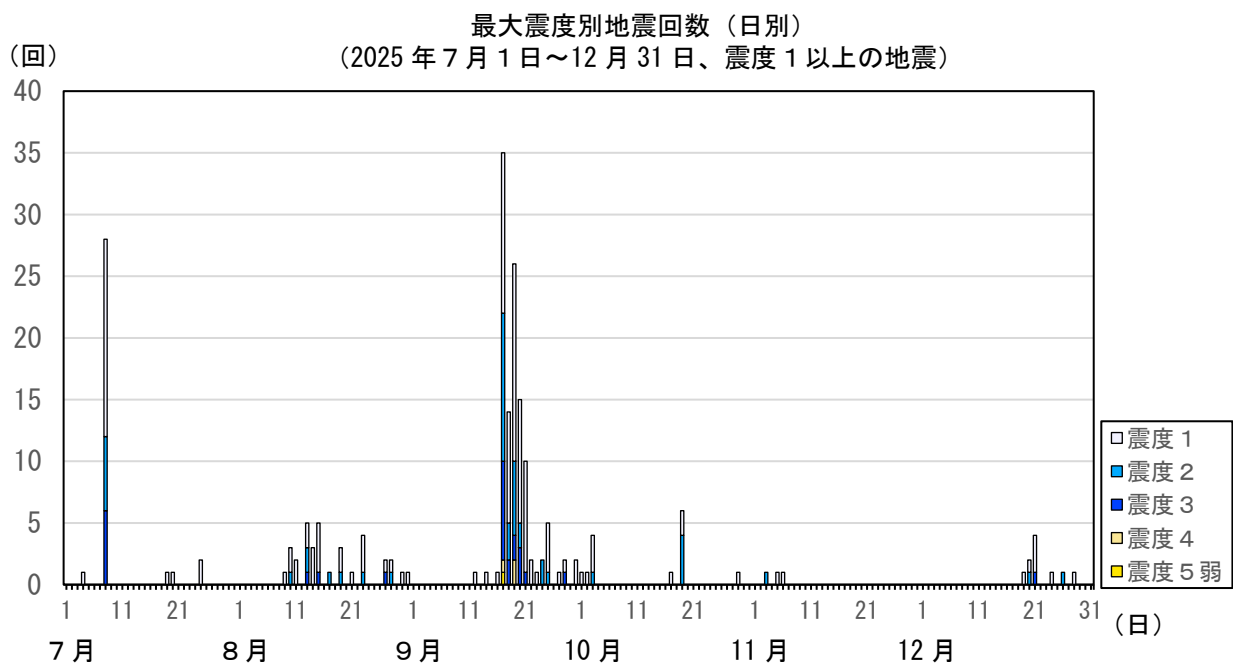
1994年10月以降の活動をみると、今回の地震活動域付近（領域a）では、時々まとまった活動が見られる。最近では、2022年9月から10月の活動で、震度1以上を観測した地震が27回（震度3：5回、震度2：4回、震度1：18回）発生した。このうち、最大規模の地震は2022年9月10日に発生したM3.9の地震（最大震度3）である。また、2020年9月から10月の活動で、震度1以上を観測した地震が14回（震度3：2回、震度2：5回、震度1：7回）発生した。このうち、最大規模の地震は2020年10月8日に発生したM4.1の地震（最大震度3）である。

なお、今回の地震活動域の南西にある小宝島付近（領域b）では、2025年6月21日から地震活動が活発となった。

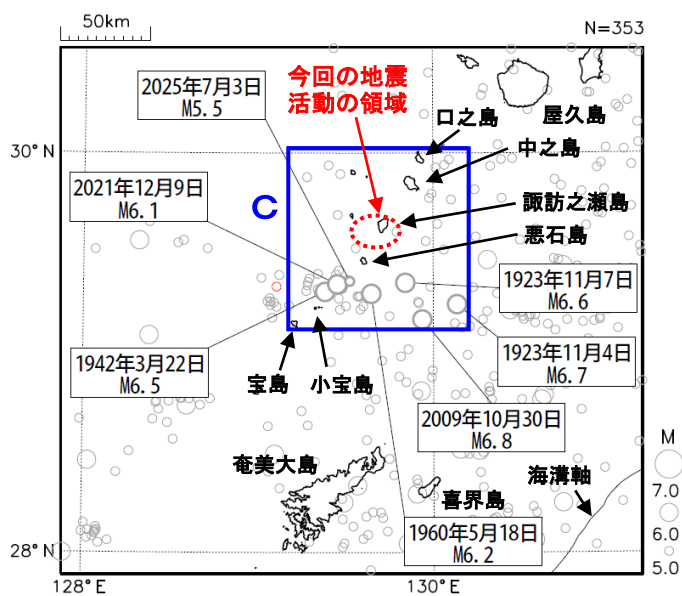
（注1）震度1以上を観測した地震の回数は、後日の調査で変更する場合がある。

領域a内のM-T図及び回数積算図



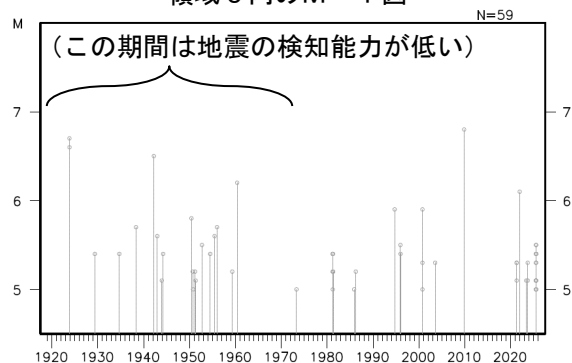


震央分布図
（1919年1月1日～2025年12月31日、
深さ0～100km、 $M \geq 5.0$ ）



1919年以降の活動をみると、今回の地震活動域周辺（領域c）では、 $M5.0$ 以上の地震がしばしば発生している。このうち、2021年12月9日に発生した $M6.1$ の地震（最大震度5強）では、鹿児島県十島村（悪石島）でがけ崩れなどの被害が生じた（被害は鹿児島県による）。

領域c内のM-T図



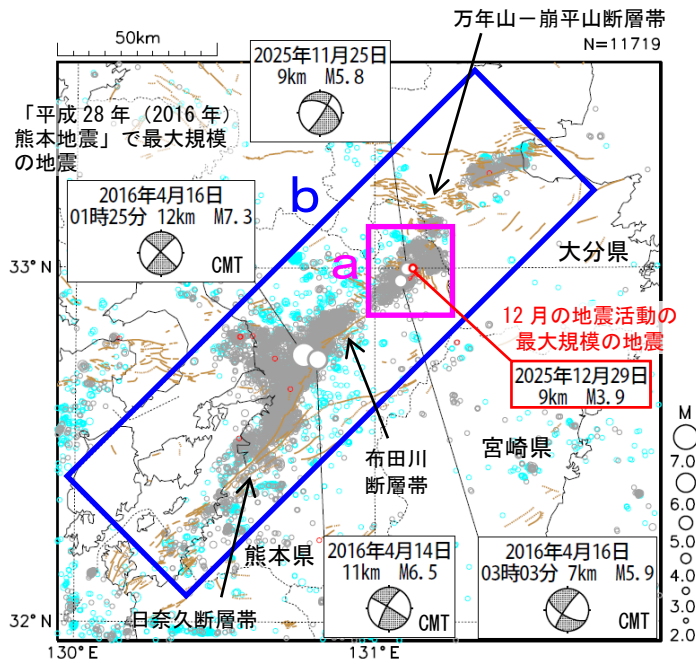
※2025年7月8日15時から、通常用いている観測点に加えて、鹿児島大学設置の臨時観測点 悪石島を使用している。

11月25日からの熊本県阿蘇地方の地震活動

震央分布図

(2000年10月1日～2025年12月31日、
深さ0～20km、 $M \geq 2.0$)

2016年4月14日21時より前に発生した地震を薄青色○、
2016年4月14日21時以降に発生した地震を灰色○、
2025年12月1日以降に発生した地震を赤色○で表示



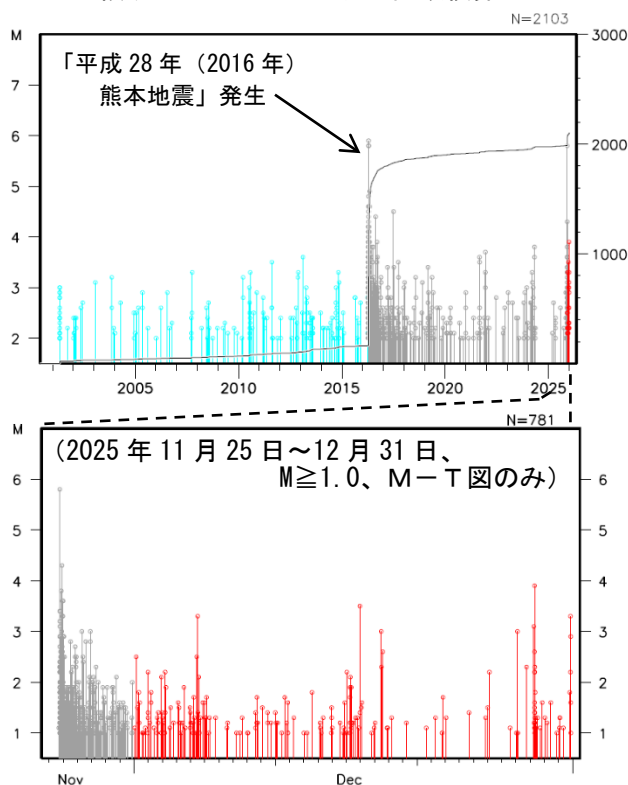
図中の茶色の線は地震調査研究推進本部の
長期評価による活断層を示す

熊本県阿蘇地方では、2025年12月に震度1以上を観測した地震が14回（震度3：2回、震度2：5回、震度1：7回）発生した。このうち最大規模の地震は、29日07時35分に発生したM3.9の地震（深さ9km、最大震度3）である。これらの地震は地殻内で発生した。今回の地震活動域付近（領域a）では、2025年11月25日18時01分にM5.8の地震（深さ9km、最大震度5強）が発生し、熊本県で負傷者1人の被害が生じた（被害は2025年12月3日14時00分現在、総務省消防庁による）。この領域ではM5.8の地震の発生後、12月31日までに震度1以上を観測した地震が61回（震度5強：1回、震度4：1回、震度3：4回、震度2：19回、震度1：36回）発生した。

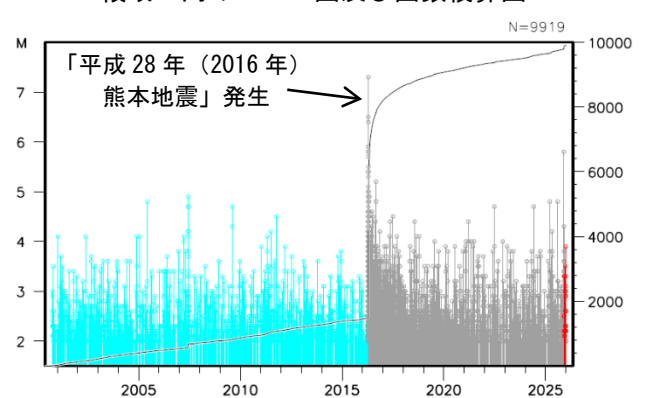
2000年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近（領域a）では、2016年4月16日03時03分にM5.9の地震（深さ7km、最大震度5強）が発生している。

なお、領域bでは「平成28年（2016年）熊本地震」が発生し、熊本県で死者275人、大分県で死者3人などの被害が生じた（熊本県の被害は2025年4月11日現在、熊本県による、その他は2019年4月12日現在、総務省消防庁による）。

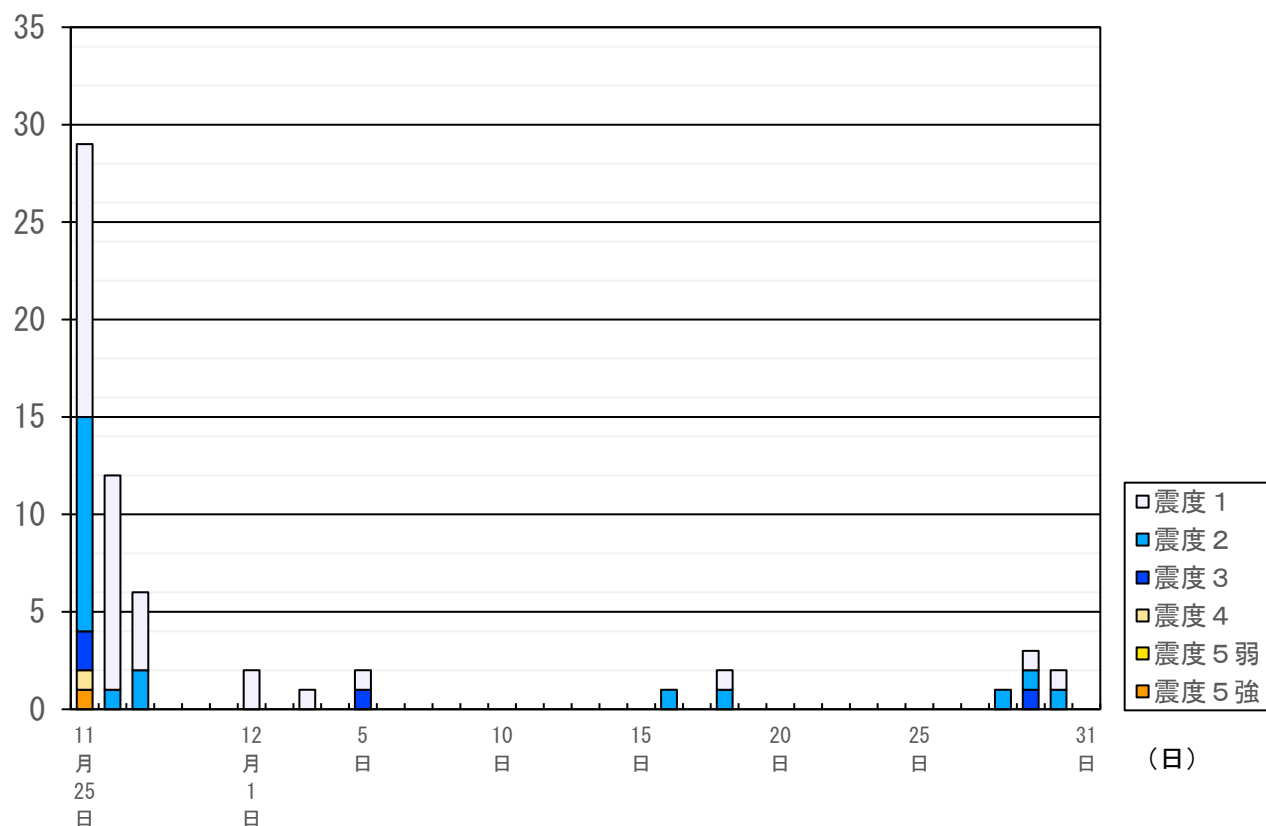
領域a内のM-T図及び回数積算図



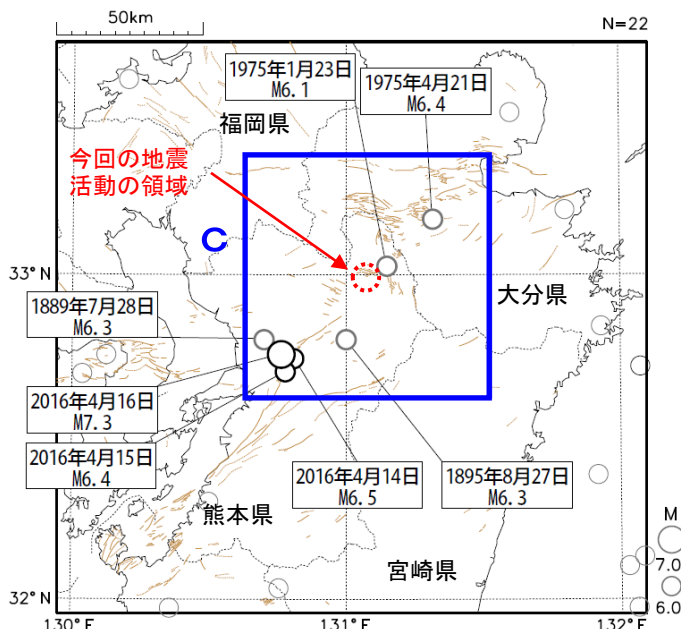
領域b内のM-T図及び回数積算図



最大震度別地震回数（日別）
 (2025 年 11 月 25 日 18 時～12 月 31 日 24 時、震度 1 以上の地震)



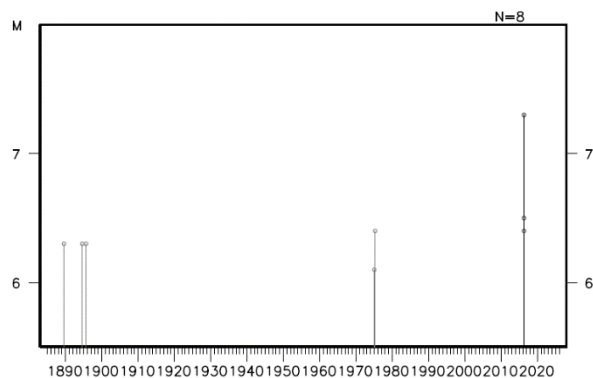
震央分布図
 (1885 年 1 月 1 日～2025 年 12 月 31 日、
 深さ 0 ～50km、 $M \geq 6.0$)
 2016 年 4 月 14 日 21 時より前に発生した地震を灰色○、
 2016 年 4 月 14 日 21 時以降に発生した地震を黒色○で表示



図中の茶色の線は地震調査研究推進本部の
 長期評価による活断層を示す
 (震源要素は、1885 年～1918 年は茅野・宇津
 (2001)、宇津 (1982, 1985) による*)

1885年以降の活動をみると、今回の地震活動の震央周辺（領域c）では、 $M6.0$ 以上の地震が8回発生している。このうち、1889年7月28日には $M6.3$ の地震が発生し、熊本県で死者19人、家屋全倒234棟などの被害が生じた。また、1975年4月21日には $M6.4$ の地震が発生し、大分県で負傷者22人、家屋全壊58棟などの被害が生じた(被害はいずれも「日本被害地震総覧」による)。

領域 c 内の M-T 図

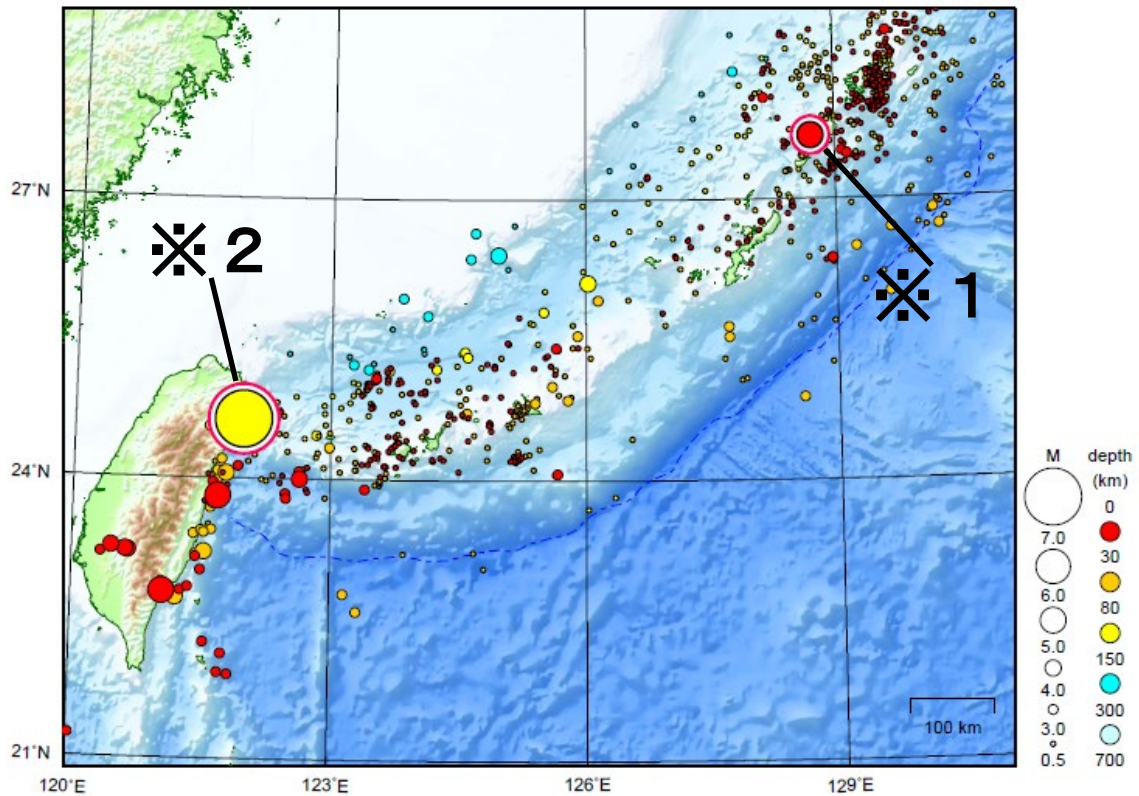


※宇津徳治 (1982) : 日本付近の $M6.0$ 以上の地震および被害地震の表 : 1885 年～1980 年, 震研彙報, 56, 401-463.
 宇津徳治 (1985) : 日本付近の $M6.0$ 以上の地震および被害地震の表 : 1885 年～1980 年 (訂正と追加), 震研彙報, 60, 639-642.

沖縄地方

2025/12/01 00:00 ~ 2025/12/31 24:00

N=1204



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った地震活動はなかった。

※1 で示した地震については九州地方の資料を参照。

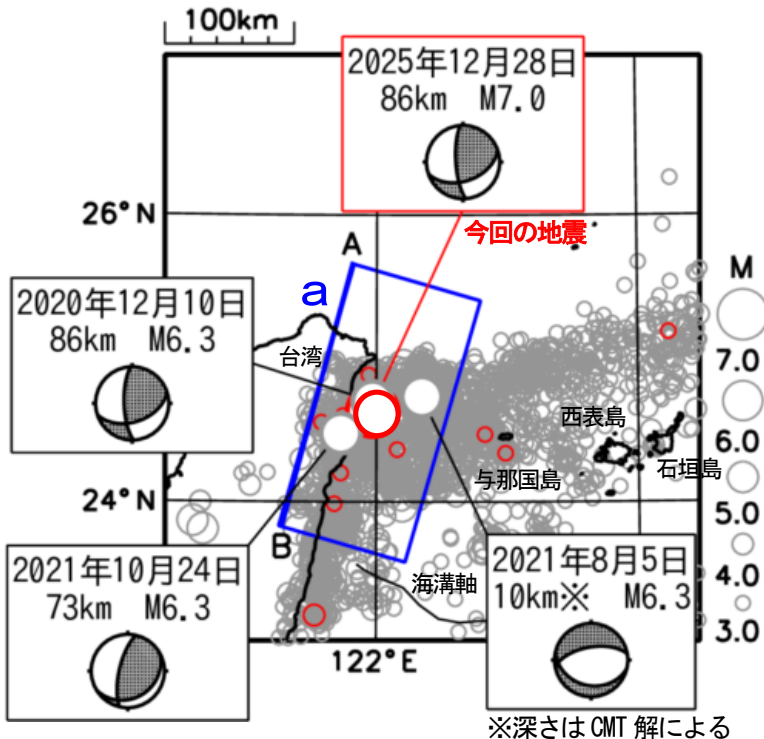
※2 で示した地震についてはその他の地域の資料を参照。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

12月28日 台湾付近の地震

震央分布図

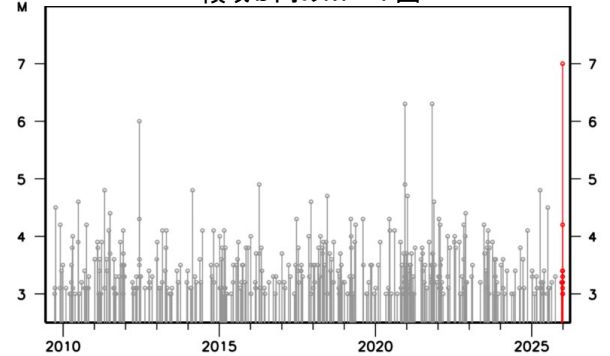
(2009年9月1日～2025年12月31日、
深さ40～150km、 $M \geq 3.0$)
2025年12月の地震を赤く表示
図中の発震機構はCMT解



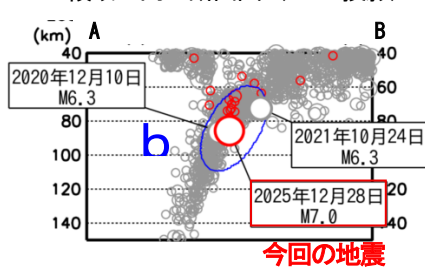
2025年12月28日00時05分に台湾付近の深さ86kmでM7.0の地震（日本国内で観測された最大の揺れは震度3）が発生した。この地震はフィリピン海プレート内部で発生した。発震機構（CMT解）は、西北西－東南東方向に圧力軸を持つ型であった。

2009年9月以降の活動をみると、この地震の震源付近（領域b）では、2020年12月10日にM6.3の地震（日本国内で最大震度2）が発生するなど、M5.0以上の地震が時々発生している。

領域b内のM-T図

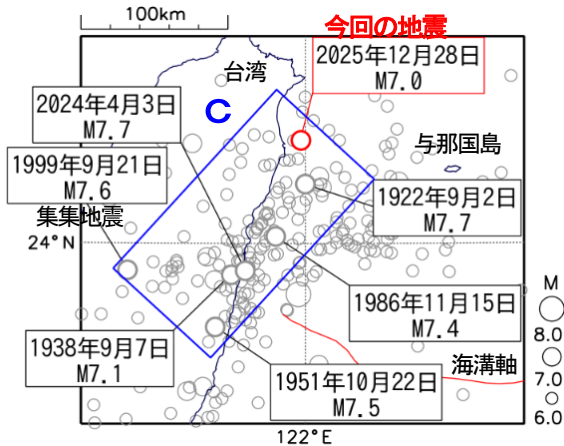


領域a内の断面図（A-B投影）



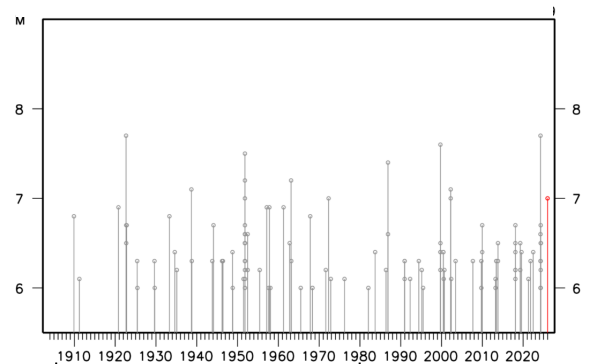
震央分布図

(1904年1月1日～2025年12月31日、
深さ0～100km、 $M \geq 6.0$)
2025年12月以降の地震を赤く表示



2020年までの震源要素はISC-GEM、2021年以降の地震の震源要素は気象庁による。

領域c内のM-T図



この期間は検知能力が低い

1904年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、過去にM7.0以上の地震が時々発生している。1986年11月15日にM7.4の地震（日本国内で観測された最大の揺れは震度3）により、宮古島平良で30cm（平常潮位からの最大の高さ）の津波を観測し、台湾では死者13人、負傷者45人などの被害があった（被害は、宇津の「世界の被害地震の表」による）。

https://www.jishin.go.jp/main/chousa/kaikou_pdf/hyuganada_2.pdf より抜粋、一部加筆

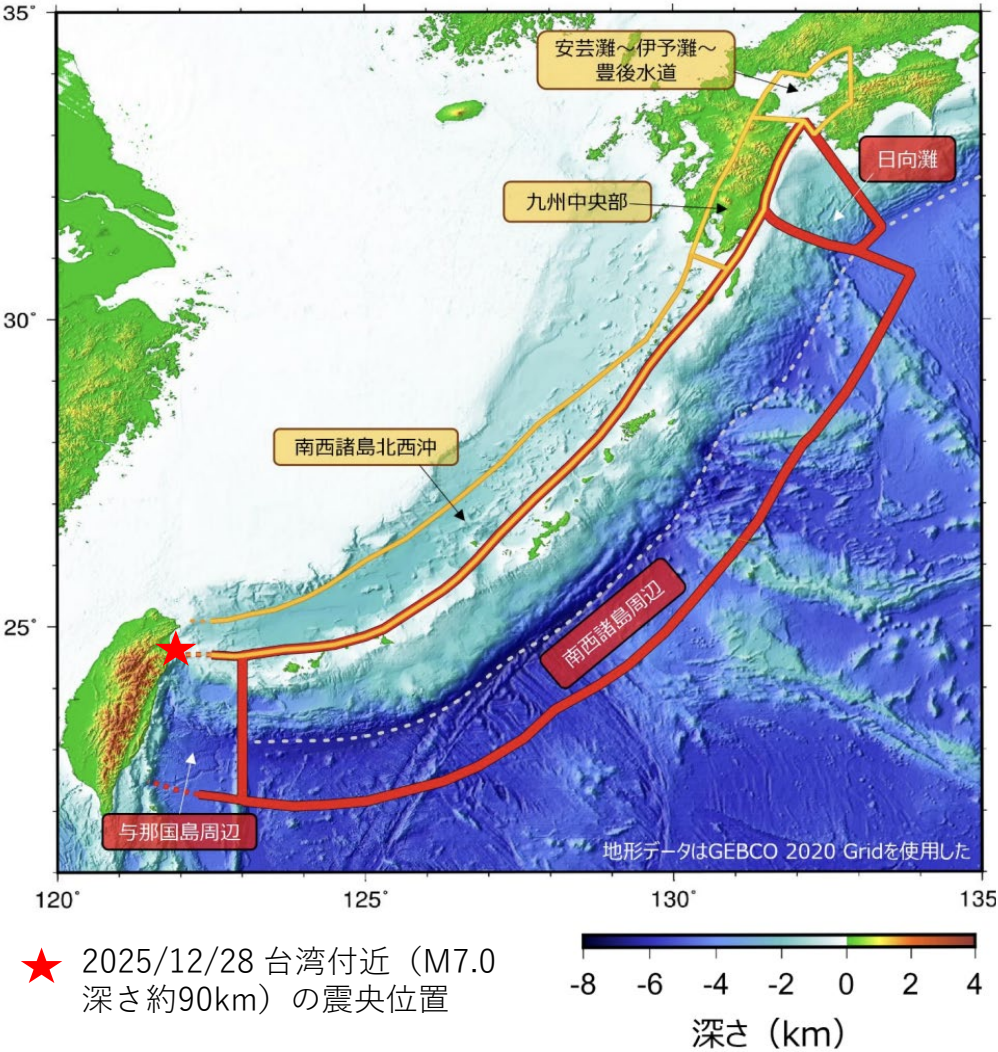


図1 評価対象領域
赤枠の領域ではプレート間地震及びプレート内地震を区別せずに評価。黄枠の領域では沈み込んだプレート内のやや深い地震を評価。白色の破線はIwasaki et al. (2015) による海溝軸。地形はGEBCO Compilation Group (2020) による。

領域または地震名	長期評価で予想した地震規模（マグニチュード）	我が国の海溝型地震の相対的評価（注9）		地震発生確率（注1）			地震後経過率（注2）	平均発生間隔（注1）
		ランク	色	10年以内	30年以内	50年以内		最新発生時期（注13）
日向灘及び南西諸島海溝周辺の地震（第二版）	日向灘の巨大地震（注10）	8程度	Xランク	—	—	—	—	—
	日向灘のひとまわり小さい地震	7.0〜7.5程度	Ⅲランク	40%程度	80%程度	90%程度	—	20.6年
	安芸灘〜伊予灘〜豊後水道の沈み込んだプレート内のやや深い地震	6.7〜7.4程度	Ⅲランク	20%程度	40%程度	60%程度	—	60.3年
	九州中央部の沈み込んだプレート内のやや深い地震	7.0〜7.5程度	Xランク	—	—	—	—	—
	南西諸島周辺及び与那国島周辺の巨大地震	8.0程度	Xランク	—	—	—	—	—
	南西諸島周辺のひとまわり小さい地震	7.0〜7.5程度	Xランク	—（注11）	—（注11）	—（注11）	—	25.8年（参考）（注11）
	与那国島周辺のひとまわり小さい地震	7.0〜7.5程度	Ⅲランク	70%程度	90%程度以上	90%程度以上	—	8.6年
	南西諸島北西沖の沈み込んだプレート内のやや深い地震	7.0〜7.5程度	Ⅲランク	30%程度	60%程度	80%程度	—	34.3年
	1771年八重山地震津波タイプ	Mt8.5程度（注9）	地震発生確率を評価しない（注12）					

今までに公表した活断層及び海溝型地震の長期評価結果一覧
<https://www.jishin.go.jp/main/choukihyoka/ichiran.pdf> より抜粋、一部加筆

日向灘及び南西諸島海溝周辺の地震活動の長期評価（第二版）

https://www.jishin.go.jp/main/chousa/kaikou_pdf/hyuganada_2.pdf より抜粋、一部加筆

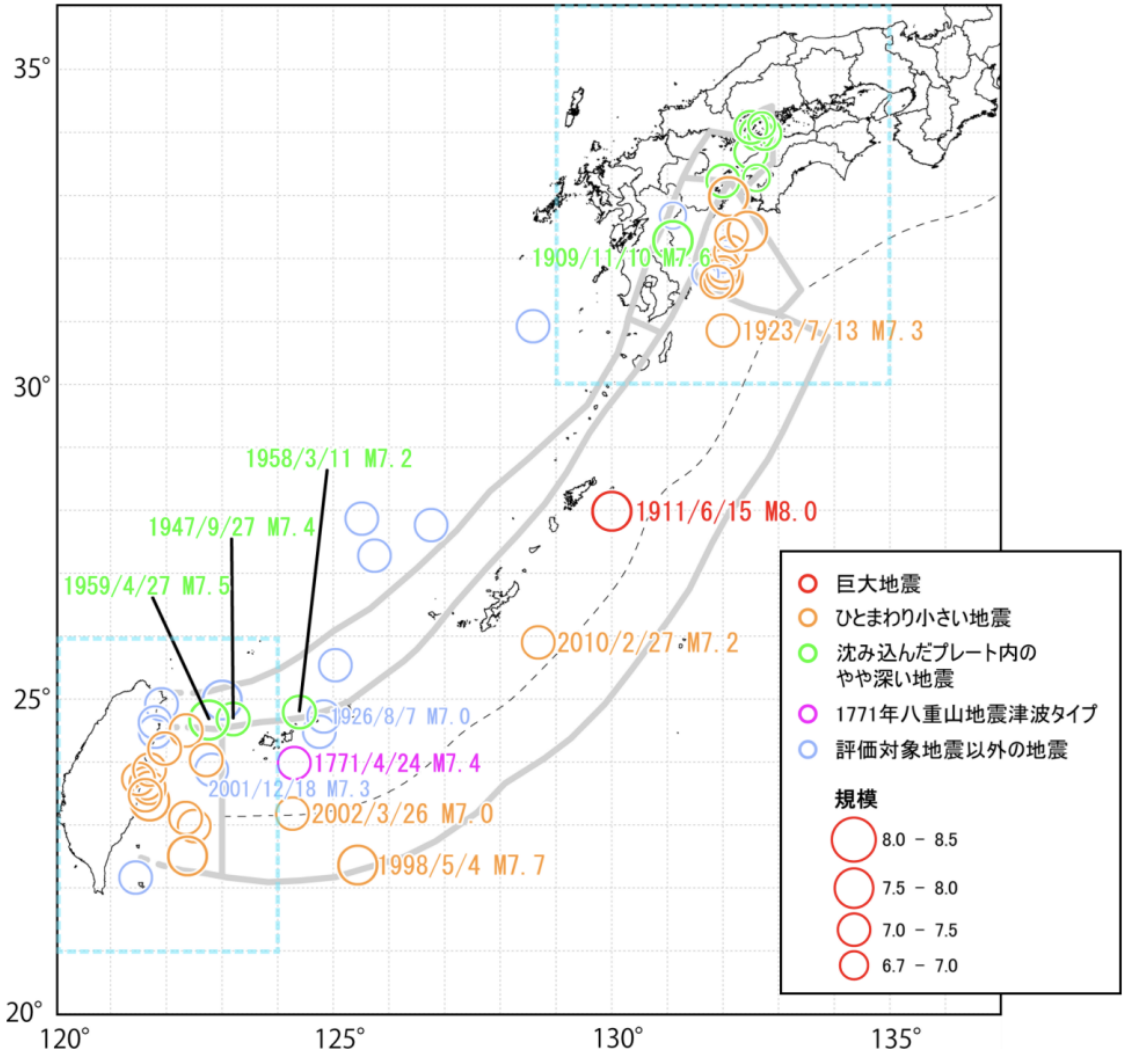


図3-1 日向灘及び南西諸島海溝周辺で発生した地震の震央分布
日向灘周辺はM6.7以上、それ以外の地域はM7.0以上を描画。震央と規模については、1919年より前は宇佐美・他（2013）、宇津（1999）、1919年以降は気象庁震源カタログによる。図中の点線は図3-2、3-3の描画範囲。

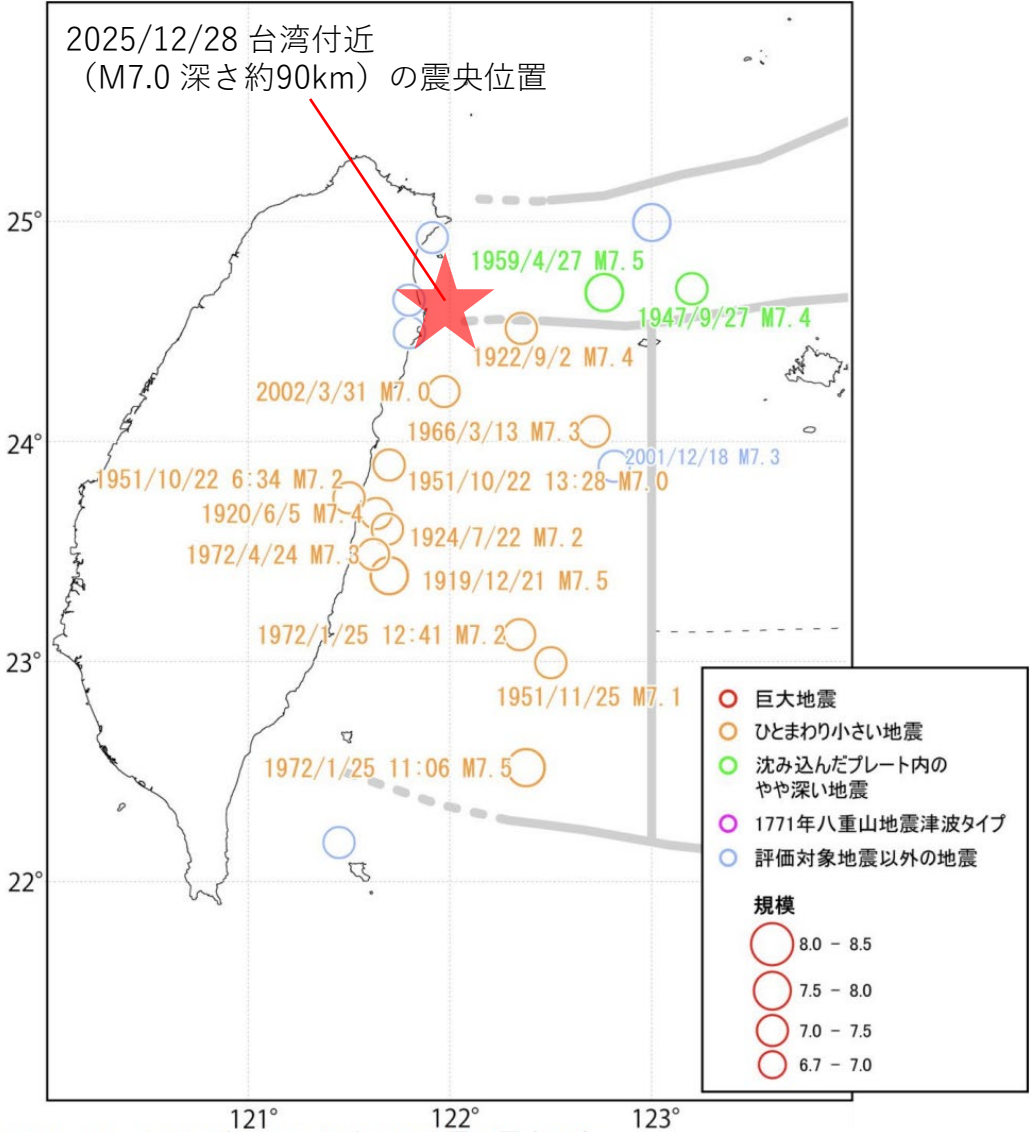


図3-3 与那国島周辺で発生した地震の震央分布
M7.0以上を描画。震央と規模については気象庁震源カタログによる。